
東広島市 福祉に関するアンケート調査

－ 報告書（18 歳以上） －

令和5（2023）年3月
広島県 東広島市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	3
1 年齢	3
2 所持手帳の種類	4
3 各種診断や認定の状況	6
III 調査結果	7
【1】障害福祉サービスの利用について	7
1 障害福祉サービスの利用状況や利用意向	7
2 サービスに対する不満	12
3 サービスを利用しやすくするために必要なこと	14
【2】住まいや暮らしについて	16
1 現在の生活の場	16
2 今後希望する暮らし方	17
3 外出時に困ること	19
4 主な介助者	22
5 介助者の年齢や健康状態	24
6 介助者がいなくなった場合に必要な支援	26
7 地域で安心して暮らすために必要な支援	28
【3】住まいや暮らしについて	30
1 不安や悩み	30
2 困ったときの相談先	33
3 相談先に望むこと	36
4 相談支援専門員の認知	38
5 ピアサポート活動への参加意向	39
6 他の障害のある人のために手助けできること	40
【4】地域での暮らしについて	42
1 地域の行事や活動への参加状況	42
2 近所の人との付き合い程度	45
3 近所で助けてくれる人の有無	46
4 避難所の認知	48
5 災害時に必要な対策	49
【5】障害のある人への理解について	51
1 差別や嫌な思いをした経験	51
2 障害に対する周りの人の理解	52
3 条例の認知	53
4 条例の認知経路	54
5 コミュニケーションをとるときに困ること	55

6 成年後見制度の認知-----	57
7 成年後見制度の認知経路-----	58
8 成年後見制度の利用意向-----	61
9 成年後見制度を利用したいと思わない理由 -----	62
【6】就労や日中の活動について -----	65
1 就労状況 -----	65
2 一般就労への希望-----	66
3 就労継続意向 -----	67
4 仕事をするうえでの不安や不満-----	68
5 働きやすくなるために必要なこと-----	70
6 農福連携の認知 -----	72
7 農業への関心度 -----	73
【7】東広島市の福祉施策について -----	74
1 市が力を入れるべき取組-----	74
2 障害の表記について-----	76
3 ふさわしいと思う障害の表記-----	77
資料 調査票-----	78

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「東広島市障害者計画」等の策定に当たって、障害者手帳所持者等における、障害の状況、住まいや暮らし、保健・医療、就労などについての現状やニーズ等を把握することを目的として実施した。

【調査対象】

市内に住所を有する 18 歳以上の障害者手帳所持者及び福祉サービス利用者

【調査方法】

郵送配布～郵送回収

【調査期間】

令和 5（2023）年 2 月

【回収結果】

配布数 ----- 1,500 件

有効回収数 ----- 771 件

有効回収率 ----- 51.4%

◆手帳種類別回収状況◆（数値部分上段は構成比%、下段は回答件数）

サンプル数	身体障害者手帳						療育手帳				精神障害者 保健福祉手帳			手帳は持っていない	無回答
	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	㊤	A	㊦	B	1 級	2 級	3 級		
100.0	23.0	12.1	15.7	11.4	4.5	3.4	4.4	5.1	3.5	5.1	0.8	10.8	7.3	0.3	1.7
771	177	93	121	88	35	26	34	39	27	39	6	83	56	2	13

注：問4①回答結果より

◆居住地域別回収状況◆（数値部分上段は構成比%、下段は回答件数）

サンプル数	西条	八本松	志和	高屋	黒瀬	福富	豊栄	河内	安芸津	その他	無回答
100.0	33.9	14.7	3.2	21.0	13.5	1.3	1.6	3.6	5.7	0.9	0.6
771	261	113	25	162	104	10	12	28	44	7	5

注：問3回答結果より

◆記入者について◆（数値部分上段は構成比％、下段は回答件数）

サンプル数	本人 （調査票が郵送 された宛名の方）	本人の家族	家族以外の 介助者	無回答
100.0	60.4	24.6	1.8	13.1
771	466	190	14	101

注：問1回答結果より

【報告書の見方について】

- （１）集計は小数点以下第２位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- （２）２つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。
- （３）数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- （４）図表中における障害区分別や年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、障害区分別でクロス集計する場合における障害区分の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- （５）図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- （６）本報告書の図表や文章では、療育手帳の等級について次のように略記している。
療育手帳「**Ⓐ**」→「○A」、「**Ⓑ**」→「○B」
- （７）この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

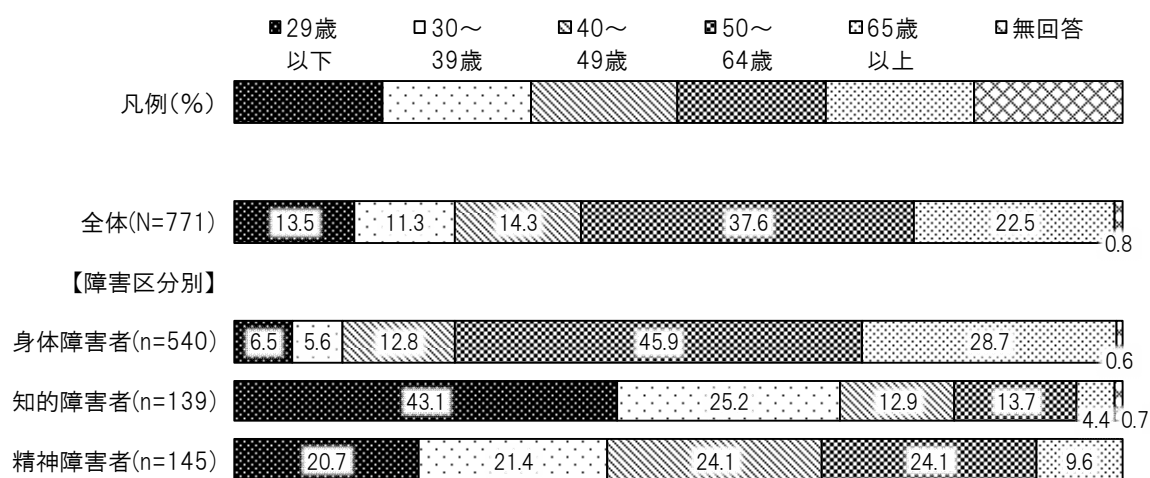
Ⅱ 回答者の属性

1 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。（○は1つ）

年齢別構成は、「50～64 歳」が 37.6%と最も高く、次いで「65 歳以上」（22.5%）、「40～49 歳」（14.3%）の順となっており、『50 歳以上』は合計で6割（60.1%）を占めている。

障害区分別では、身体障害者で「50～64 歳」「65 歳以上」、知的障害者で「29 歳以下」、精神障害者で「40～49 歳」の割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。

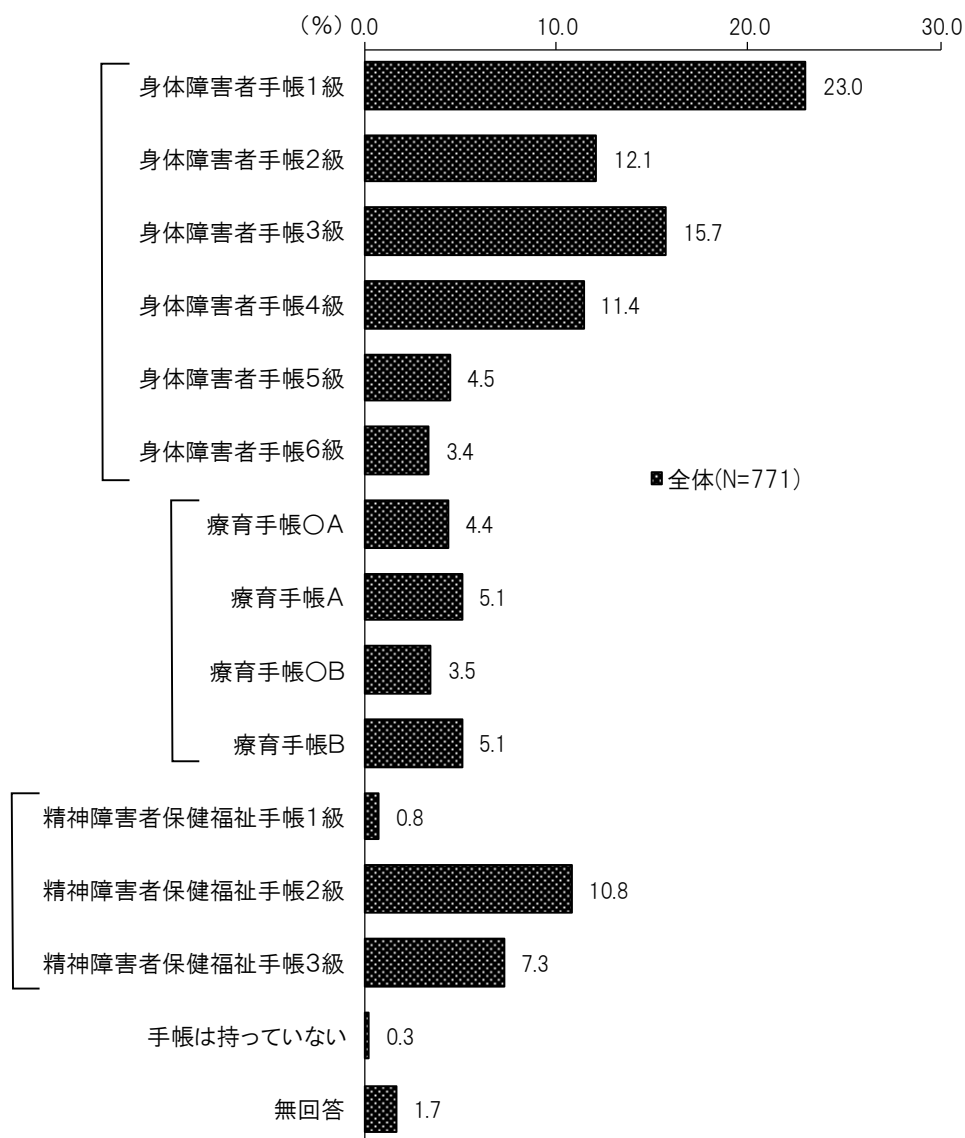


2 所持手帳の種類

問4 あなたは①次の手帳をお持ちですか。②身体障害者手帳をお持ちの場合は、手帳に書かれている障害名もお答えください。（あてはまるものすべてに○）

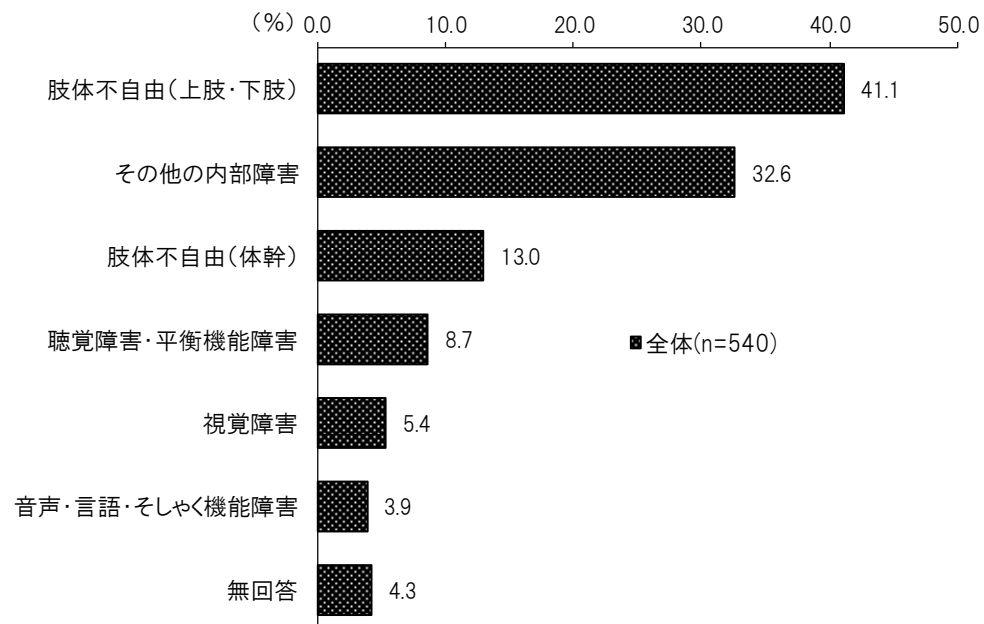
① 所持手帳の種類

所持手帳を種類別でみると、身体障害者手帳は「1級」の割合が23.0%と最も高く、次いで「3級」（15.7%）が続いている。また、療育手帳では「A」「B」（各5.1%）、精神障害者保健福祉手帳では「2級」（10.8%）の割合がそれぞれ高くなっている。



② 身体障害者における障害の種類

身体障害者手帳所持者においては、「肢体不自由（上肢・下肢）」の割合が41.1%と最も高く、次いで「その他の内部障害」（32.6%）、「肢体不自由（体幹）」（13.0%）、「聴覚障害・平衡機能障害」（8.7%）の順となっている。



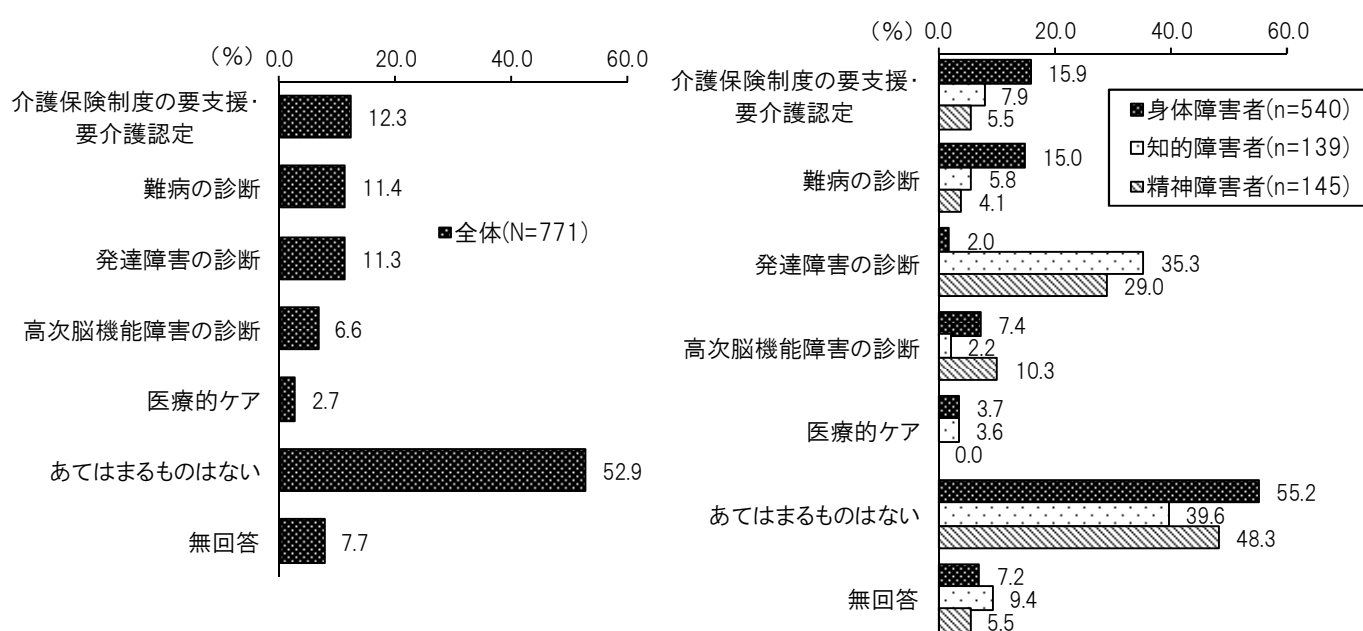
3 各種診断や認定の状況

問5 あなたは、次にあげる項目について、医師からの診断や認定を受けていますか。
(あてはまるものすべてに○)

各種診断や認定の状況については、「介護保険制度の要支援・要介護認定」の割合が12.3%と最も高く、次いで「難病の診断」(11.4%)、「発達障害の診断」(11.3%)が続いている。

障害区分別では、身体障害者で「介護保険制度の要支援・要介護認定」「難病の診断」、知的障害者や精神障害者で「発達障害の診断」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

年齢別では、29歳以下で「発達障害の診断」、65歳以上で「介護保険制度の要支援・要介護認定」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。



単位 (%)	介護保険制度の要支援・要介護認定	難病の診断	発達障害の診断	高次脳機能障害の診断	医療的ケア	あてはまるものはない
全体(N=771)	12.3	11.4	11.3	6.6	2.7	52.9
【年齢別】						
29歳以下(n=104)	4.8	7.7	44.2	1.0	2.9	38.5
30代(n=87)	5.7	4.6	27.6	3.4	0.0	59.8
40代(n=110)	7.3	12.7	7.3	6.4	2.7	56.4
50～64歳(n=290)	12.4	15.9	2.4	10.7	3.4	53.8
65歳以上(n=174)	23.6	8.6	0.0	4.6	2.9	55.2

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(障害区分別や年齢別など)において最も高い割合を示している。
但し、回答割合が10%未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

Ⅲ 調査結果

【1】障害福祉サービスの利用について

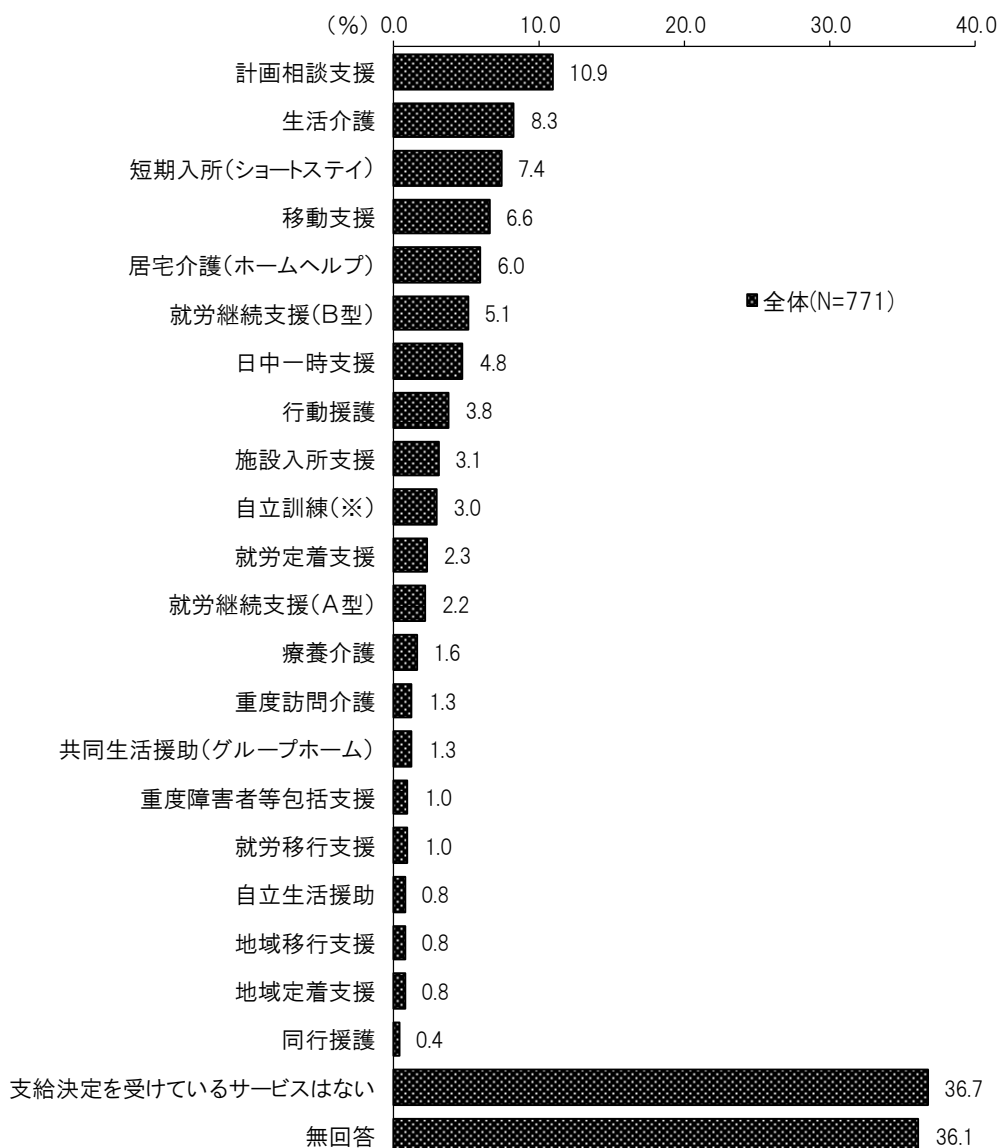
1 障害福祉サービスの利用状況や利用意向

問6 あなたが、現在支給決定を受けて利用している障害福祉サービスについておたずねします。

- ① 現在、支給決定を受けて利用しているサービスをすべてお答えください。
- ② あなたが支給決定を受けていないサービスのうち、今後新たに利用したいサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

① 利用しているサービス

利用しているサービスについては、「計画相談支援」の割合が10.9%と最も高く、次いで「生活介護」(8.3%)、「短期入所（ショートステイ）」(7.4%)、「移動支援」(6.6%)、「居宅介護（ホームヘルプ）」(6.0%)の順となっている。



※自立訓練(機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)

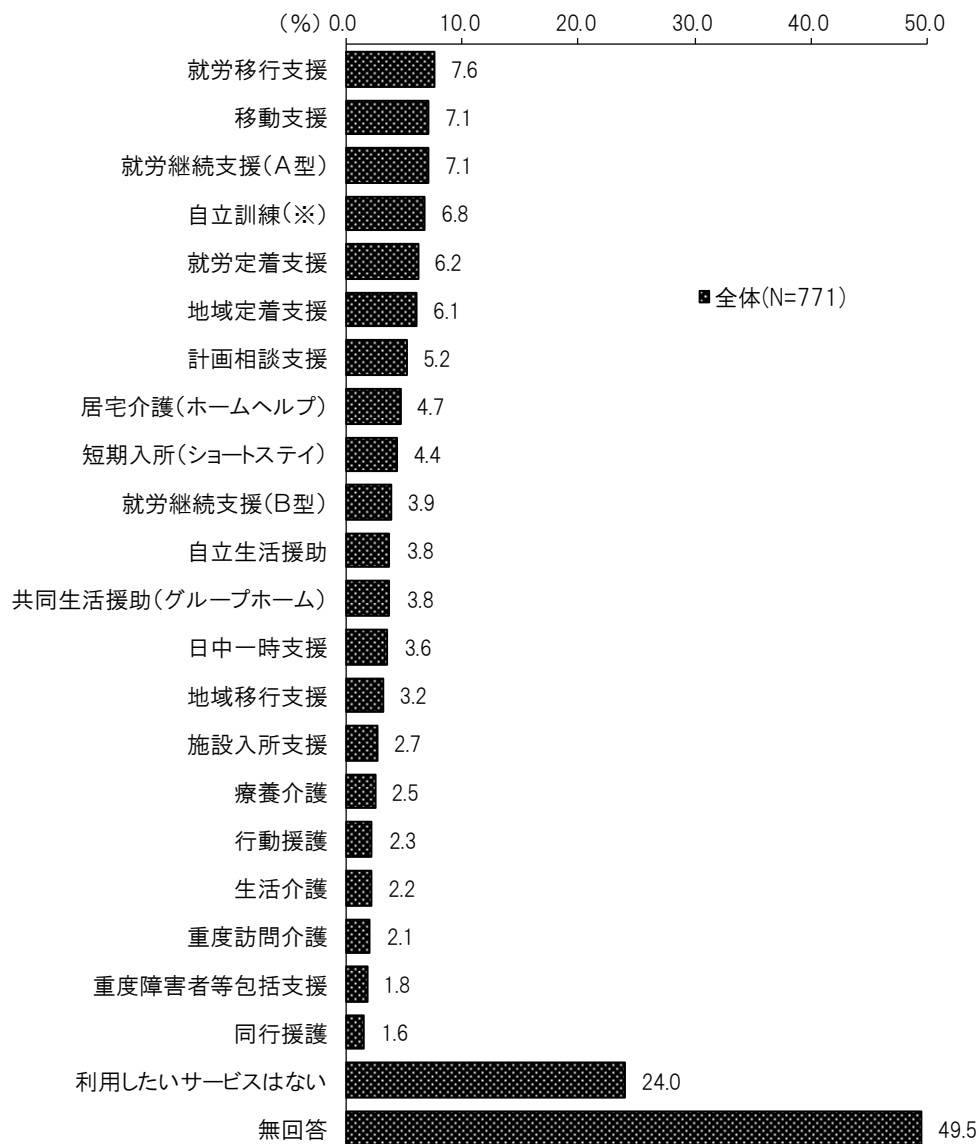
障害区分別では、知的障害者で「計画相談支援」「生活介護」「短期入所（ショートステイ）」「移動支援」などの割合が他の障害を大きく上回っている。

単位（％）	計画相談支援	生活介護	短期入所（ショートステイ）	移動支援	居宅介護（ホームヘルプ）	就労継続支援（B型）	日中一時支援	行動援護	施設入所支援	自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）	就労定着支援
全体(N=771)	10.9	8.3	7.4	6.6	6.0	5.1	4.8	3.8	3.1	3.0	2.3
【障害区分別】											
身体障害者(n=540)	9.4	8.7	7.0	5.4	6.9	2.4	3.5	2.4	3.7	3.7	0.9
知的障害者(n=139)	30.9	25.9	25.9	23.7	12.9	12.9	22.3	17.3	9.4	2.9	3.6
精神障害者(n=145)	10.3	3.4	3.4	2.1	2.8	9.7	1.4	2.1	0.7	1.4	6.9

単位（％）	就労継続支援（A型）	療養介護	重度訪問介護	共同生活援助（グループホーム）	重度障害者等包括支援	就労移行支援	自立生活援助	地域移行支援	地域定着支援	同行援護	支給決定を受けているサービスはない
全体(N=771)	2.2	1.6	1.3	1.3	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.4	36.7
【障害区分別】											
身体障害者(n=540)	0.9	2.2	1.7	0.4	1.3	0.4	0.7	0.6	0.7	0.6	42.8
知的障害者(n=139)	6.5	2.2	0.7	4.3	0.0	3.6	0.7	0.0	0.0	1.4	7.9
精神障害者(n=145)	4.1	0.7	0.0	1.4	0.7	1.4	0.7	1.4	0.7	0.0	27.6

② 今後新たに利用したいサービス

今後新たに利用したいサービスについては、「就労移行支援」が7.6%と最も高く、次いで「移動支援」「就労継続支援（A型）」（各7.1%）、「自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）」（6.8%）、「就労定着支援」（6.2%）の順となっている。



※自立訓練(機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)

注:「就労移行支援」「就労継続支援(A型)」「自立訓練」「計画相談支援」「短期入所」「施設入所支援」「生活介護」は、64歳以下(n=591)で集計した割合

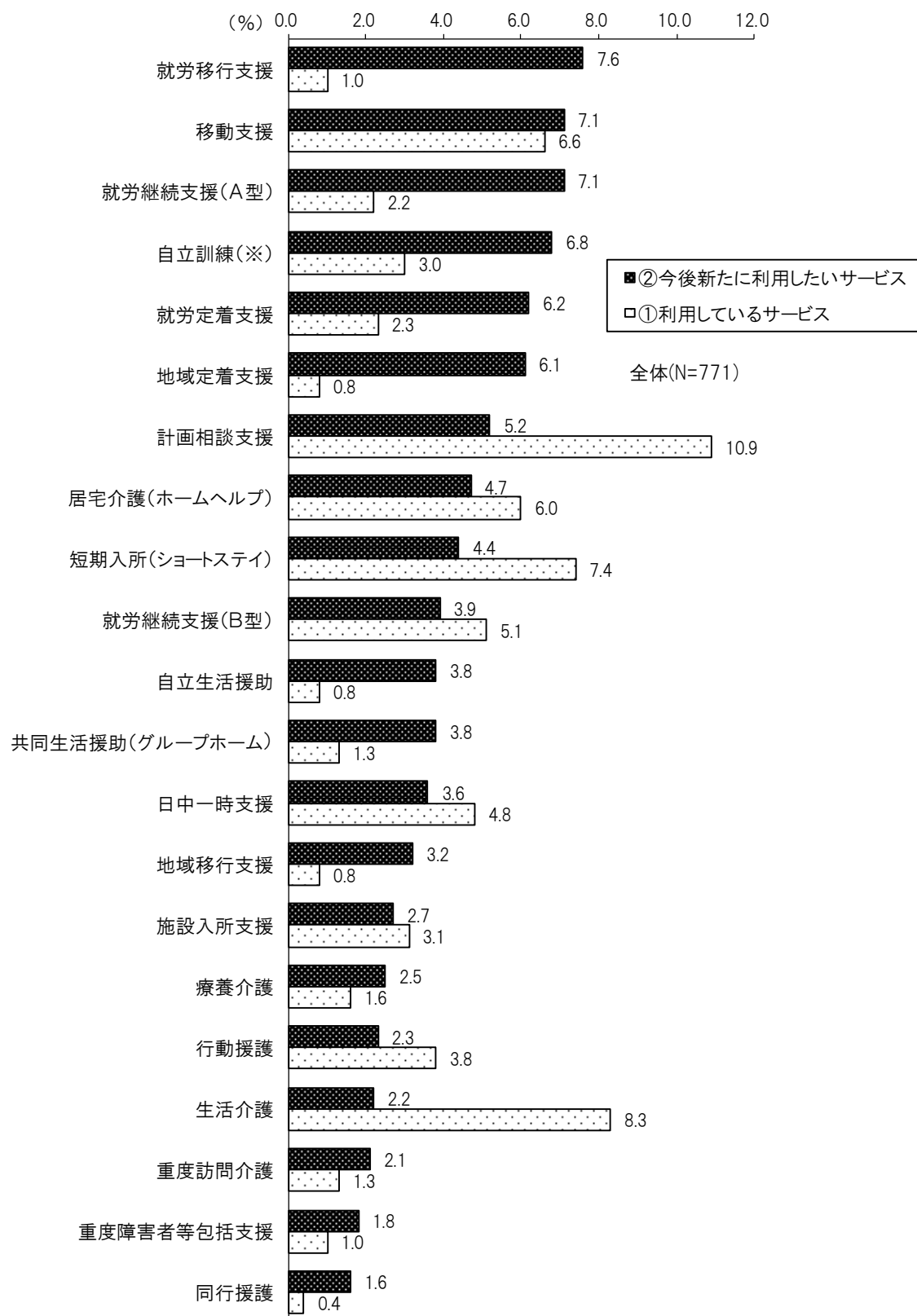
障害区分別では、身体障害者で「利用したいサービスはない」、知的障害者で「共同生活援助（グループホーム）」、精神障害者で「就労移行支援」「就労継続支援（A型）」「就労定着支援」などの割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

単位（％）	就労移行支援	移動支援	就労継続支援（A型）	自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）	就労定着支援	地域定着支援	計画相談支援	居宅介護（ホームヘルプ）	短期入所（ショートステイ）	就労継続支援（B型）	自立生活援助
全体(N=771)	7.6	7.1	7.1	6.8	6.2	6.1	5.2	4.7	4.4	3.9	3.8
【障害区分別】											
身体障害者(n=540)	3.9	6.9	5.0	4.7	3.0	5.2	4.2	4.8	2.9	2.8	1.9
知的障害者(n=139)	3.0	7.2	5.3	10.6	7.2	7.2	4.5	6.5	9.1	2.9	6.5
精神障害者(n=145)	20.6	11.0	14.5	9.9	17.9	9.7	10.7	4.1	4.6	9.0	8.3

単位（％）	△共同生活援助（グループホーム）	日中一時支援	地域移行支援	施設入所支援	療養介護	行動援護	生活介護	重度訪問介護	重度障害者等包括支援	同行援護	利用したいサービスはない
全体(N=771)	3.8	3.6	3.2	2.7	2.5	2.3	2.2	2.1	1.8	1.6	24.0
【障害区分別】											
身体障害者(n=540)	2.0	2.8	2.6	1.8	2.8	1.3	1.8	2.2	1.9	1.9	29.3
知的障害者(n=139)	11.5	7.9	5.0	7.6	2.9	7.2	5.3	2.2	1.4	0.7	6.5
精神障害者(n=145)	6.2	4.1	4.1	1.5	2.1	4.8	3.1	1.4	2.8	1.4	11.0

注：「就労移行支援」「就労継続支援（A型）」「自立訓練」「計画相談支援」「短期入所」「施設入所支援」「生活介護」は、64歳以下(n=591)で集計した割合

【再掲／①利用しているサービスと②今後新たに利用したいサービスの比較】



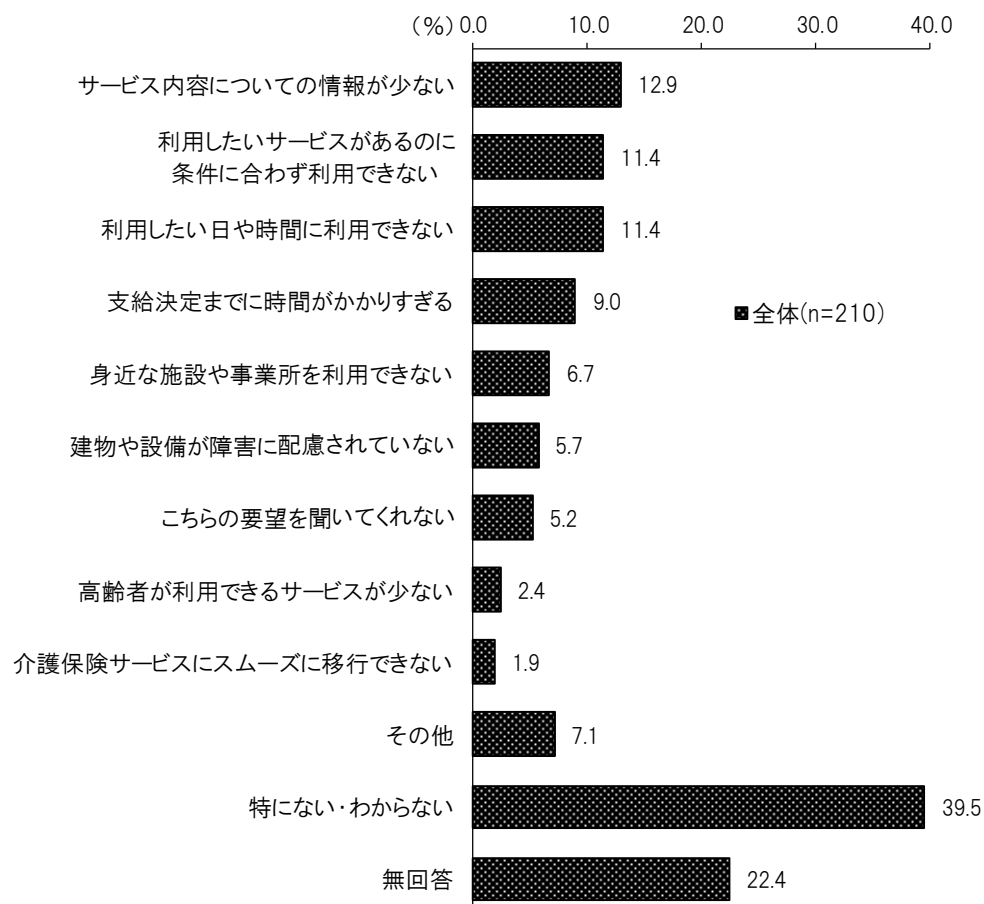
※自立訓練(機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)

2 サービスに対する不満

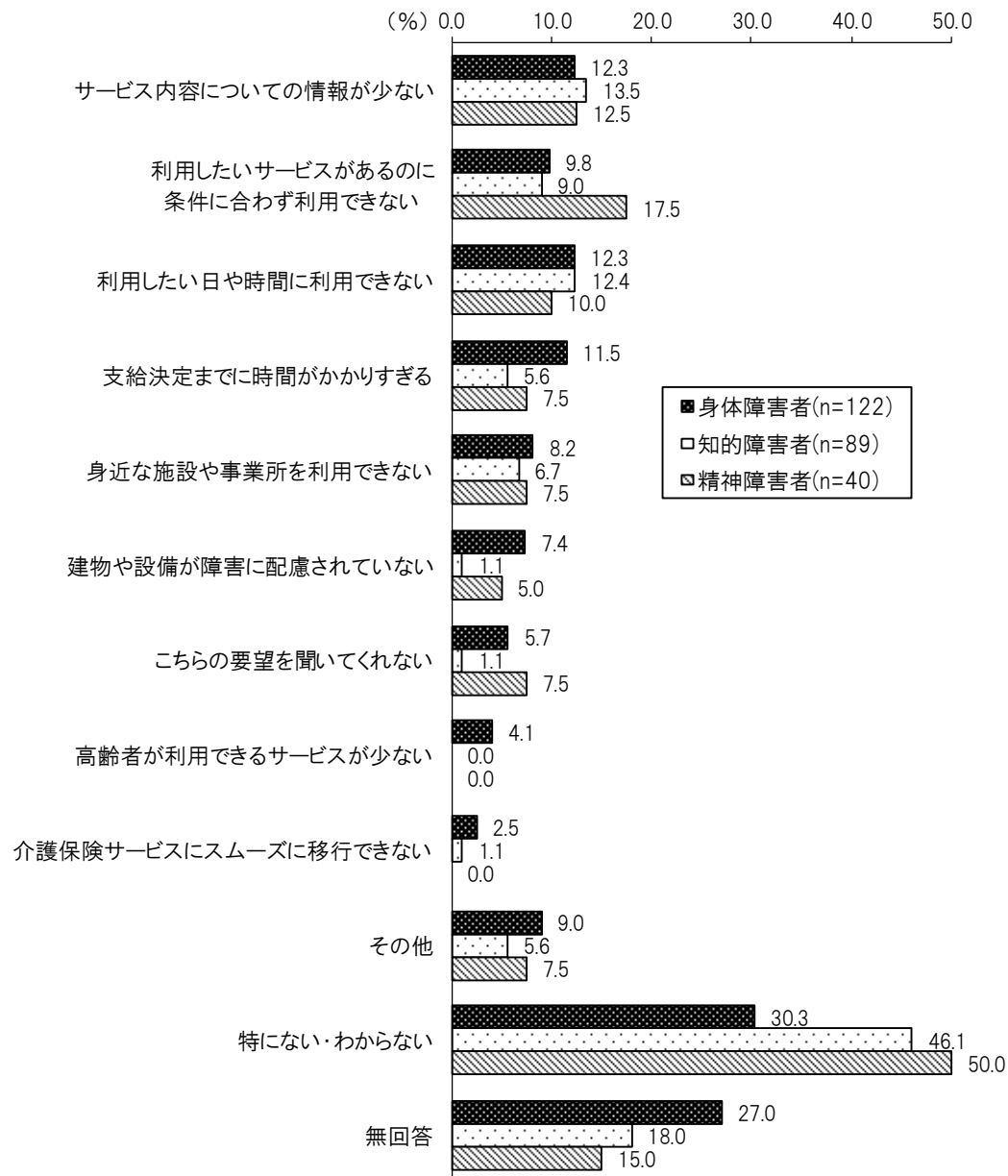
【問6①で「1～21（利用している）」を選んだ方におたずねします。】

問7 あなたは、利用したことがある障害福祉サービスに対して、不満に思うことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

サービスに対する不満については、「サービス内容についての情報が少ない」の割合が12.9%と最も高く、次いで「利用したいサービスがあるのに条件に合わず利用できない」「利用したい日や時間に利用できない」（各11.4%）、「支給決定までに時間がかかりすぎる」（9.0%）の順となっている。



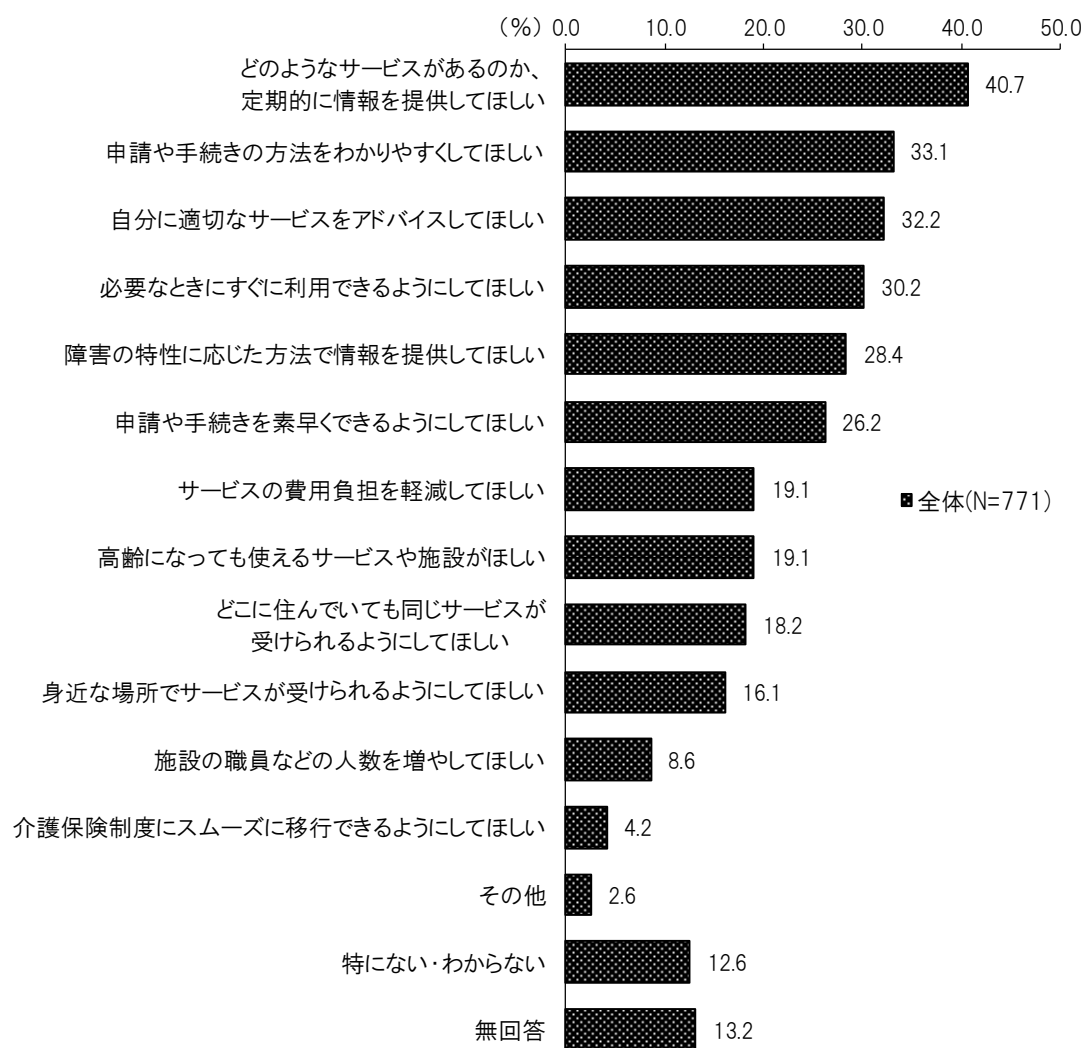
障害区分別では、身体障害者で「支給決定までに時間がかかりすぎる」、精神障害者で「利用したいサービスがあるのに条件に合わず利用できない」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



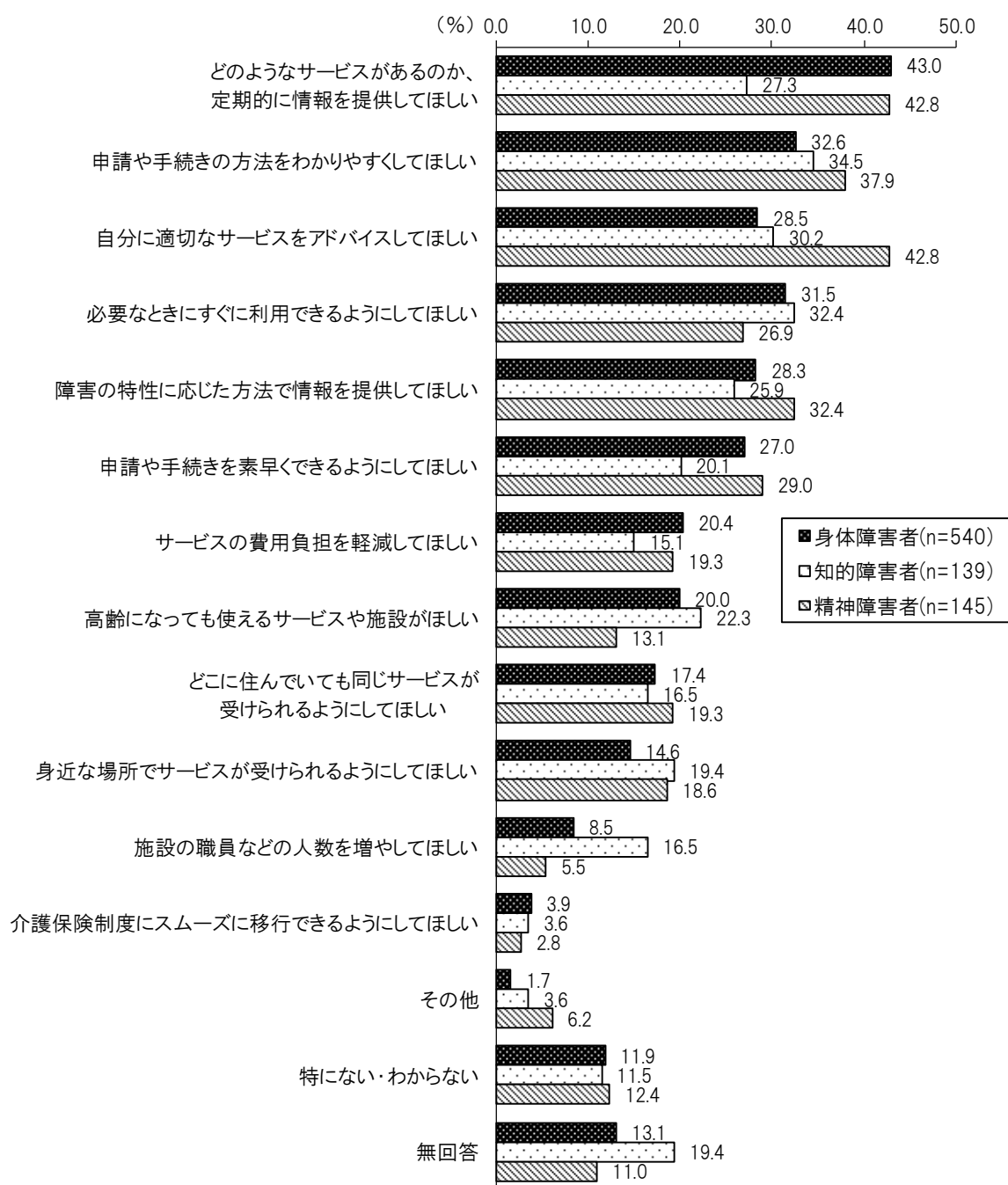
3 サービスを利用しやすくするために必要なこと

問8 今後、障害福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが最も必要だと思う項目を、上位5つまで選んでください。
(○は5つまで)

サービスを利用しやすくするために必要なことについては、「どのようなサービスがあるのか、定期的に情報を提供してほしい」の割合が40.7%と最も高く、次いで「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」(33.1%)、「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」(32.2%)、「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」(30.2%)の順となっている。



障害区分別では、知的障害者で「施設の職員などの人数を増やしてほしい」、精神障害者で「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



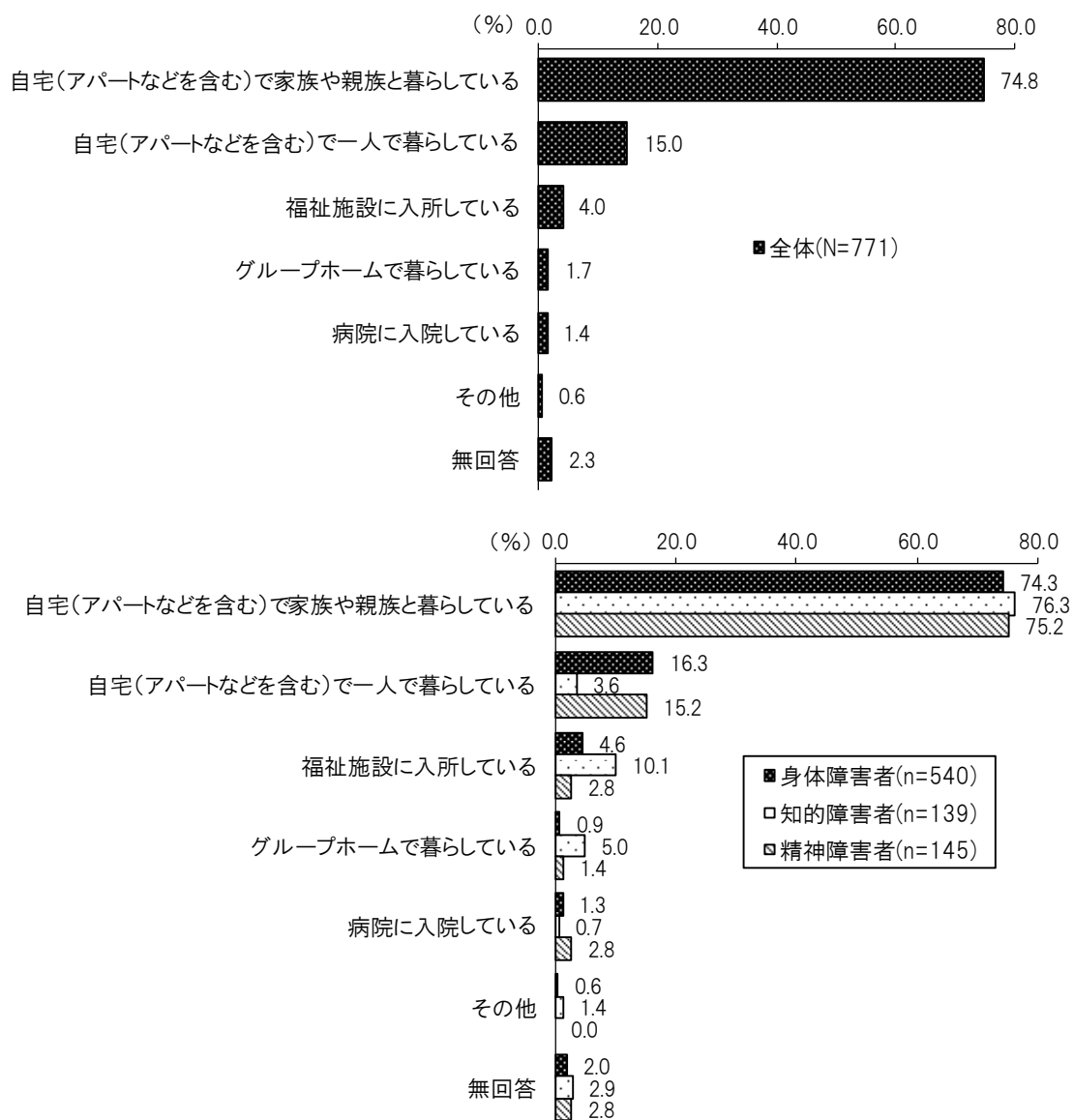
【2】住まいや暮らしについて

1 現在の生活の場

問9 あなたは現在、どのように暮らしていますか。（○は1つ）

現在の生活の場については、「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしている」の割合が74.8%と最も高く、次いで「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている」（15.0%）、「福祉施設に入所している」（4.0%）の順となっている。

障害区分別では、身体障害者や精神障害者で「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている」、知的障害者で「福祉施設に入所している」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

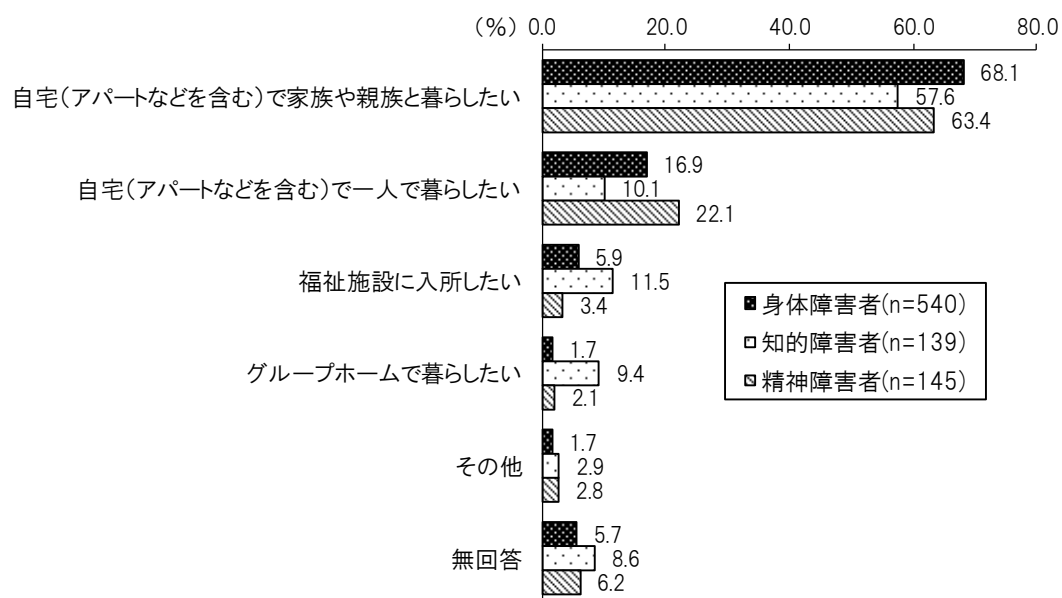
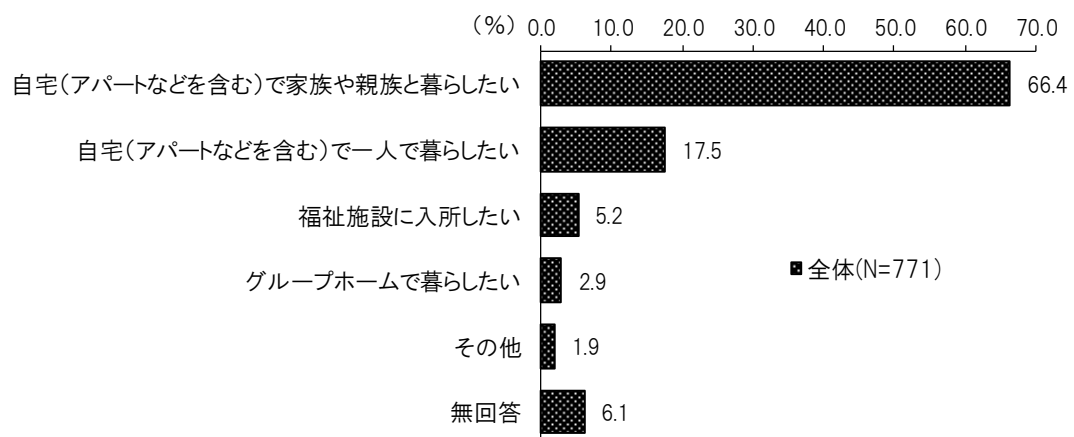


2 今後希望する暮らし方

問 10 あなたは今後、どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つ）

今後希望する暮らし方については、「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい」の割合が66.4%と最も高く、次いで「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい」（17.5%）、「福祉施設に入所したい」（5.2%）の順となっている。

障害区分別では、知的障害者で「福祉施設に入所したい」「グループホームで暮らしたい」、精神障害者で「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



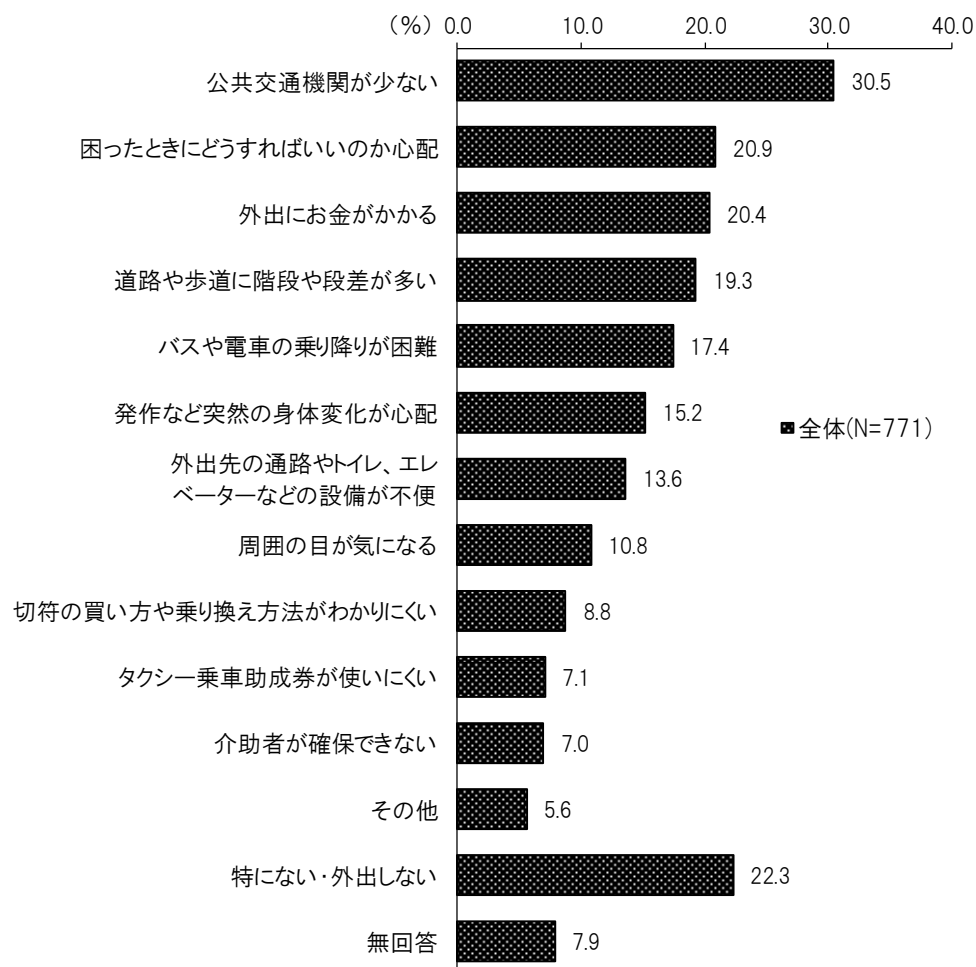
居住形態別（問9）でみると、ほとんどが現状維持を希望しているが、グループホームでは約3割が「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい」と回答している。

単位（％）	で自宅（家族や親族と暮らしたい） （アパートなどを含む）	で一人（一人暮らし） （アパートなどを含む）	福祉施設に入所したい	グループホームで暮らしたい	その他
全体(N=771)	66.4	17.5	5.2	2.9	1.9
【居住形態別】					
自宅（一人暮らし）(n=116)	14.7	69.0	6.0	1.7	2.6
自宅（家族と同居）(n=577)	83.0	8.1	3.3	2.3	0.9
グループホーム(n=13)	30.8	7.7	7.7	53.8	0.0
障害者支援施設入所(n=31)	16.1	12.9	25.8	0.0	16.1
入院中(n=11)	36.4	9.1	36.4	0.0	0.0

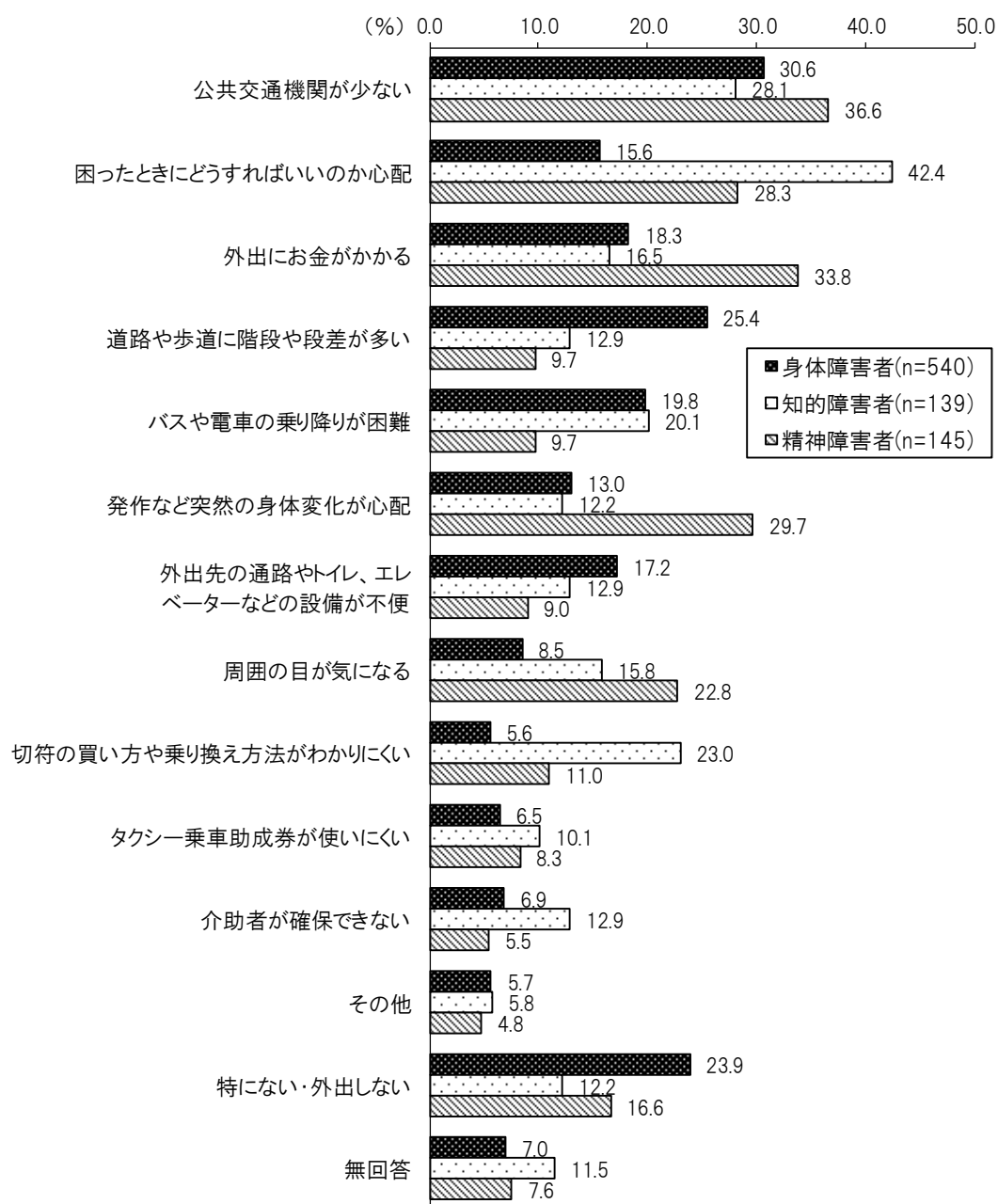
3 外出時に困ること

問 11 あなたが外出するときに、困ることや心配は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

外出時に困ることについては、「公共交通機関が少ない」の割合が 30.5%と最も高く、次いで「困ったときにどうすればいいのか心配」(20.9%)、「外出にお金がかかる」(20.4%)、「道路や歩道に階段や段差が多い」(19.3%)、「バスや電車の乗り降りが困難」(17.4%)の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「道路や歩道に階段や段差が多い」、知的障害者で「困ったときにどうすればいいのか心配」「切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい」「介助者が確保できない」、精神障害者で「外出にお金がかかる」「発作など突然の身体変化が心配」「周囲の目が気になる」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



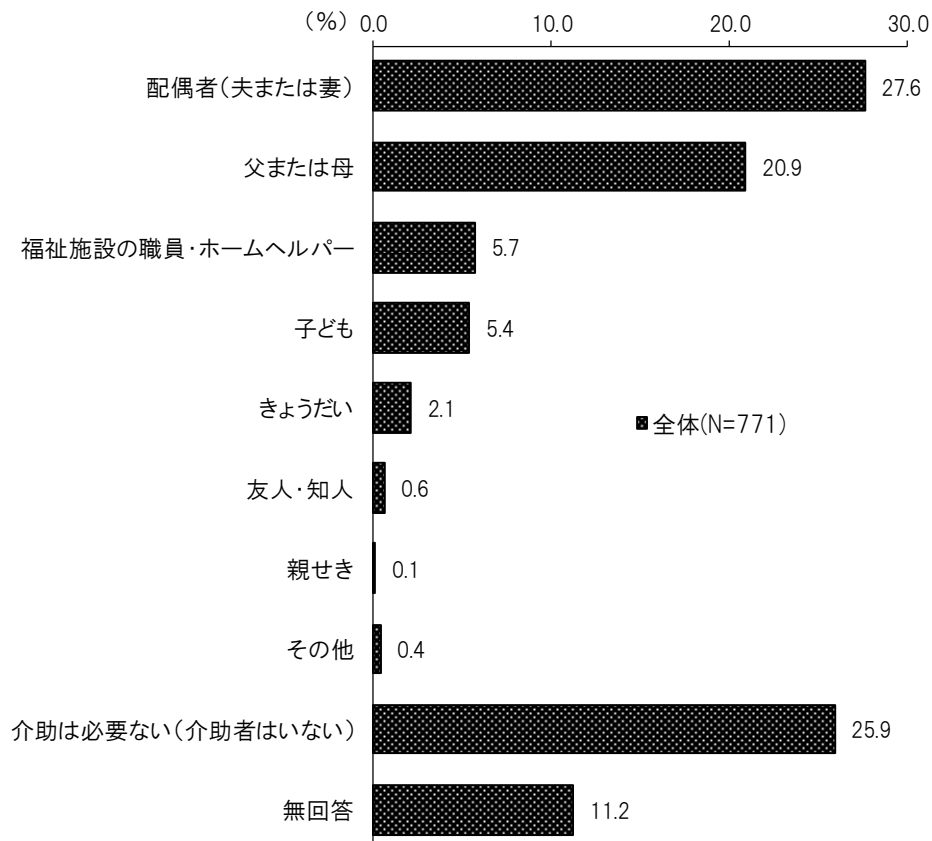
年齢別では、若い年齢層ほど「困ったときにどうすればいいのか心配」「周囲の目が気になる」「切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	公共交通機関が少ない	困ったときにどうすればいいのか心配	外出にお金がかかる	道路や歩道に階段や段差が多い	バスや電車の乗り降りが困難	発作など突然の身体変化が心配	外出先の通路やトイレ、エレベーターなどの設備が不便	周囲の目が気になる	切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい	タクシー乗車助成券が使いにくい	介助者が確保できない	その他	特にない・外出しない
全体(N=771)	30.5	20.9	20.4	19.3	17.4	15.2	13.6	10.8	8.8	7.1	7.0	5.6	22.3
【年齢別】													
29歳以下(n=104)	30.8	41.3	17.3	11.5	17.3	20.2	10.6	22.1	18.3	9.6	11.5	9.6	19.2
30代(n=87)	31.0	29.9	24.1	6.9	12.6	18.4	10.3	13.8	12.6	6.9	6.9	2.3	18.4
40代(n=110)	26.4	16.4	25.5	18.2	12.7	14.5	11.8	10.9	7.3	6.4	3.6	4.5	26.4
50～64歳(n=290)	32.1	16.2	18.3	25.5	19.3	15.5	15.9	10.0	7.6	5.5	6.2	5.5	24.5
65歳以上(n=174)	29.9	14.9	20.1	21.3	19.5	10.9	14.4	4.0	4.6	8.6	7.5	5.2	20.1

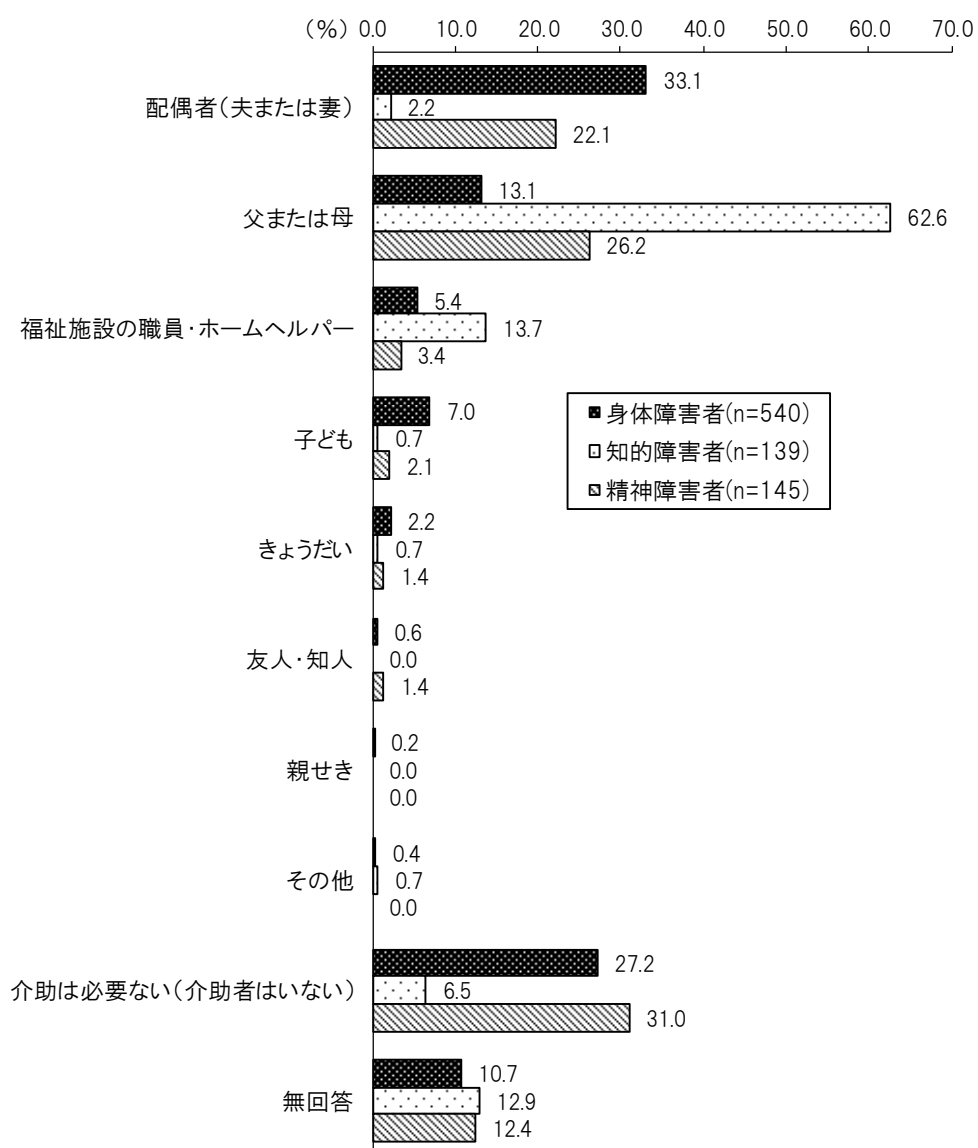
4 主な介助者

問 12 あなたを介助してくれる人は、主に誰ですか。（○は1つ）

主な介助者については、「配偶者（夫または妻）」の割合が 27.6%と最も高く、次いで「父または母」（20.9%）、「福祉施設の職員・ホームヘルパー」（5.7%）、「子ども」（5.4%）の順となっている。一方、およそ 4 人に 1 人（25.9%）は「介助は必要ない（介助者はいない）」と回答している。



障害区分別では、身体障害者で「配偶者（夫または妻）」、知的障害者で「父または母」「福祉施設の職員・ホームヘルパー」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



5 介助者の年齢や健康状態

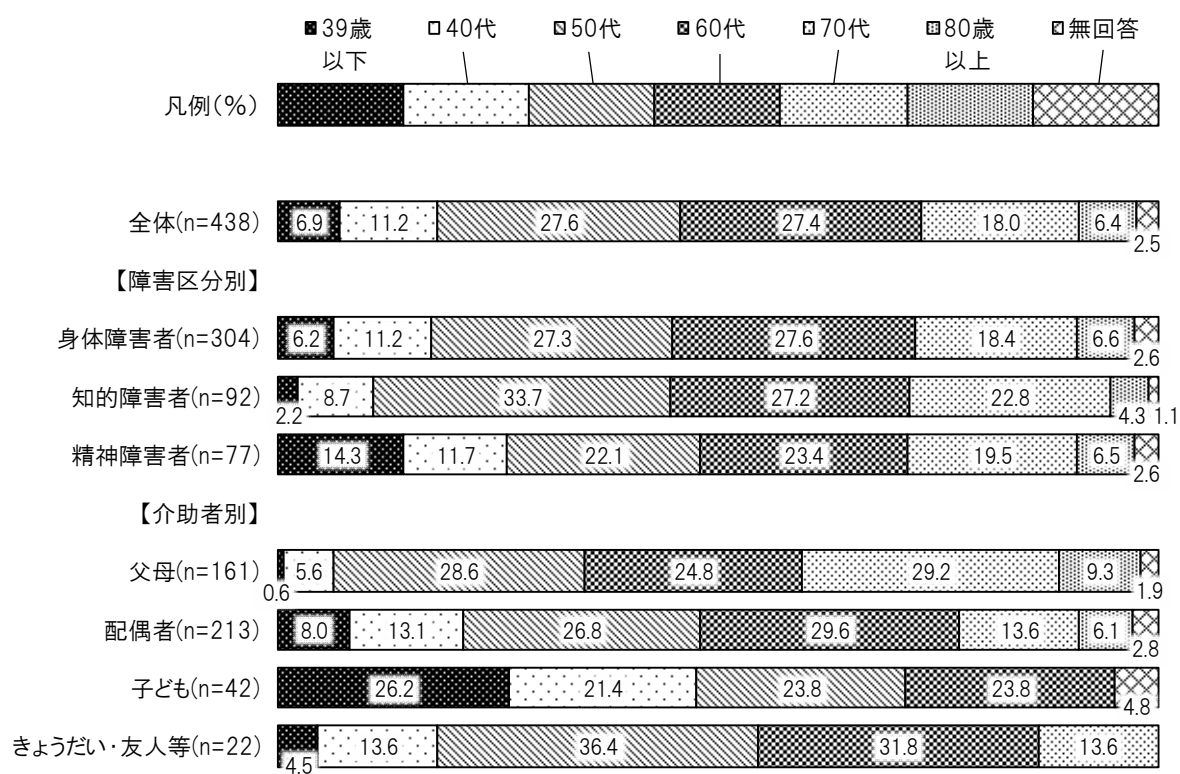
問 13 介助してくれる人の年齢、健康状態についてお答えください。（○は1つずつ）

① 介助者の年齢

介助者の年齢については、「50代」が27.6%と最も高く、ほぼ並んで「60代」（27.4%）が続き、以下「70代」（18.0%）、「40代」（11.2%）となっており、『60代以上（合計）』で約半数（51.8%）を占めている。

障害区分別では、知的障害者で「50代」、精神障害者で「39歳以下」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

介助者別でみると、父母で「70代」、子どもで「39歳以下」「40代」、きょうだい・友人等で「50代」の割合がそれぞれ他の介助者に比べて高くなっている。

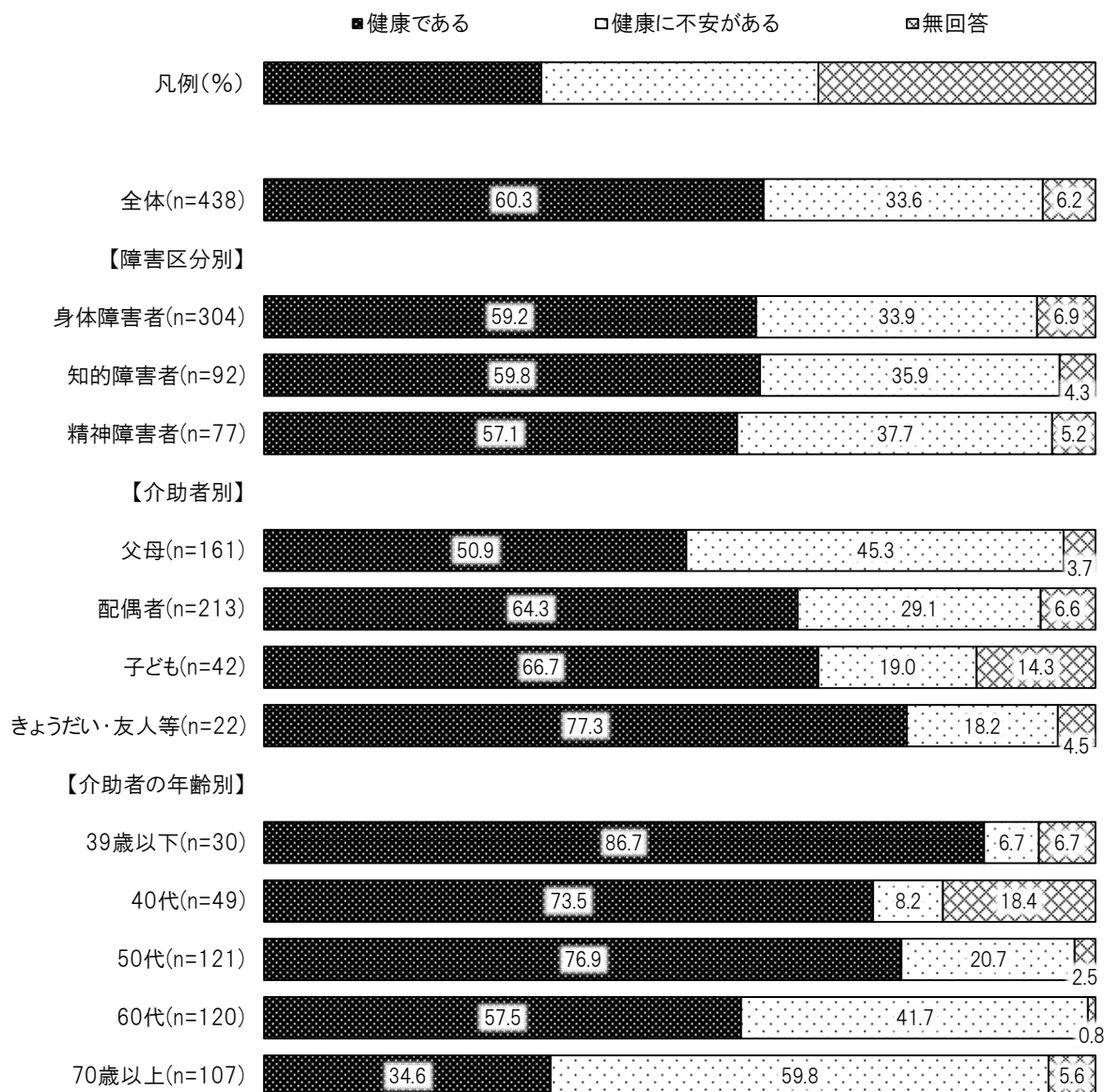


② 介助者の健康状態

介助者の健康状態については、「健康である」が60.3%、「健康に不安がある」が33.6%となっている。

障害区分別では大きな差はみられないが、介助者別でみると父母で「健康に不安がある」の割合が他の介助者を大きく上回っている。

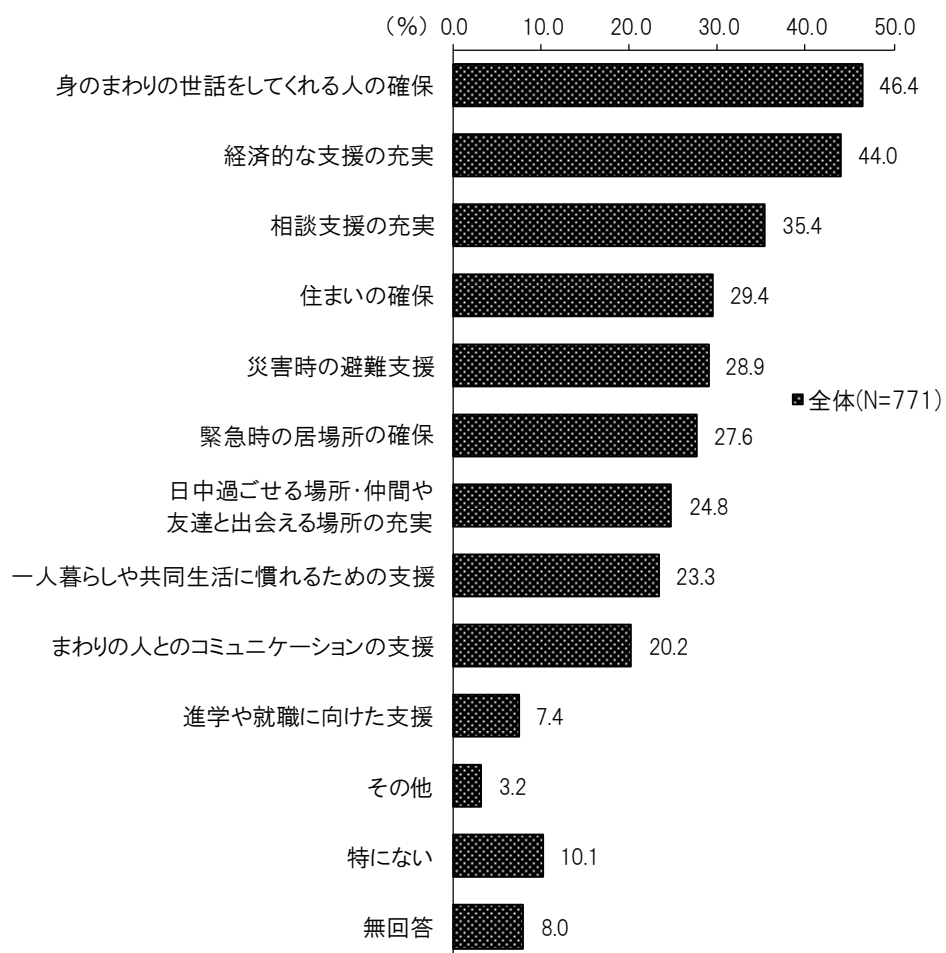
介助者の年齢別では、年齢が上がるほど「健康に不安がある」の割合が高くなっている。



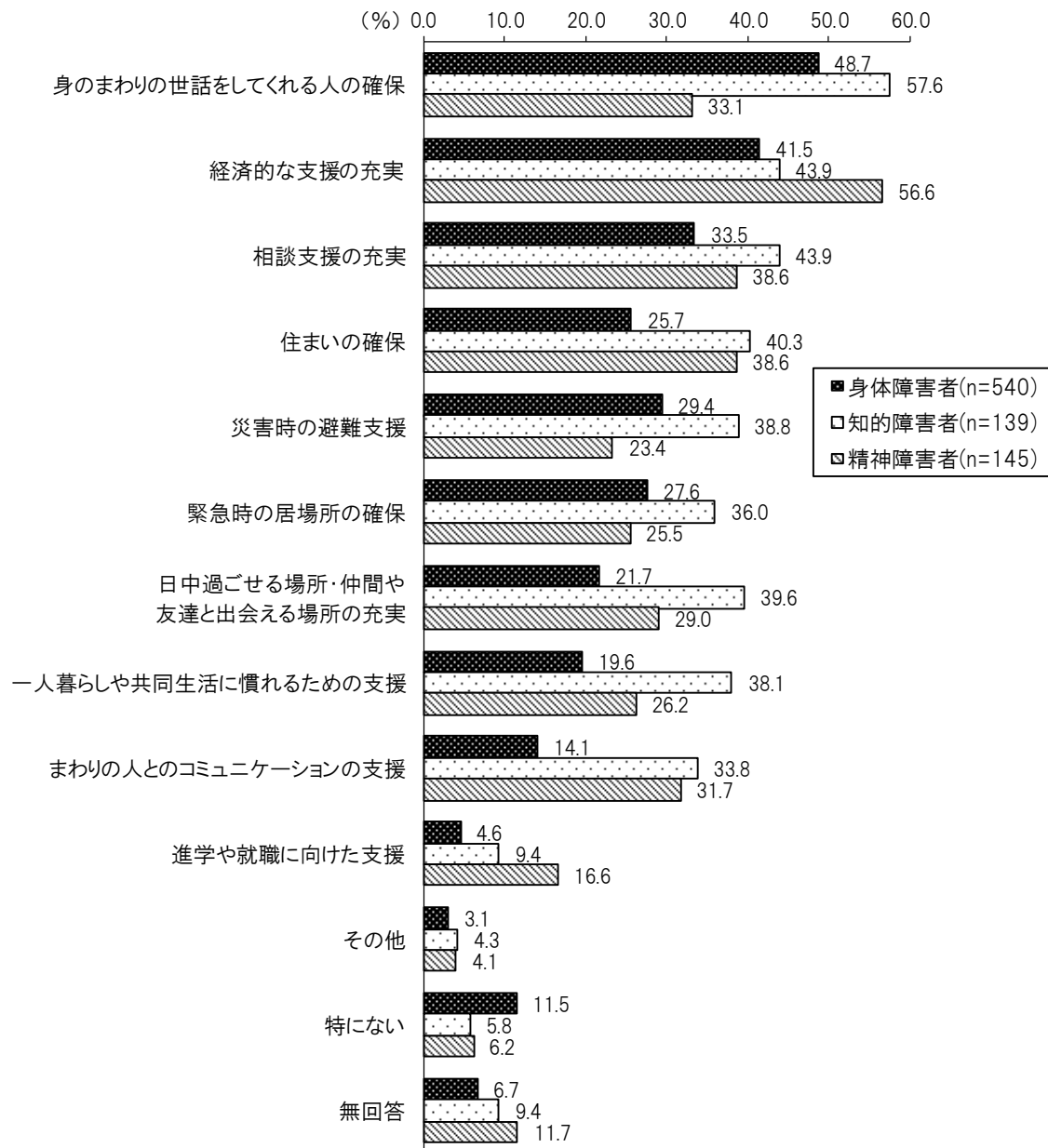
6 介助者がいなくなった場合に必要な支援

問 14 これから先、あなたを介助してくれる人の高齢化や介助してくれる人がいなくなったときのために、どのような支援が必要になってくると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

介助者がいなくなった場合に必要な支援については、「身のまわりの世話をしてくれる人の確保」の割合が46.4%と最も高く、次いで「経済的な支援の充実」(44.0%)、「相談支援の充実」(35.4%)、「住まいの確保」(29.4%)、「災害時の避難支援」(28.9%)の順となっている。



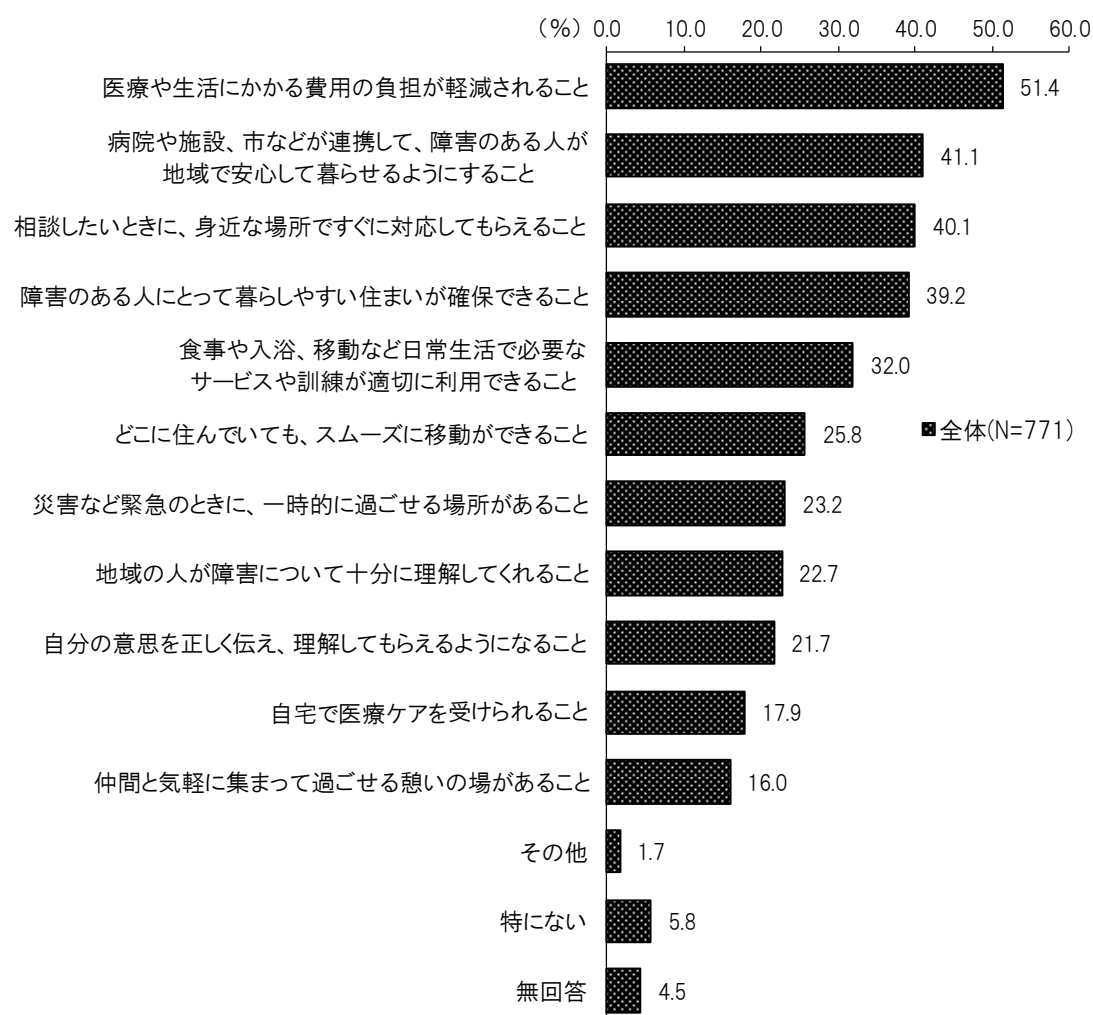
障害区分別では、知的障害者で「身のまわりの世話をしてくれる人の確保」「災害時の避難支援」「緊急時の居場所の確保」「日中過ごせる場所・仲間や友達と出会える場所の充実」「一人暮らしや共同生活に慣れるための支援」、精神障害者で「経済的な支援の充実」「相談支援の充実」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



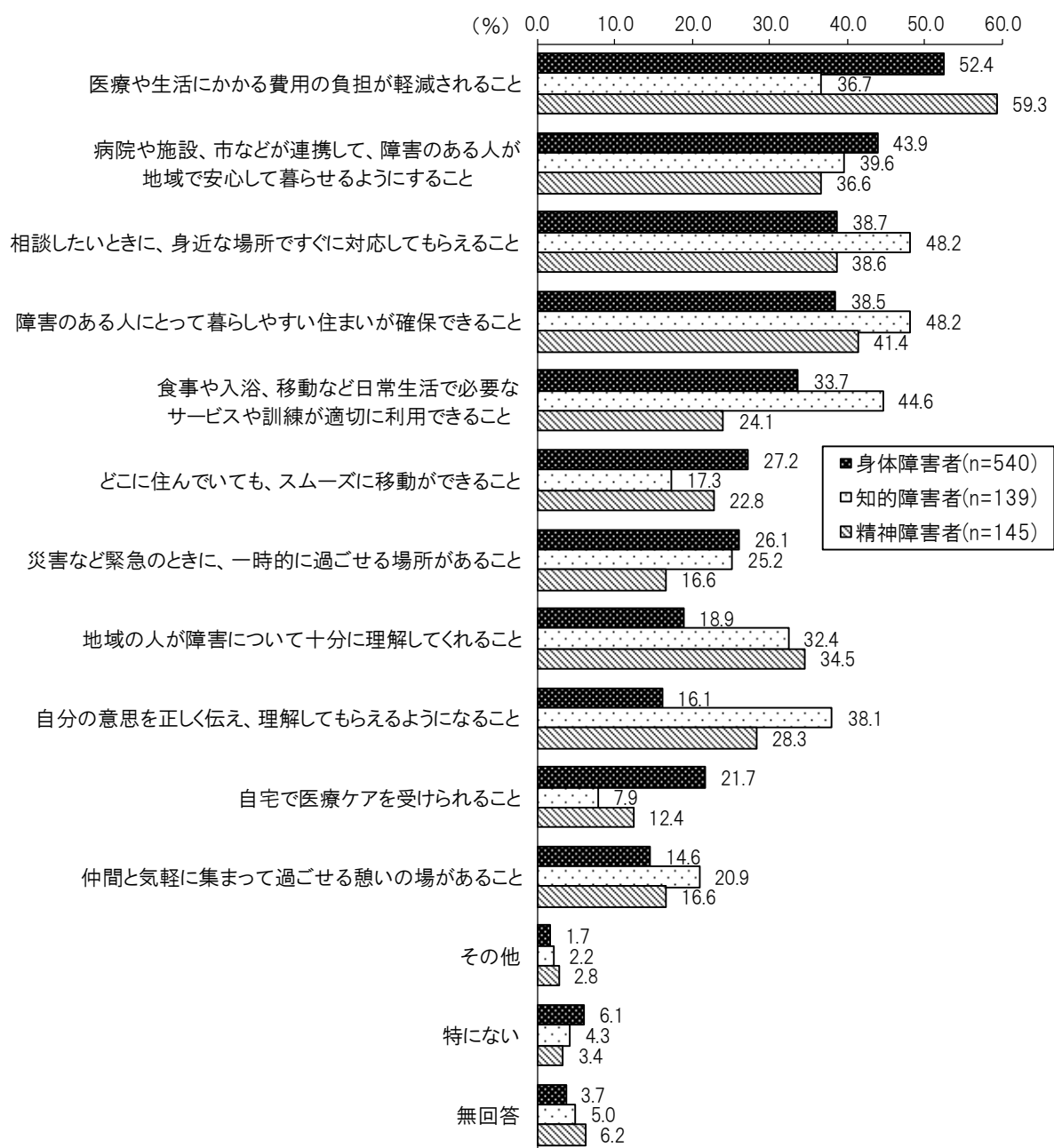
7 地域で安心して暮らすために必要な支援

問 15 あなたが今後、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、どのような支援が必要ですか。あなたが最も必要だと思う項目を、上位5つまで選んでください。
(○は5つまで)

地域で安心して暮らすために必要な支援については、「医療や生活にかかる費用の負担が軽減されること」の割合が51.4%と最も高く、次いで「病院や施設、市などが連携して、障害のある人が地域で安心して暮らせるようにすること」(41.1%)、「相談したいときに、身近な場所ですぐに対応してもらえること」(40.1%)、「障害のある人にとって暮らしやすい住まいが確保できること」(39.2%)の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「自宅で医療ケアを受けられること」、知的障害者で「相談したいときに、身近な場所ですぐに対応してもらえること」「食事や入浴、移動など日常生活に必要なサービスや訓練が適切に利用できること」「自分の意思を正しく伝え、理解してもらえるようになること」などの割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

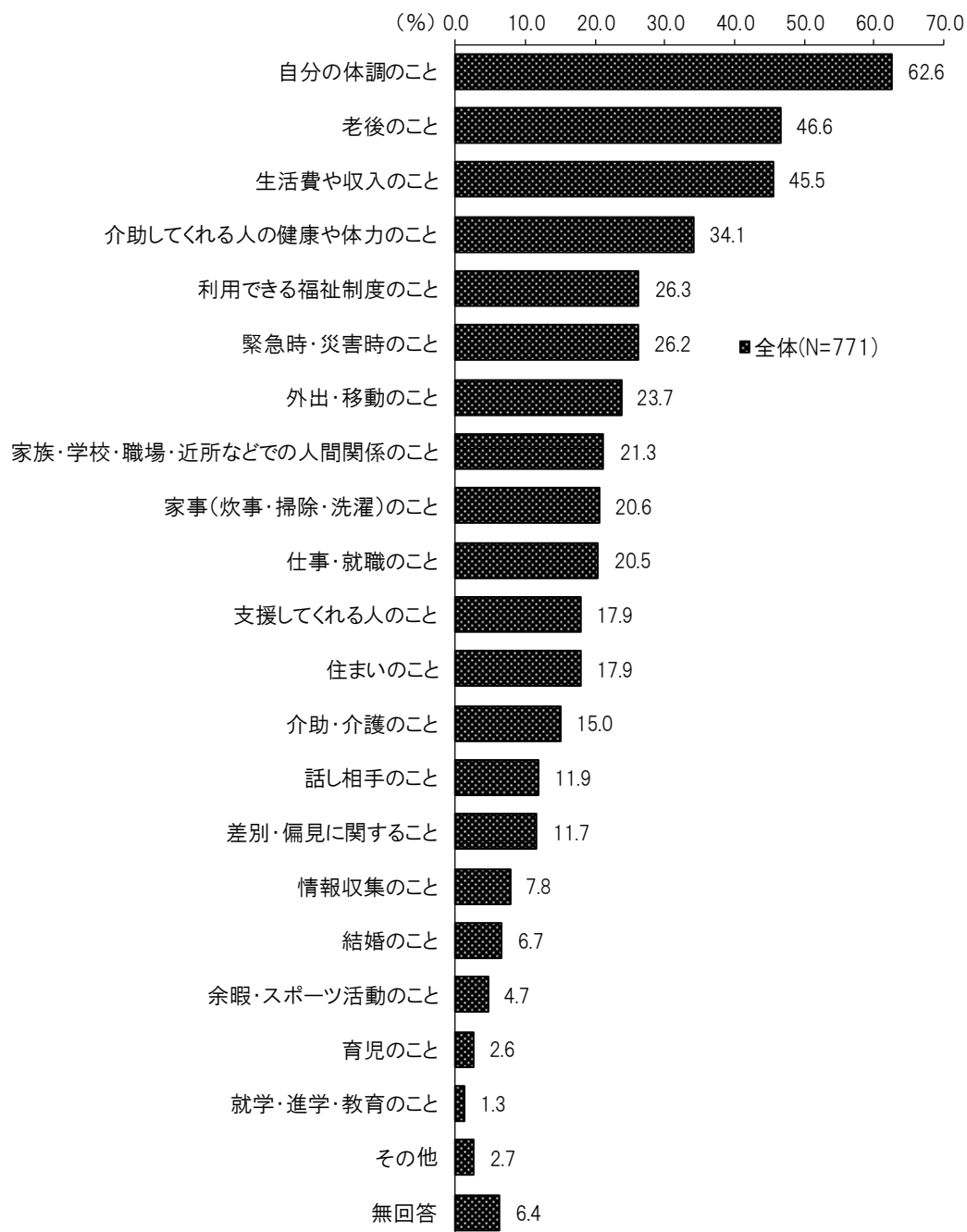


【3】住まいや暮らしについて

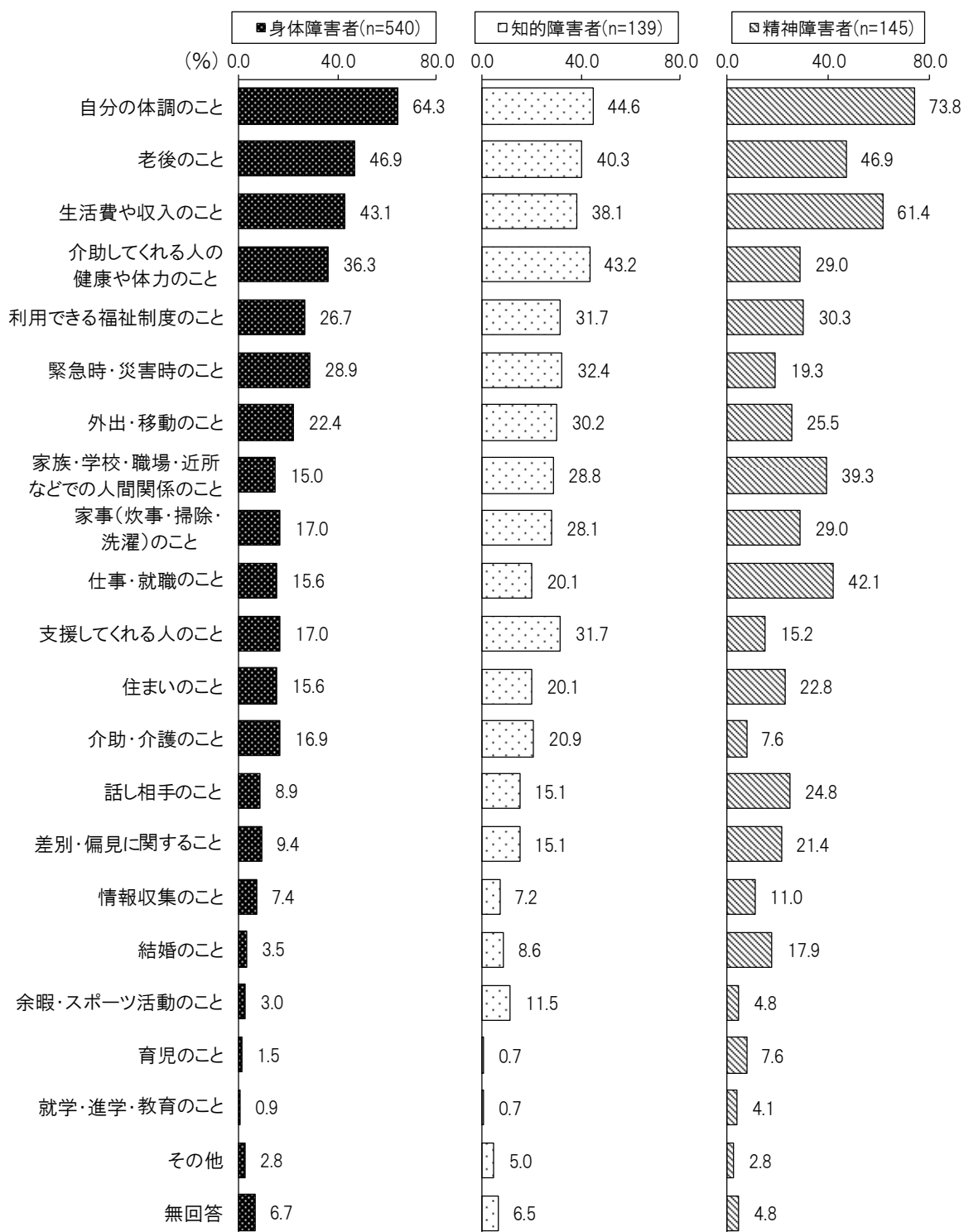
1 不安や悩み

問 16 あなたが不安に思うことや悩みは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

不安や悩みについては、「自分の体調のこと」の割合が62.6%と最も高く、次いで「老後のこと」(46.6%)、「生活費や収入のこと」(45.5%)、「介助してくれる人の健康や体力のこと」(34.1%)、「利用できる福祉制度のこと」(26.3%)の順となっている。



障害区分別では、知的障害者で「介助してくれる人の健康や体力のこと」「外出・移動のこと」「支援してくれる人のこと」、精神障害者で「自分の体調のこと」「生活費や収入のこと」「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」「仕事・就職のこと」などの割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



年齢別では、若い年齢層ほど「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」「仕事・就職のこと」「差別・偏見に関すること」の割合が高く、29歳以下で「家事（炊事・掃除・洗濯）のこと」「話し相手のこと」、65歳以上で「介助してくれる人の健康や体力のこと」の割合がそれぞれ高くなっている。

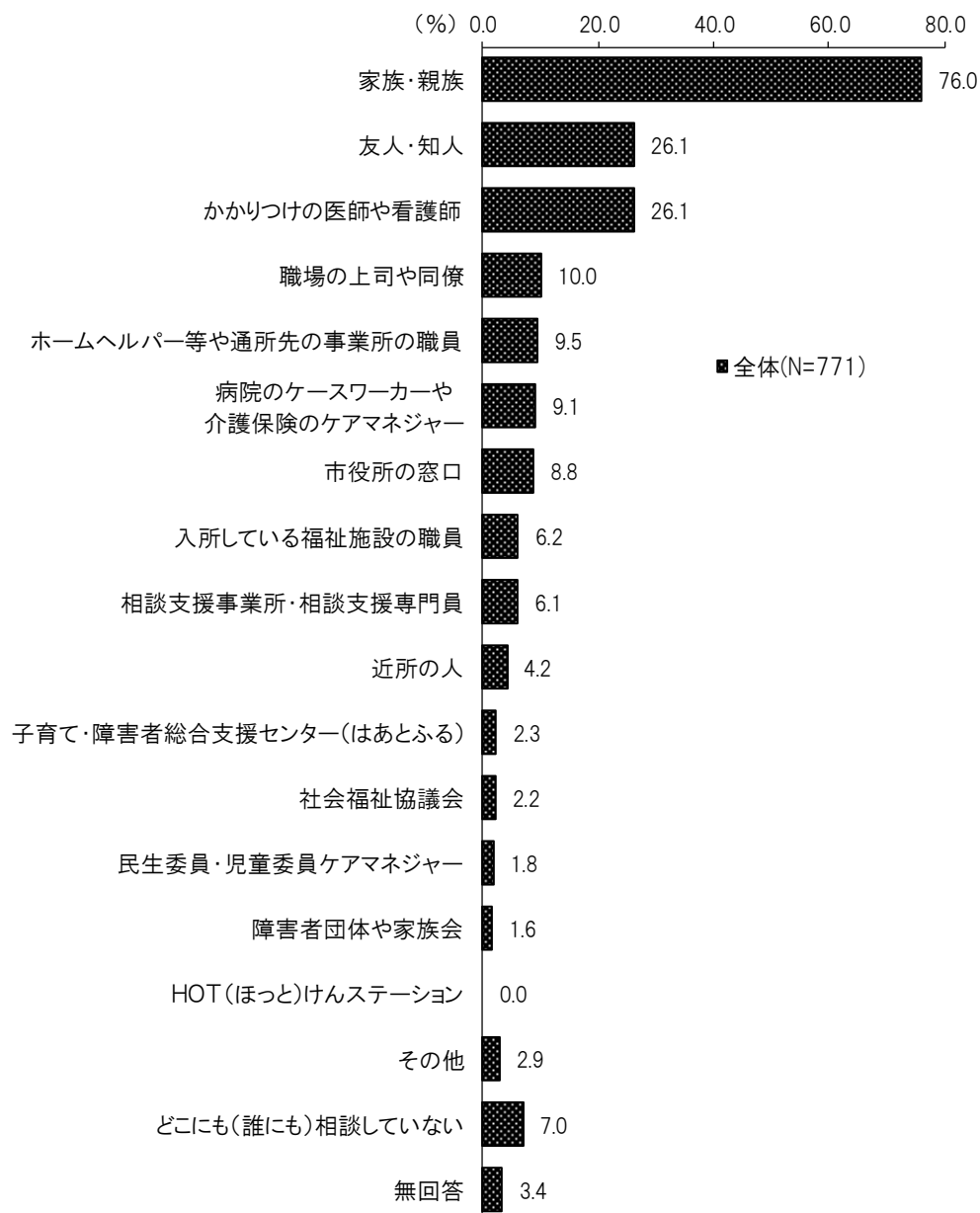
単位 (%)	自分の体調のこと	老後のこと	生活費や収入のこと	介助してくれる人の健康や体力のこと	利用できる福祉制度のこと	緊急時・災害時のこと	外出・移動のこと	家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと	家事（炊事・掃除・洗濯）のこと	仕事・就職のこと	支援してくれる人のこと	住まいのこと
全体(N=771)	62.6	46.6	45.5	34.1	26.3	26.2	23.7	21.3	20.6	20.5	17.9	17.9
【年齢別】												
29歳以下(n=104)	53.8	33.7	49.0	32.7	34.6	29.8	29.8	43.3	31.7	37.5	27.9	26.0
30代(n=87)	55.2	51.7	54.0	31.0	26.4	27.6	26.4	36.8	18.4	33.3	23.0	18.4
40代(n=110)	60.9	51.8	41.8	30.0	20.0	23.6	18.2	20.9	16.4	24.5	14.5	18.2
50～64歳(n=290)	66.6	53.1	47.9	32.8	22.4	24.8	23.4	16.6	19.0	19.0	15.2	19.0
65歳以上(n=174)	66.7	37.9	37.9	41.4	32.2	28.2	23.0	9.2	19.5	4.6	15.5	10.9

単位 (%)	介助・介護のこと	話し相手のこと	差別・偏見に関すること	情報収集のこと	結婚のこと	余暇・スポーツ活動のこと	育児のこと	就学・進学・教育のこと	その他
全体(N=771)	15.0	11.9	11.7	7.8	6.7	4.7	2.6	1.3	2.7
【年齢別】									
29歳以下(n=104)	14.4	22.1	22.1	11.5	17.3	11.5	1.0	2.9	6.7
30代(n=87)	10.3	11.5	20.7	8.0	18.4	6.9	10.3	2.3	1.1
40代(n=110)	10.9	10.0	13.6	5.5	7.3	3.6	6.4	1.8	2.7
50～64歳(n=290)	14.1	11.0	10.0	10.0	3.4	3.4	0.7	1.0	2.1
65歳以上(n=174)	21.3	8.6	2.9	3.4	0.0	2.3	0.6	0.0	1.7

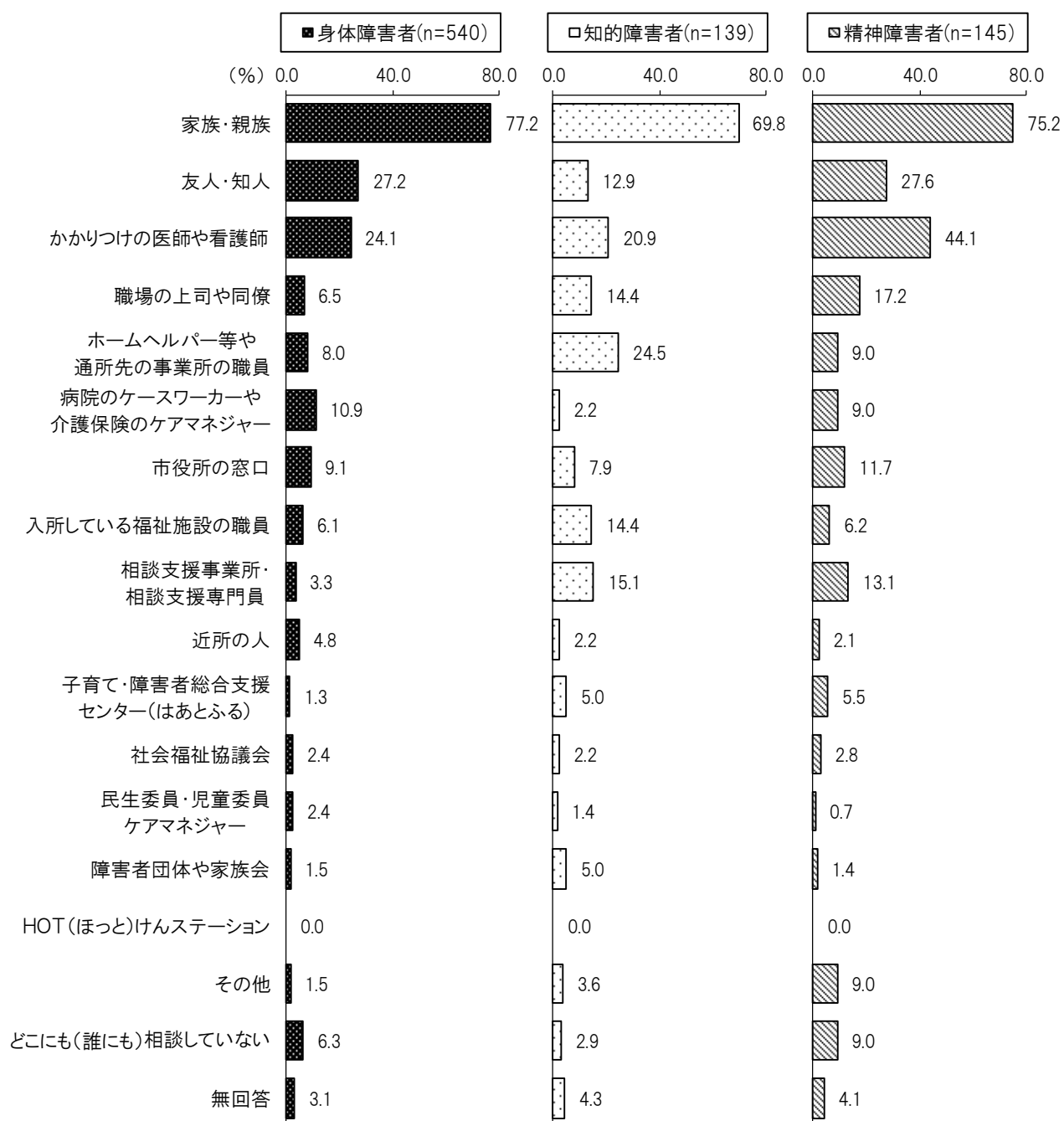
2 困ったときの相談先

問 17 あなたは、ふだん、悩みや困ったことがあるとき、どこに（誰に）相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

困ったときの相談先については、「家族・親族」の割合が 76.0%と最も高く、次いで「友人・知人」「かかりつけの医師や看護師」（各 26.1%）、「職場の上司や同僚」（10.0%）、「ホームヘルパー等や通所先の事業所の職員」（9.5%）の順となっている。



障害区分別では、知的障害者で「ホームヘルパー等や通所先の事業所の職員」「入所している福祉施設の職員」、精神障害者で「かかりつけの医師や看護師」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



年齢別では、29 歳以下で「相談支援事業所・相談支援専門員」、65 歳以上で「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

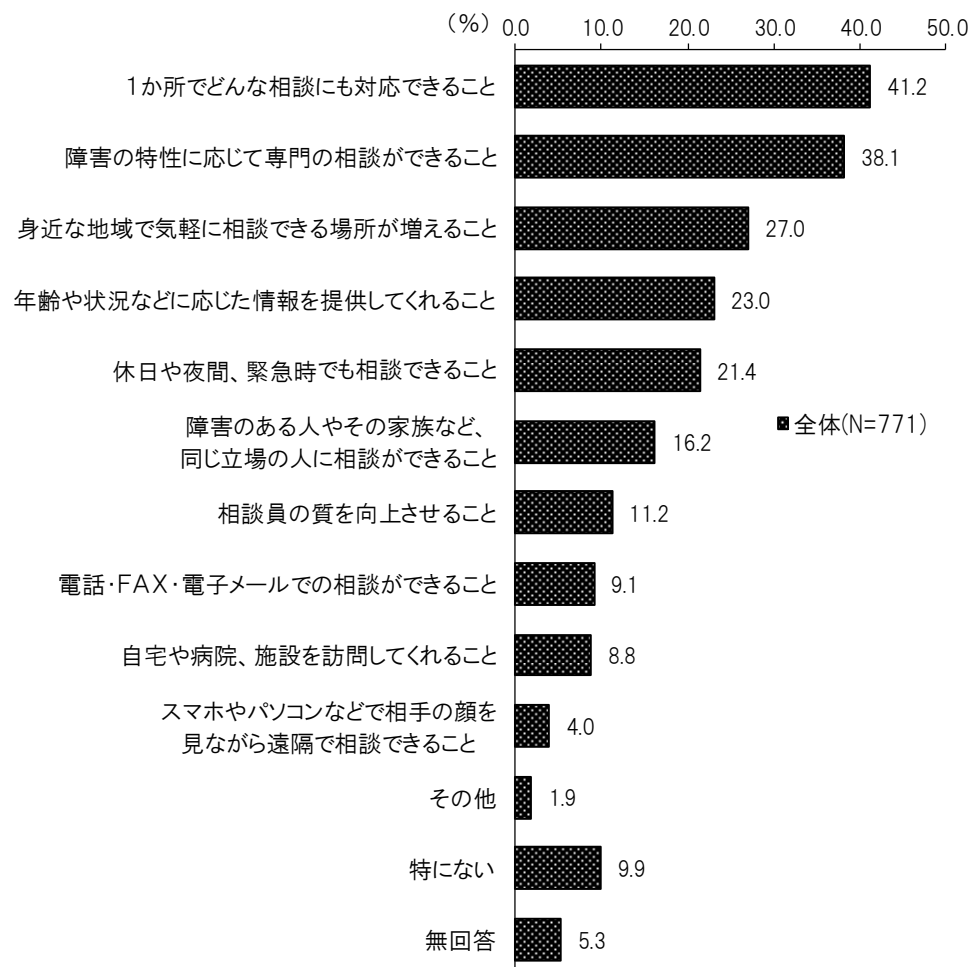
単位 (%)	家族・親族	友人・知人	かかりつけの医師や看護師	職場の上司や同僚	ホームヘルパー等や通所先の事業所の職員	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	市役所の窓口	入所している福祉施設の職員	相談支援事業所・相談支援専門員	近所の人	子育て・障害者総合支援センター（はあとふる）
全体(N=771)	76.0	26.1	26.1	10.0	9.5	9.1	8.8	6.2	6.1	4.2	2.3
【年齢別】											
29歳以下(n=104)	76.0	27.9	16.3	17.3	17.3	4.8	7.7	7.7	20.2	1.9	2.9
30代(n=87)	75.9	19.5	32.2	21.8	13.8	3.4	5.7	9.2	12.6	1.1	4.6
40代(n=110)	78.2	33.6	25.5	13.6	8.2	5.5	6.4	2.7	3.6	0.9	2.7
50～64歳(n=290)	79.7	29.0	28.3	7.9	4.5	8.3	10.0	5.9	2.1	4.5	2.8
65歳以上(n=174)	70.1	19.0	25.3	1.1	12.1	18.4	9.2	6.9	2.3	8.0	0.0

単位 (%)	社会福祉協議会	民生委員・児童委員ケアマネジャー	障害者団体や家族会	HO T（ほっと）けんすーション	その他	どこにも（誰にも）相談していない
全体(N=771)	2.2	1.8	1.6	0.0	2.9	7.0
【年齢別】						
29歳以下(n=104)	1.9	0.0	2.9	0.0	2.9	4.8
30代(n=87)	1.1	1.1	3.4	0.0	2.3	9.2
40代(n=110)	0.0	0.9	2.7	0.0	6.4	8.2
50～64歳(n=290)	2.1	1.4	0.3	0.0	2.1	5.2
65歳以上(n=174)	3.4	4.6	1.1	0.0	2.3	8.6

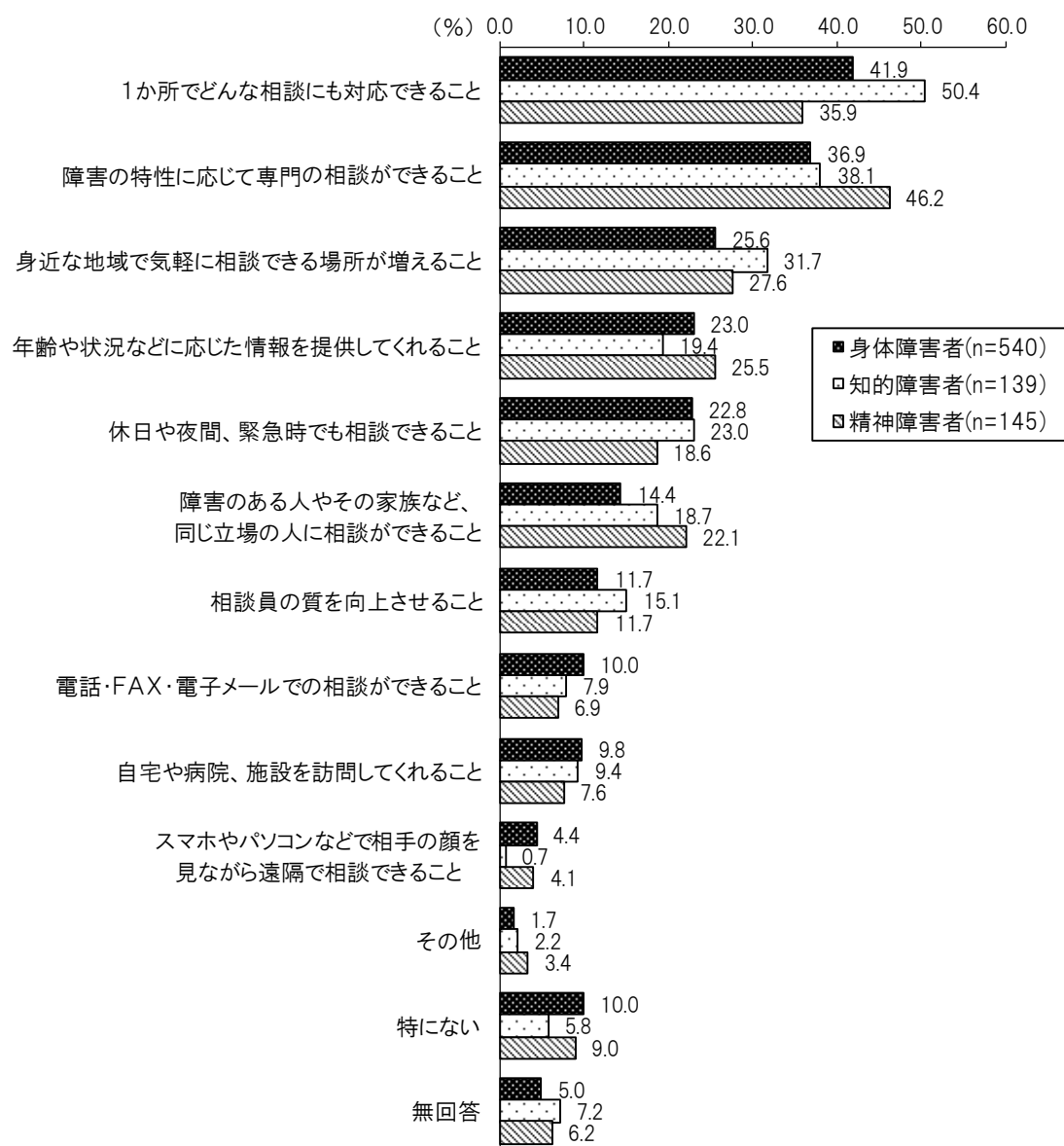
3 相談先に望むこと

問 18 あなたが相談先に望むことは何ですか。あなたが最も望むことを、上位3つまで選んでください。（○は3つまで）

相談先に望むことについては、「1か所でどんな相談にも対応できること」の割合が41.2%と最も高く、次いで「障害の特性に応じて専門の相談ができること」(38.1%)、「身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること」(27.0%)、「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」(23.0%)の順となっている。



障害区分別では、知的障害者で「1か所でどんな相談にも対応できること」、精神障害者で「障害の特性に応じて専門の相談ができること」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



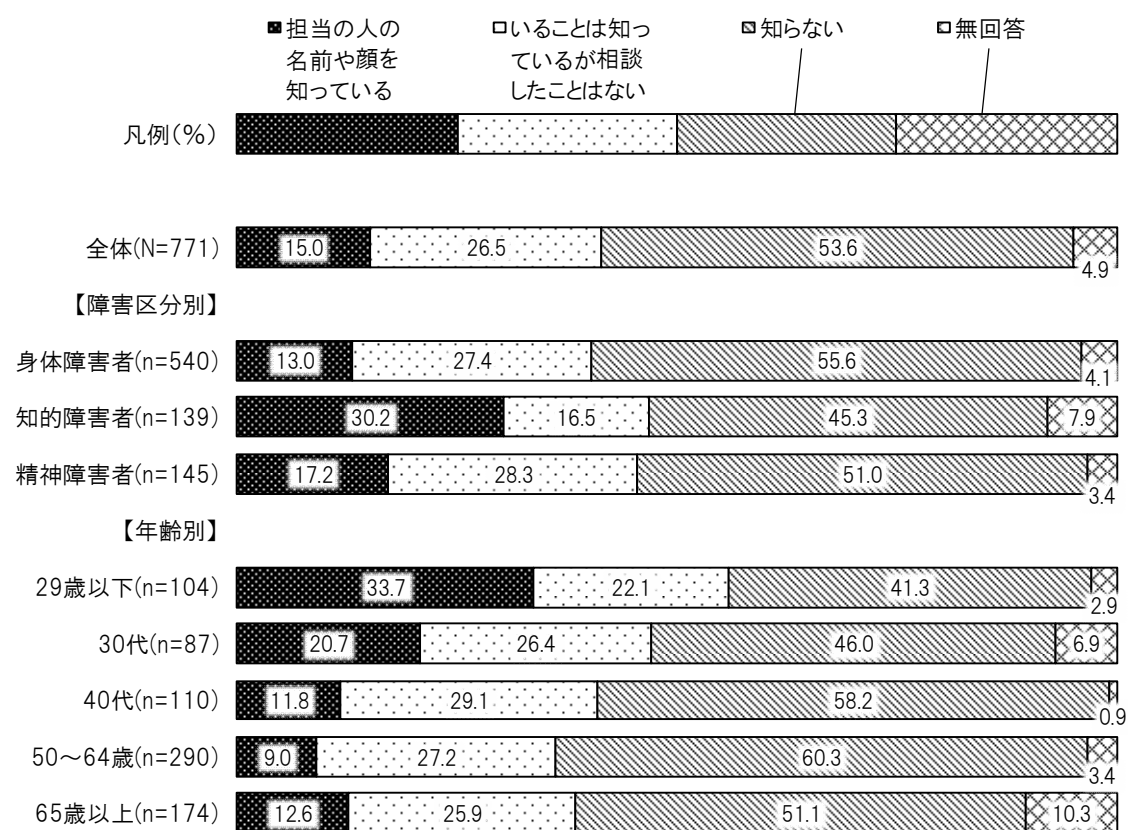
4 相談支援専門員の認知

問 19 あなたは、相談支援専門員がいることを知っていますか。（○は1つ）

相談支援専門員については、「担当の人の名前や顔を知っている」が15.0%、「いることは知っているが相談したことはない」が26.5%、合計で約4割（41.5%）の認知率となっている。一方、半数以上（53.6%）が「知らない」と回答している。

障害区分別では、知的障害者で「担当の人の名前や顔を知っている」の割合が他の障害を大きく上回っている。

年齢別では、29歳以下で「担当の人の名前や顔を知っている」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



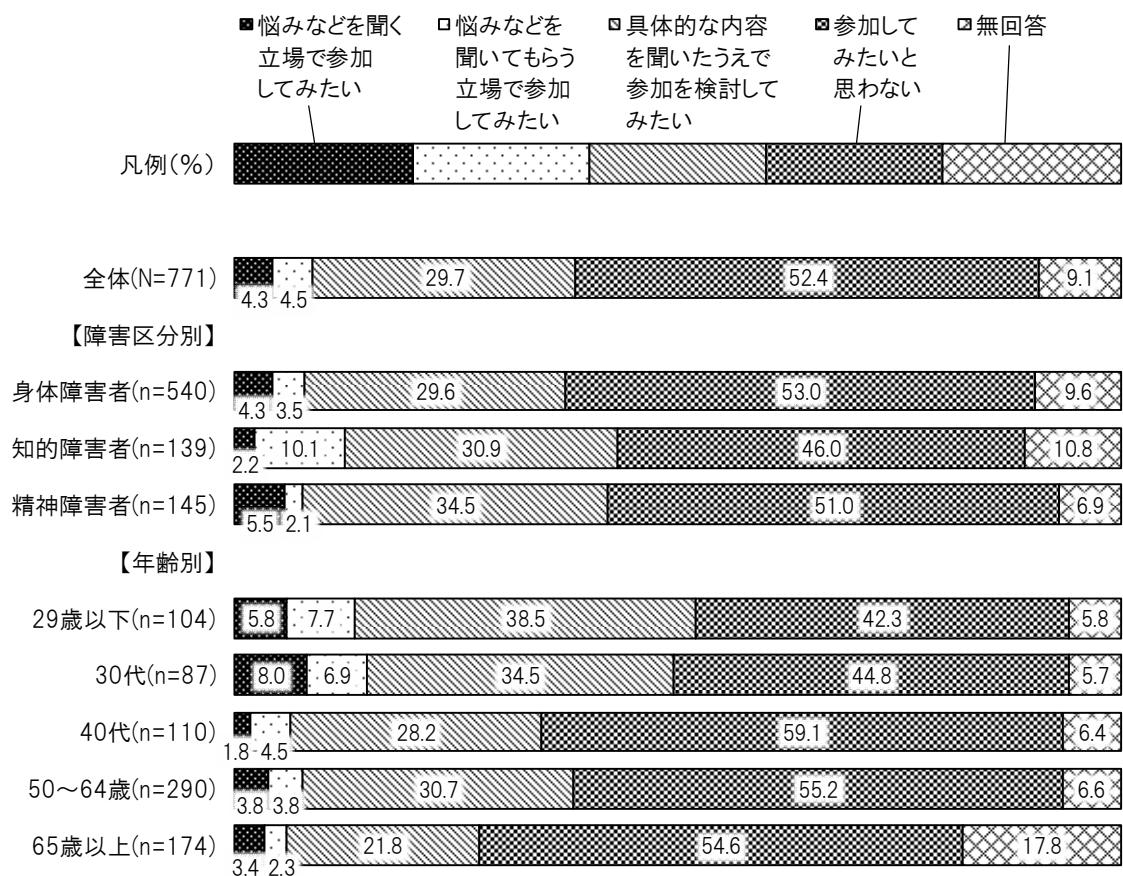
5 ピアサポート活動への参加意向

問 20 障害のある人や障害のある子どもを育てた親が、自らの体験に基づいて、同じ仲間である他の障害のある人や親の悩みなどを聞くという取組を「ピアサポート活動」といいます。あなたは、この活動に参加してみたいと思いますか。（○は1つ）

ピアサポート活動への参加意向については、「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」が4.3%、「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」が4.5%、合計で約1割(8.8%)が『参加してみたい』と回答している。また、「具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい」が29.7%、「参加してみたいと思わない」が52.4%となっている。

障害区分別では、知的障害者で「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」の割合が他の障害に比べて高くなっている。

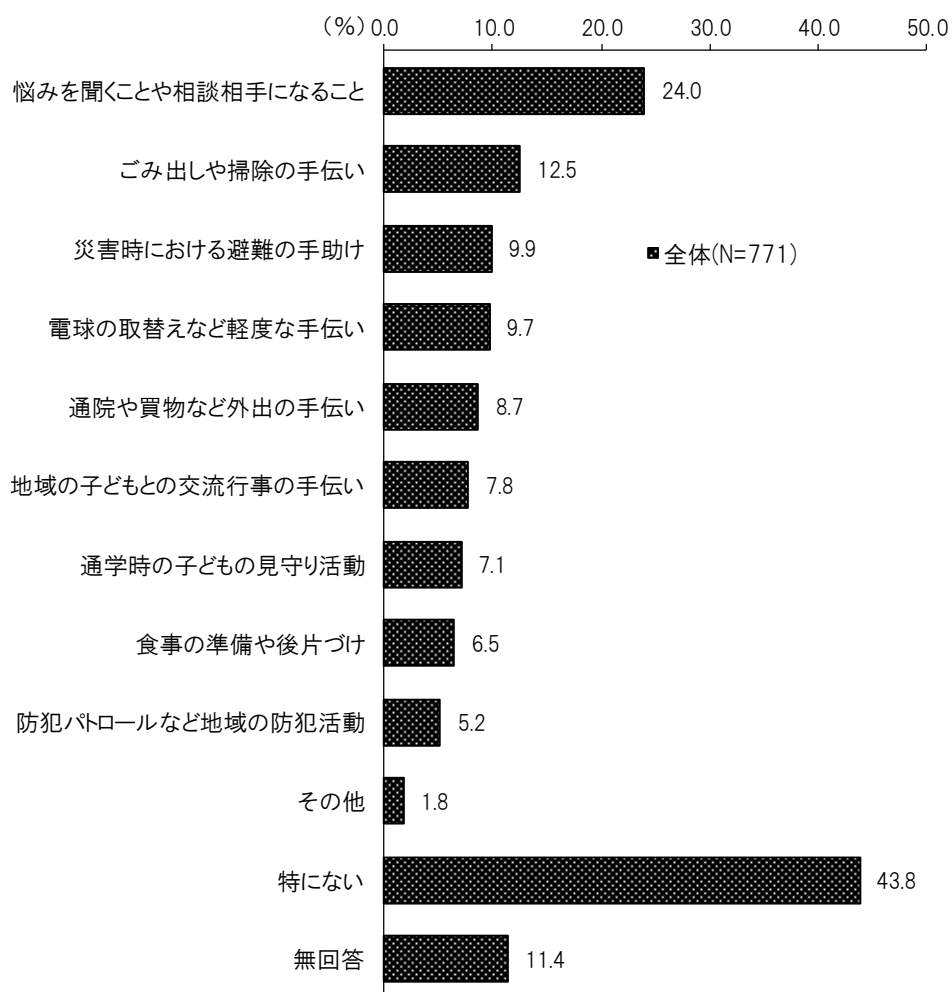
年齢別では、29歳以下で「具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



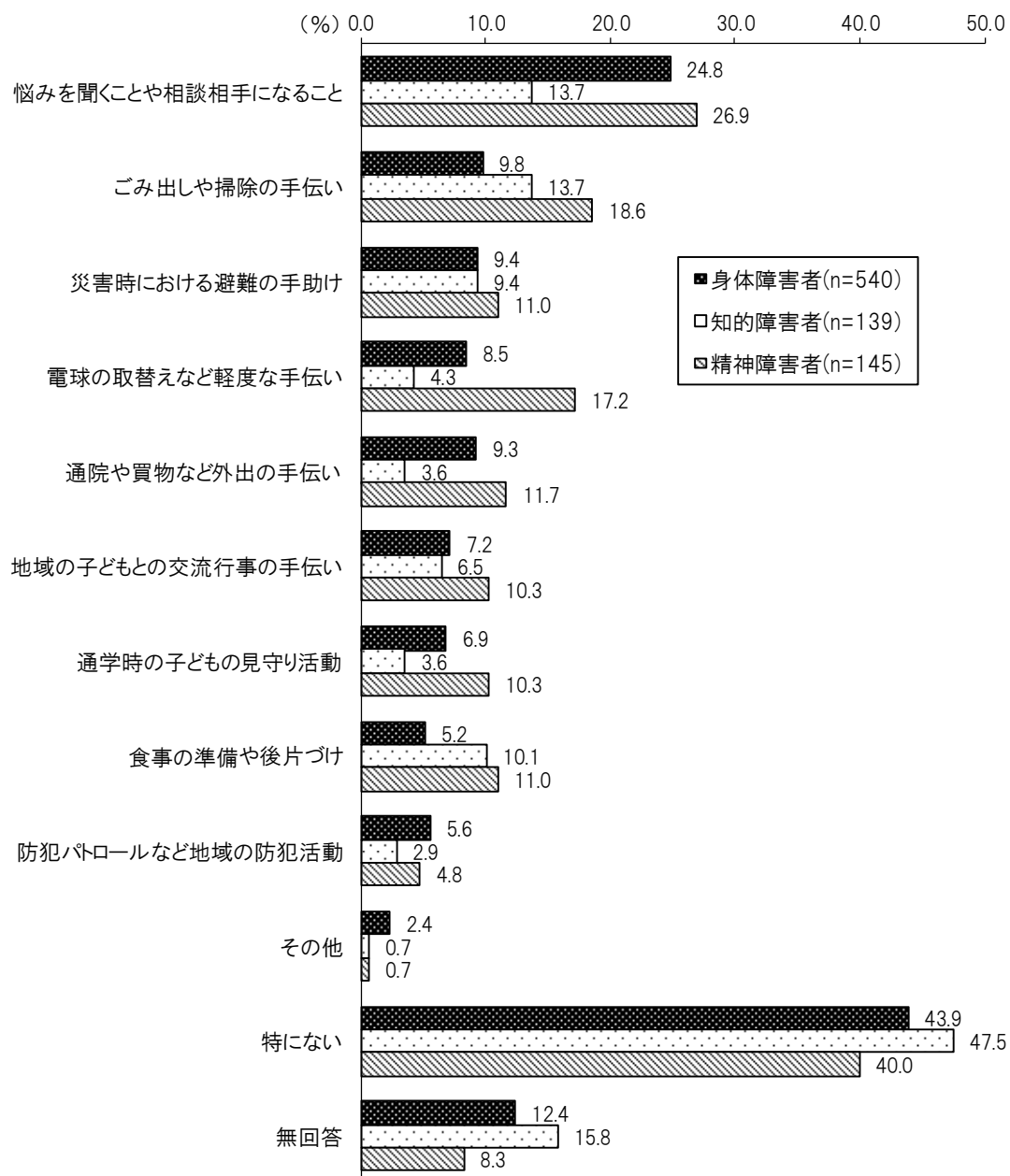
6 他の障害のある人のために手助けできること

問 21 障害のある人のために、あなたが手助けできそうな活動や協力できそうな活動はありますか。（あてはまるものすべてに○）

他の障害のある人のために手助けできることについては、約4割（43.8%）が「特にない」と回答しているが、手助けできることとしては「悩みを聞くことや相談相手になること」が24.0%と最も高く、次いで「ごみ出しや掃除の手伝い」（12.5%）、「災害時における避難の手助け」（9.9%）、「電球の取替えなど軽度な手伝い」（9.7%）の順となっている。



障害区分別では、身体障害者や精神障害者で「悩みを聞くことや相談相手になること」、精神障害者で「ごみ出しや掃除の手伝い」「電球の取替えなど軽度な手伝い」などの割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

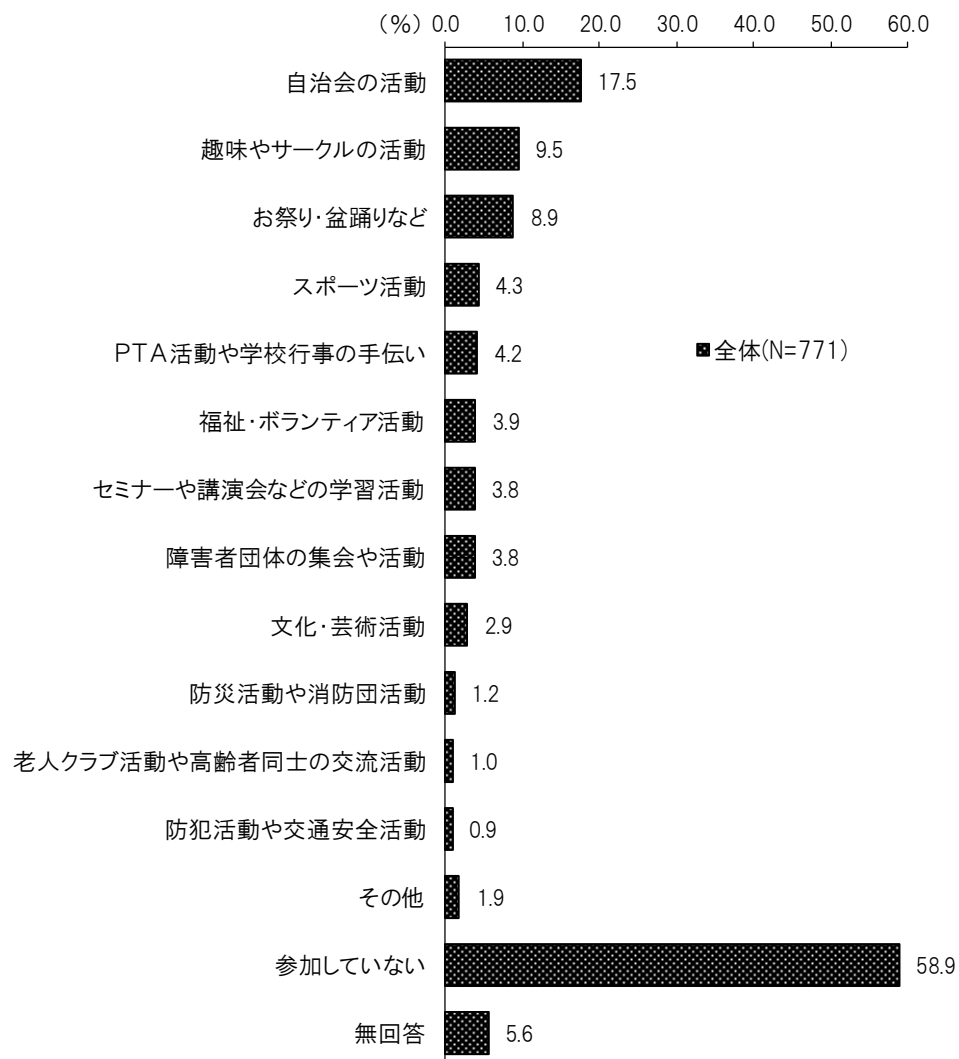


【4】地域での暮らしについて

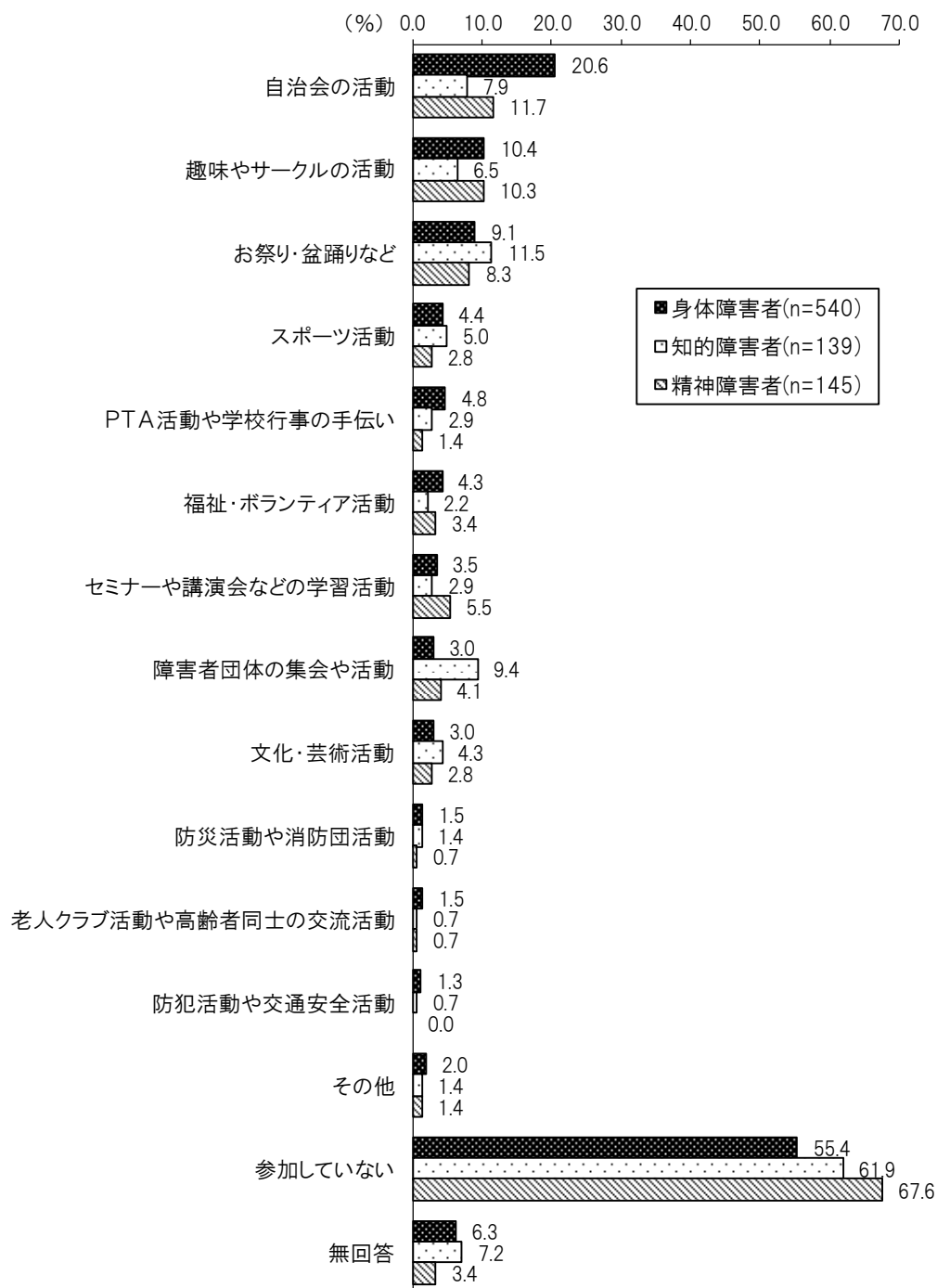
1 地域の行事や活動への参加状況

問 22 あなたは、現在、地域の行事や活動などに参加していますか。コロナ禍以前の活動も含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

地域の行事や活動への参加状況については、約6割（58.9%）が「参加していない」と回答しているが、参加している活動としては「自治会の活動」が17.5%と最も高く、次いで「趣味やサークルの活動」（9.5%）、「お祭り・盆踊りなど」（8.9%）の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「自治会の活動」、知的障害者で「障害者団体の集会や活動」、精神障害者で「参加していない」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



年齢別では、30代で「参加していない」、40代以上で「自治会の活動」、65歳以上で「趣味やサークルの活動」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

付き合い程度別（問23）では、親しい人がいる層で割合の高い項目が多くみられる。

単位（％）	自治会の活動	趣味やサークルの活動	お祭り・盆踊りなど	スポーツ活動	P T A 活動や学校行事の手伝い	福祉・ボランティア活動	セミナーや講演会などの学習活動	障害者団体の集会や活動	文化・芸術活動	防災活動や消防団活動	老人クラブ活動や高齢者同士の交流活動	防犯活動や交通安全活動	参加していない
全体(N=771)	17.5	9.5	8.9	4.3	4.2	3.9	3.8	3.8	2.9	1.2	1.0	0.9	58.9
【年齢別】													
29歳以下(n=104)	7.7	8.7	11.5	6.7	5.8	1.9	4.8	7.7	1.0	1.0	0.0	0.0	62.5
30代(n=87)	3.4	6.9	10.3	0.0	2.3	1.1	2.3	5.7	2.3	0.0	1.1	0.0	71.3
40代(n=110)	18.2	10.9	12.7	5.5	9.1	8.2	2.7	2.7	1.8	0.9	0.0	0.0	56.4
50～64歳(n=290)	21.4	6.2	6.9	3.1	4.1	4.1	4.1	2.8	3.4	1.0	0.7	1.0	60.7
65歳以上(n=174)	23.6	16.1	7.5	6.3	1.1	3.4	4.0	2.3	4.0	1.7	2.9	2.3	50.0
【付き合い程度別】													
親しい人がいる(n=112)	31.3	16.1	15.2	6.3	7.1	8.0	8.0	7.1	8.9	2.7	2.7	4.5	41.1
あいさつ程度(n=303)	25.7	10.6	12.2	5.9	5.6	5.0	5.0	3.3	3.3	1.7	1.3	0.7	51.2
付き合いはない(n=316)	6.0	7.3	4.7	2.5	2.2	1.6	1.6	3.5	0.6	0.3	0.3	0.0	77.5

注1:「その他」は表記から省略している。

注2: 付き合い程度別の「親しい人がいる」は、「困ったときに助け合う親しい人がいる」「お互いに訪問し合う人がいる」を合算している。

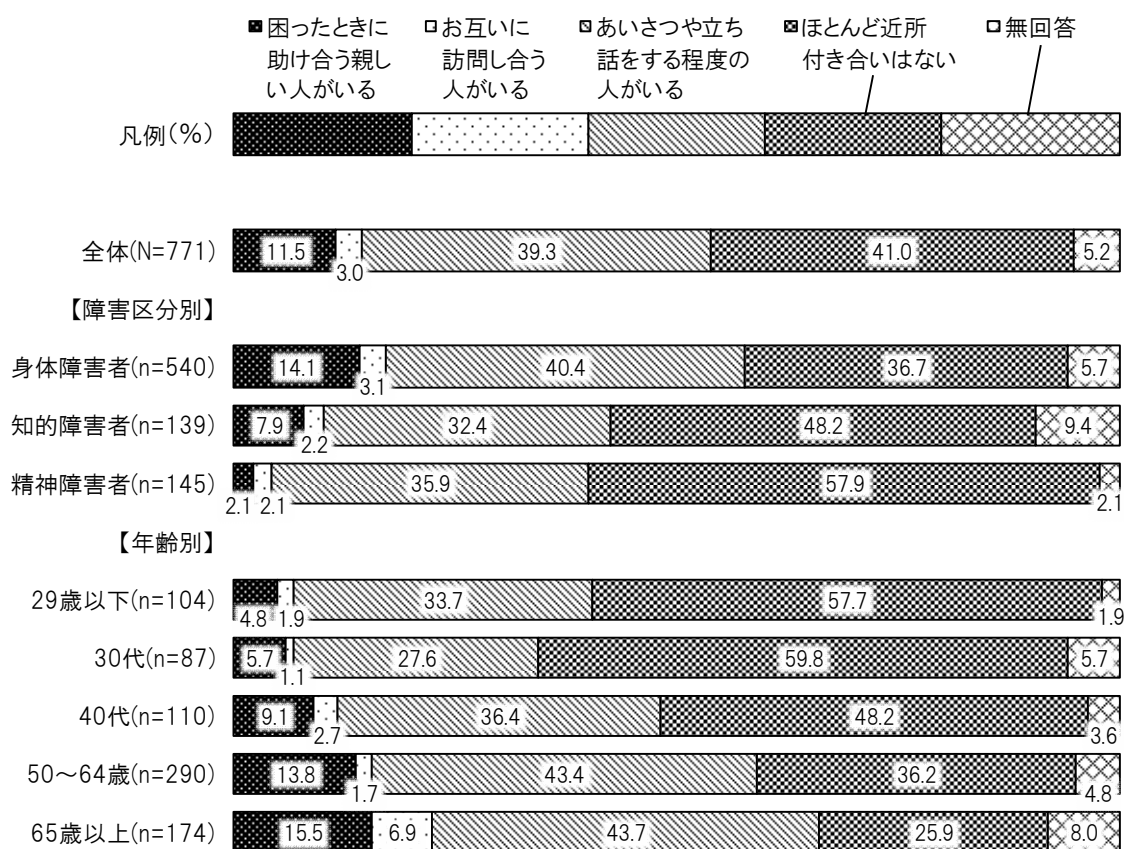
2 近所の人との付き合い程度

問 23 あなたとご近所の人との関係は、次のどれに最も近いですか。（○は1つ）

近所の人との付き合い程度については、「ほとんど近所付き合いはない」の割合が41.0%と最も高く、次いで「あいさつや立ち話をする程度の人がある」（39.3%）、「困ったときに助け合う親しい人がある」（11.5%）となっている。

障害区分別では、身体障害者で「困ったときに助け合う親しい人がある」、精神障害者で「ほとんど近所付き合いはない」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

年齢別では、年齢が上がるほど「困ったときに助け合う親しい人がある」の割合が高くなっている。



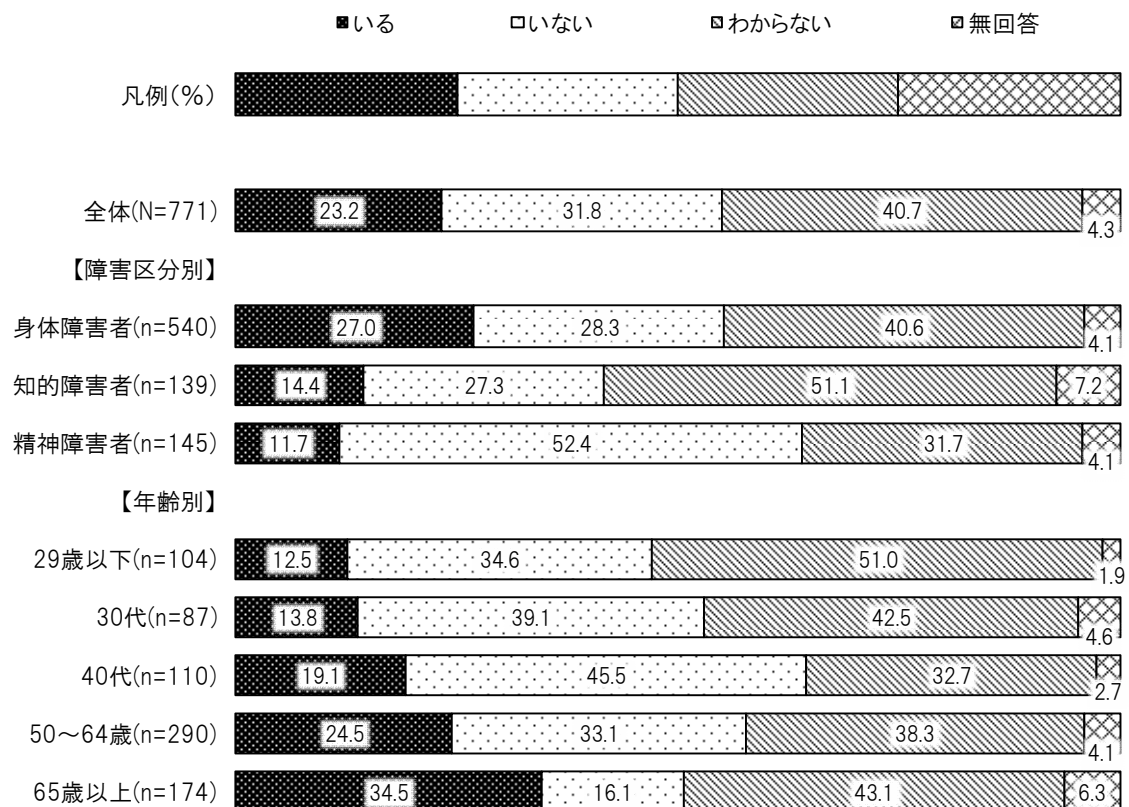
3 近所で助けてくれる人の有無

問 24 災害時、家族が不在の場合など、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。
(○は1つ)

近所で助けてくれる人については、「いる」が23.2%、「いない」が31.8%、「わからない」が40.7%となっている。

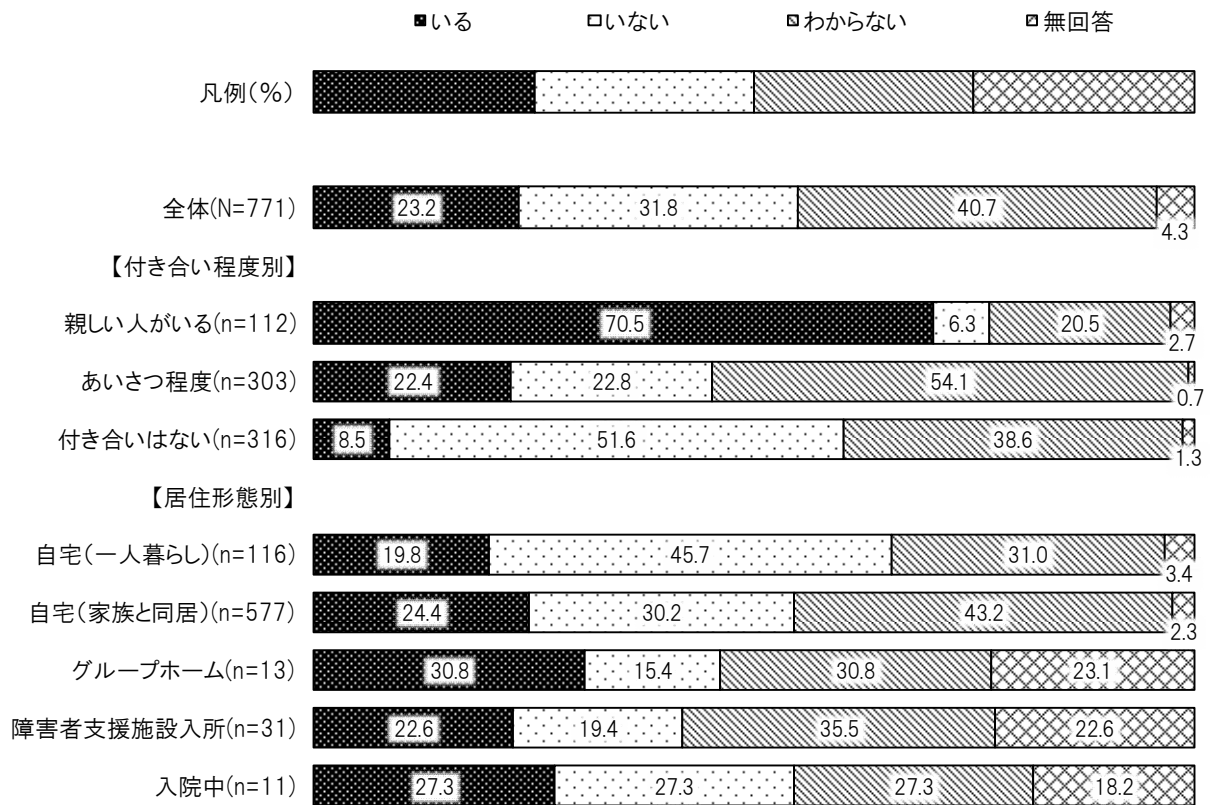
障害区分別では、身体障害者で「いる」、精神障害者で「いない」の割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。

年齢別では、年齢が上がるほど「いる」の割合が高くなっている。



付き合い程度別では、親しい人がいる層で「いる」の割合が他の層を大きく上回っている。

居住形態別でみると、自宅（一人暮らし）で「いない」の割合が他の層を大きく上回っている。



4 避難所の認知

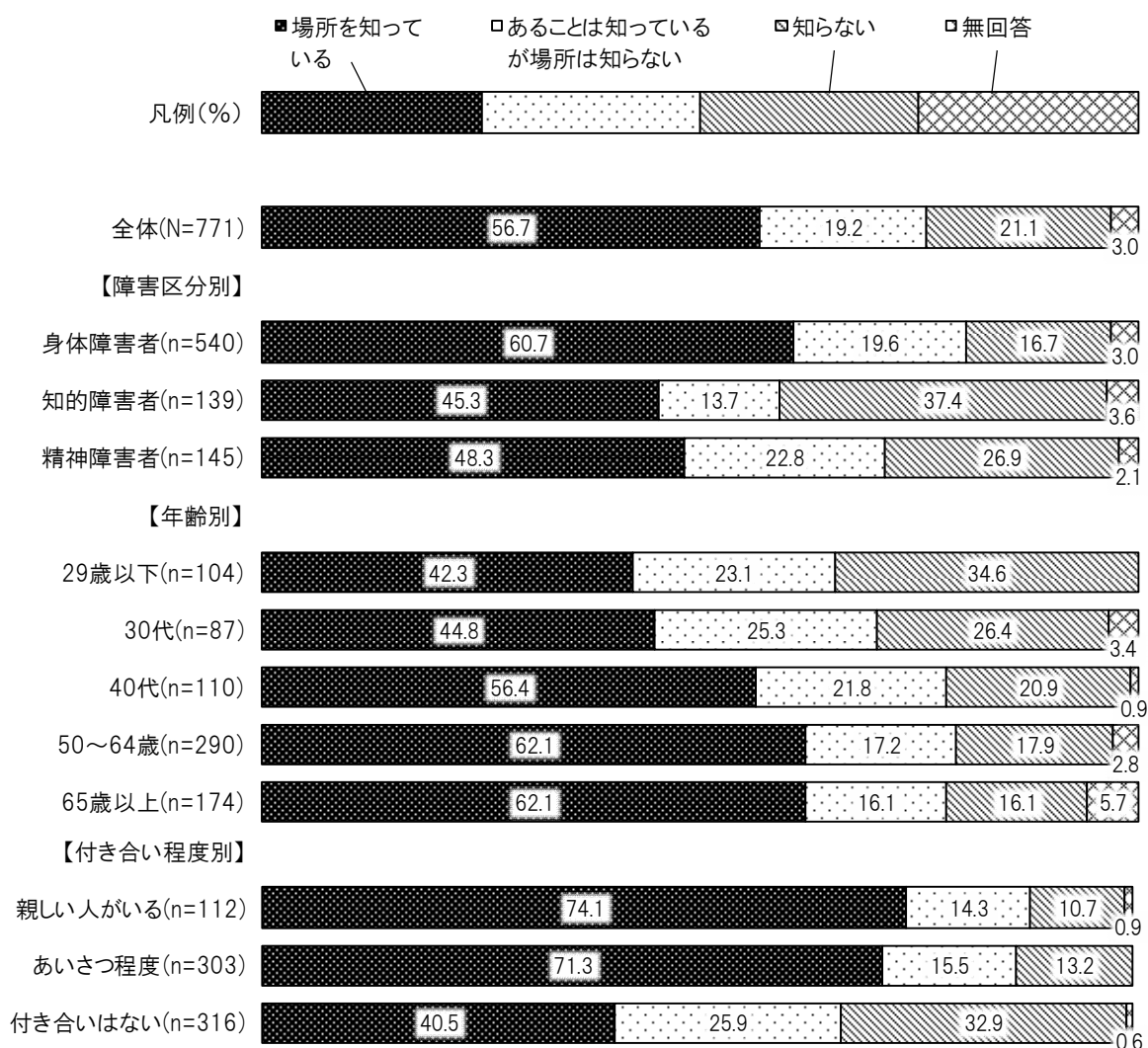
問 25 東広島市には、避難所が各所に配置されています。あなたは避難所がある場所を知っていますか。（〇は1つ）

避難所については、「場所を知っている」が56.7%、「あることは知っているが場所は知らない」が19.2%、「知らない」が21.1%となっている。

障害区分別では、身体障害者で「場所を知っている」、知的障害者で「知らない」の割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。

年齢別では、若い年齢層ほど「知らない」の割合が高くなっている。

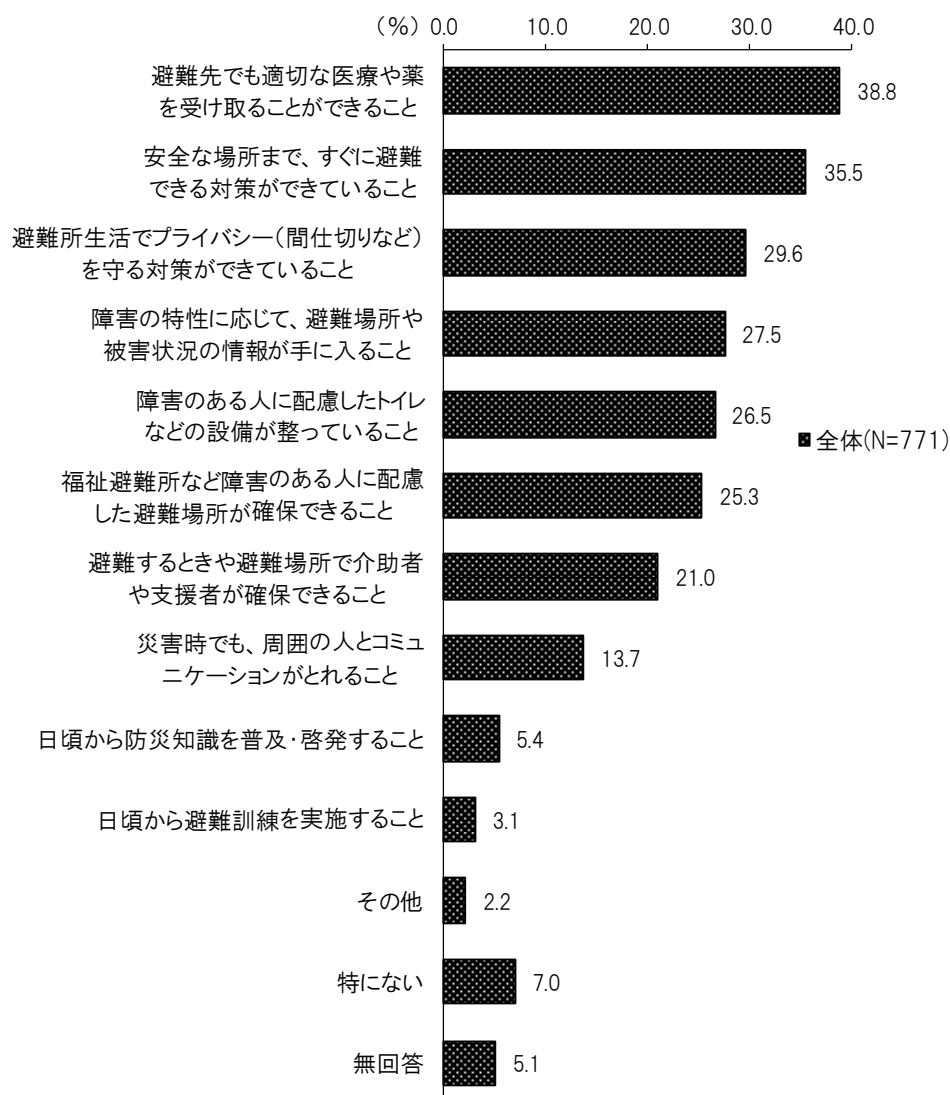
付き合い程度別では、付き合いがない層で「知らない」の割合が他の層を大きく上回っている。



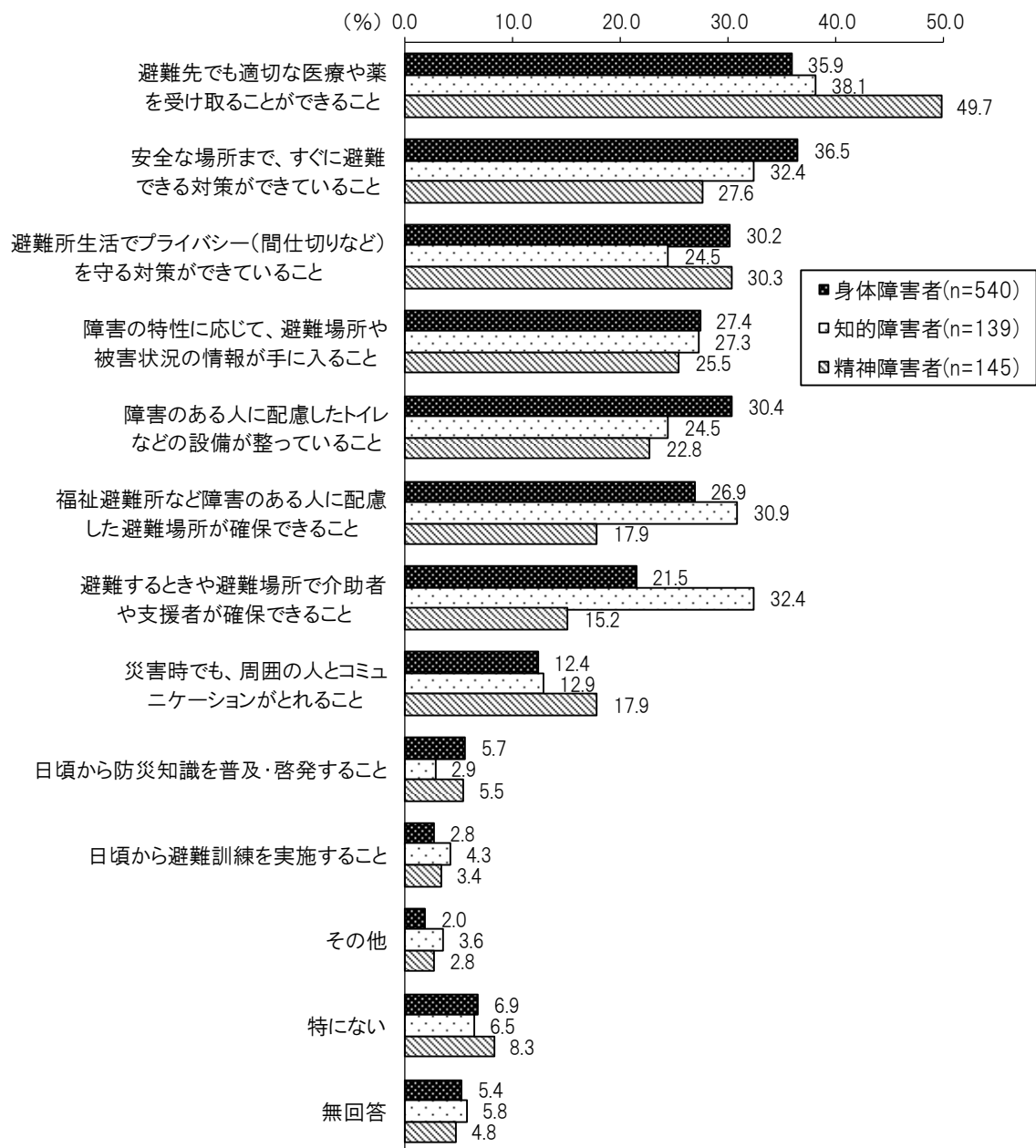
5 災害時に必要な対策

問 26 地震や大雨、台風などの災害時に備えて、あなたは、どのような対策が必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

災害時に必要な対策については、「避難先でも適切な医療や薬を受け取ることができること」の割合が38.8%と最も高く、次いで「安全な場所まで、すぐに避難できる対策ができていないこと」（35.5%）、「避難所生活でプライバシー（間仕切りなど）を守る対策ができていないこと」（29.6%）、「障害の特性に応じて、避難場所や被害状況の情報が手に入ること」（27.5%）の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「障害のある人に配慮したトイレなどの設備が整っていること」、知的障害者で「避難するときや避難場所で介助者や支援者が確保できること」、精神障害者で「避難先でも適切な医療や薬を受け取ることができること」「災害時でも、周囲の人とコミュニケーションがとれること」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



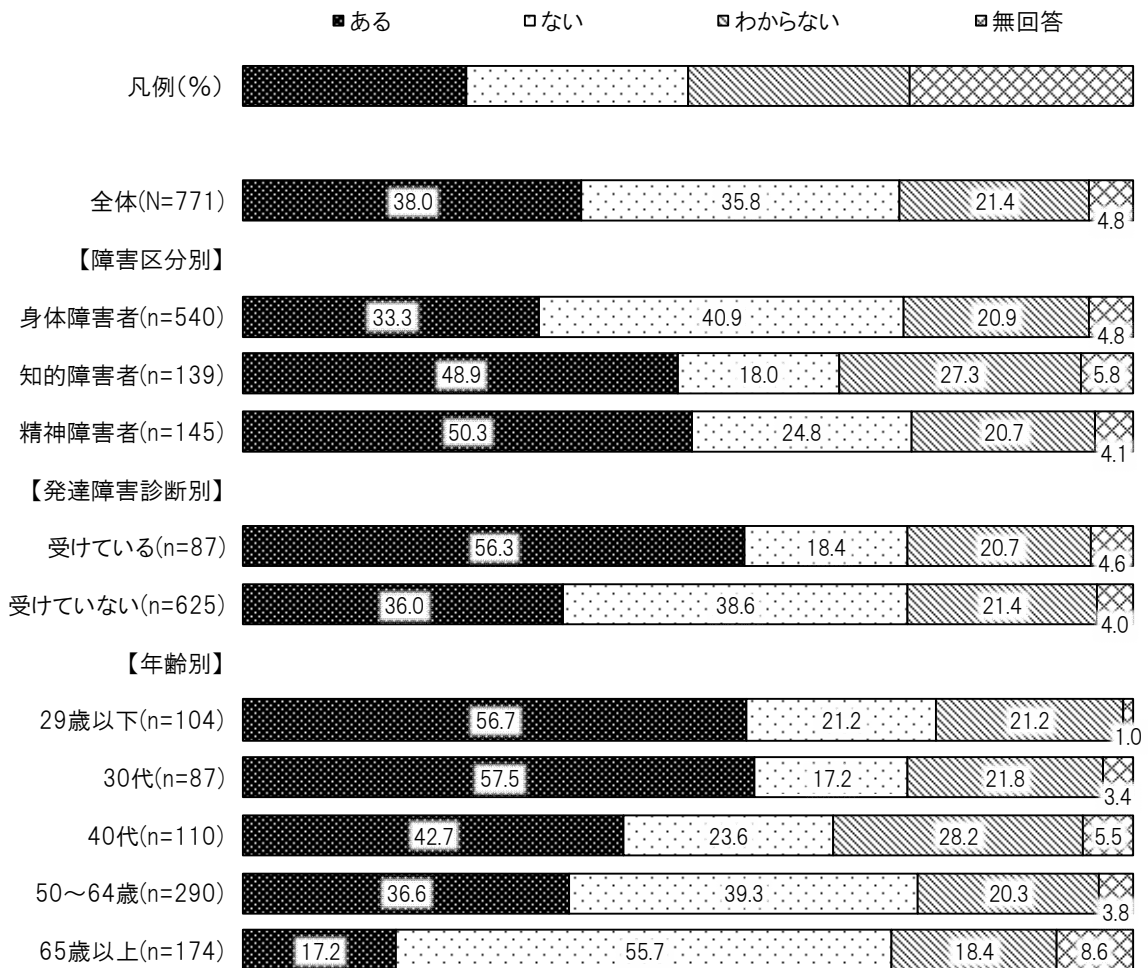
【5】障害のある人への理解について

1 差別や嫌な思いをした経験

問 27 あなたは、障害があることで差別されたことや嫌な思いをする（した）ことがありますか。（○は1つ）

差別や嫌な思いをした経験では、「ある」が 38.0%、「ない」が 35.8%、「わからない」が 21.4%となっている。

障害区分別では、身体障害者で「ない」の割合が他の障害を大きく上回っている。
発達障害診断別では、受けていると回答した層で「ある」の割合が高くなっている。
年齢別では、おおむね若い年齢層ほど「ある」の割合が高くなっている。



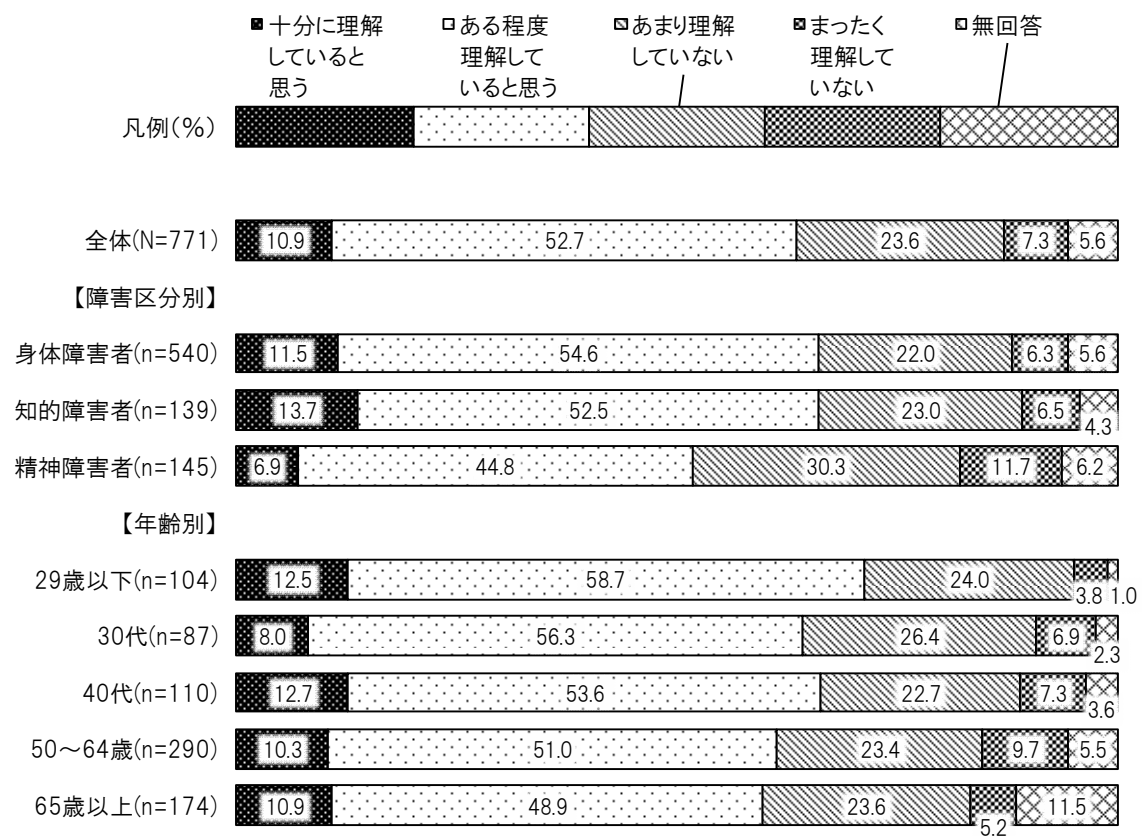
2 障害に対する周りの人の理解

問 28 あなたの周りの人は、あなたの障害のことを理解していると思いますか。
(○は1つ)

障害に対する周りの人の理解については、「十分に理解していると思う」が10.9%、「ある程度理解していると思う」が52.7%、合計で63.6%が『理解していると思う』と回答している。一方、「あまり理解していない」(23.6%)、「まったく理解していない」(7.3%)の合計は30.9%となっている。

障害区分別では、精神障害者で『理解していない(合計)』の割合が他の障害を大きく上回っている。

年齢別では、29歳以下で『理解していると思う(合計)』の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



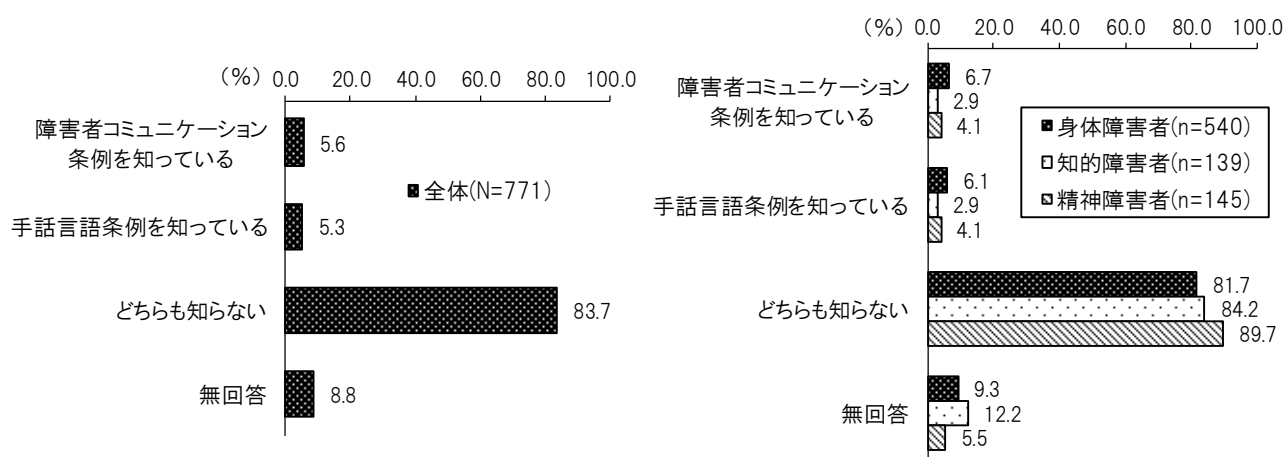
3 条例の認知

問 29 東広島市では、平成 31 年 4 月から「障害者の意思疎通手段の確保等に関する条例」（通称：障害者コミュニケーション条例）と「手話言語の認識の普及に関する条例」（通称：手話言語条例）の二つを施行しました。あなたは、このことを知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

条例については、「障害者コミュニケーション条例を知っている」が 5.6%、「手話言語条例を知っている」が 5.3%、「どちらも知らない」が 83.7%となっている。

障害区分別では、精神障害者で「どちらも知らない」の割合が他の障害に比べて高くなっている。

年齢別では、大きな差はみられない。



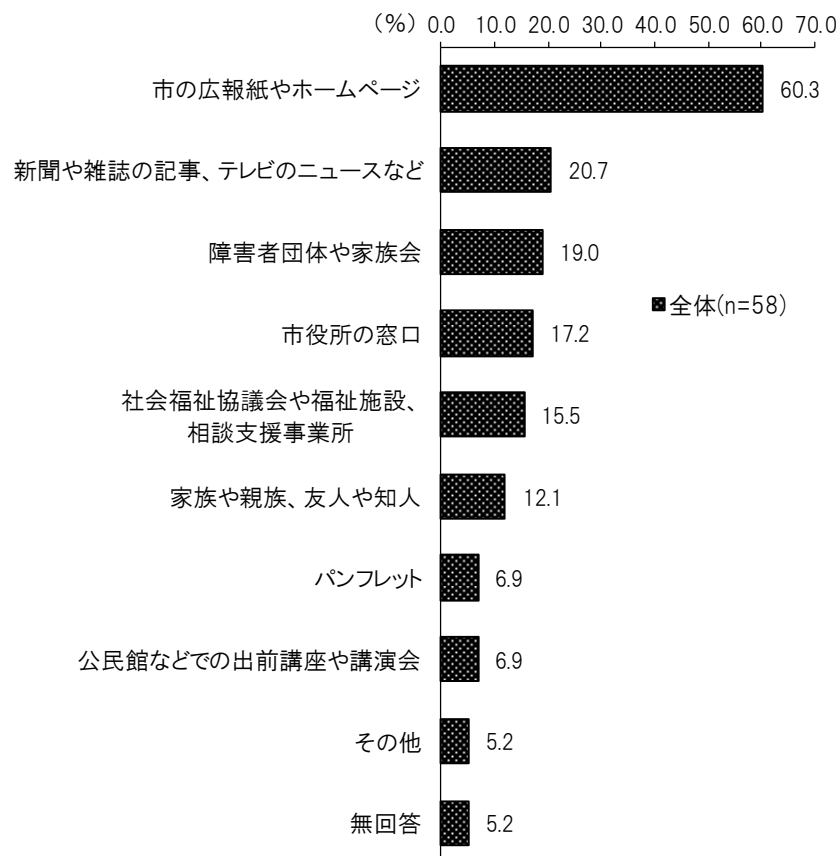
単位 (%)	障害者コミュニケーション条例を知っている	手話言語条例を知っている	どちらも知らない
全体(N=771)	5.6	5.3	83.7
【年齢別】			
29歳以下(n=104)	5.8	7.7	85.6
30代(n=87)	4.6	5.7	86.2
40代(n=110)	4.5	6.4	90.0
50～64歳(n=290)	6.2	5.2	84.8
65歳以上(n=174)	5.2	3.4	76.4

4 条例の認知経路

【 問 29 で「1～2（知っている）」を選んだ方におたずねします。 】

問 30 どこで知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

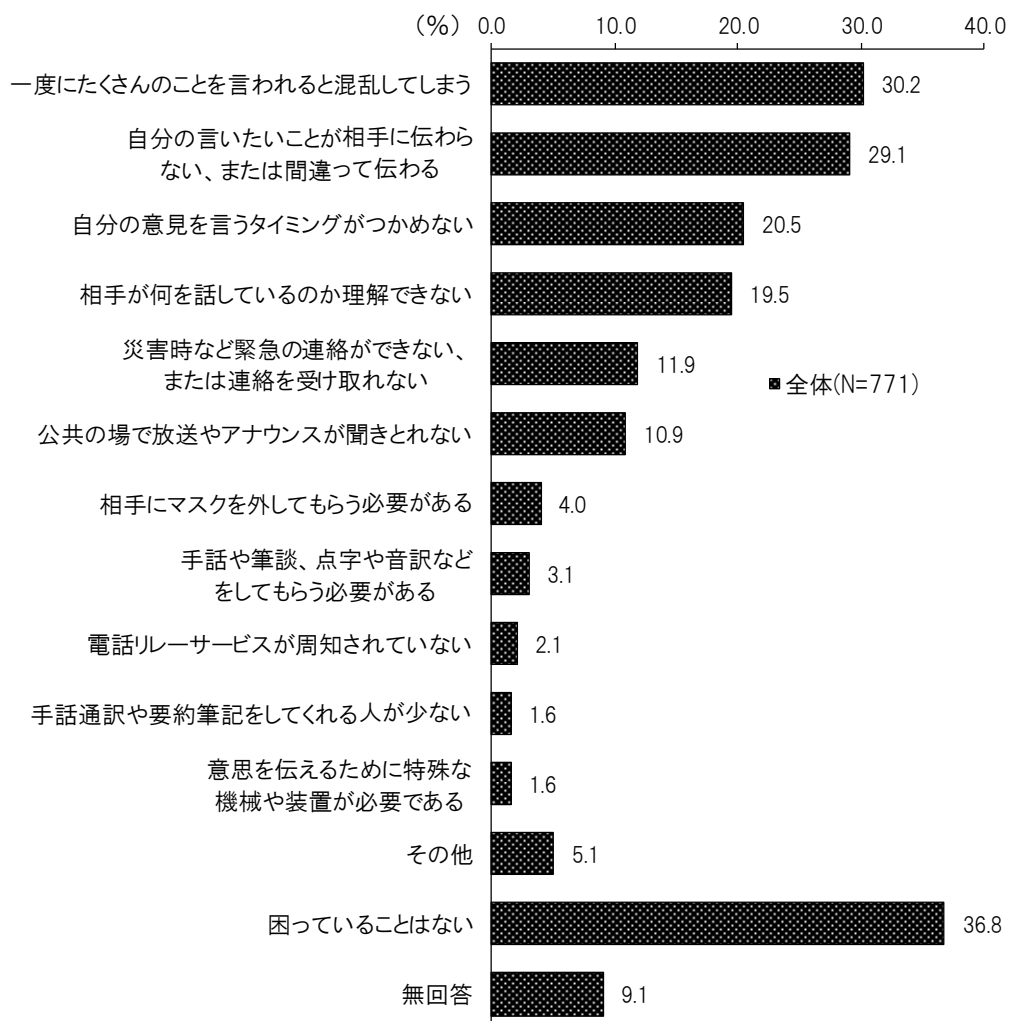
条例の認知経路については、「市の広報紙やホームページ」の割合が 60.3%と最も高く、次いで「新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど」（20.7%）、「障害者団体や家族会」（19.0%）、「市役所の窓口」（17.2%）、「社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所」（15.5%）の順となっている。



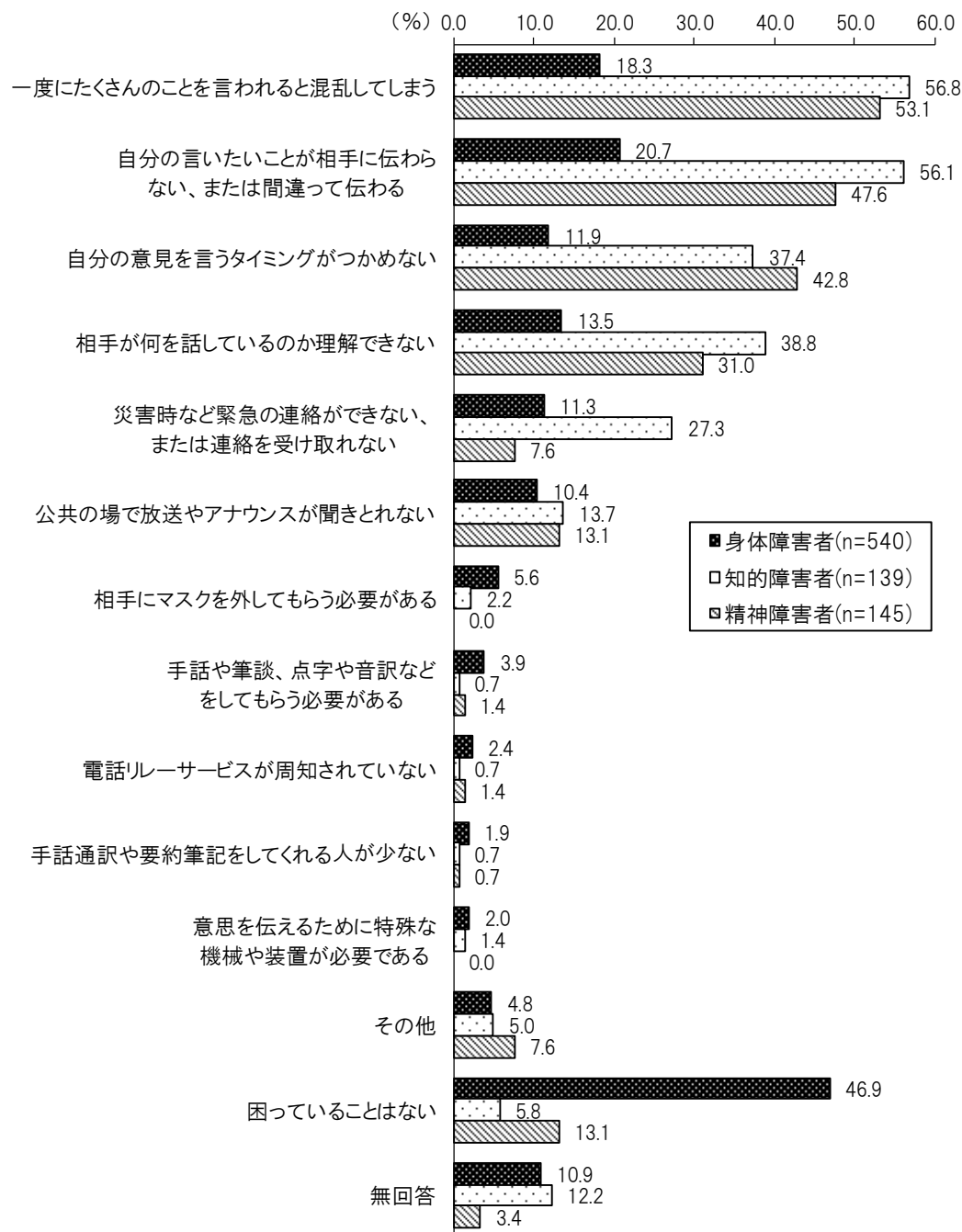
5 コミュニケーションをとるときに困ること

問 31 あなたは、人とコミュニケーションをとるときに、どのようなことに困っていますか。（あてはまるものすべてに○）

コミュニケーションをとるときに困ることについては、「一度にたくさんのことを言われると混乱してしまう」の割合が30.2%と最も高く、ほぼ並んで「自分の言いたいことが相手に伝わらない、または間違って伝わる」（29.1%）が続き、以下「自分の意見を言うタイミングがつかめない」（20.5%）、「相手が何を話しているのか理解できない」（19.5%）の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「困っていることはない」、知的障害者で「災害時など緊急の連絡ができない、または連絡を受け取れない」の割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。



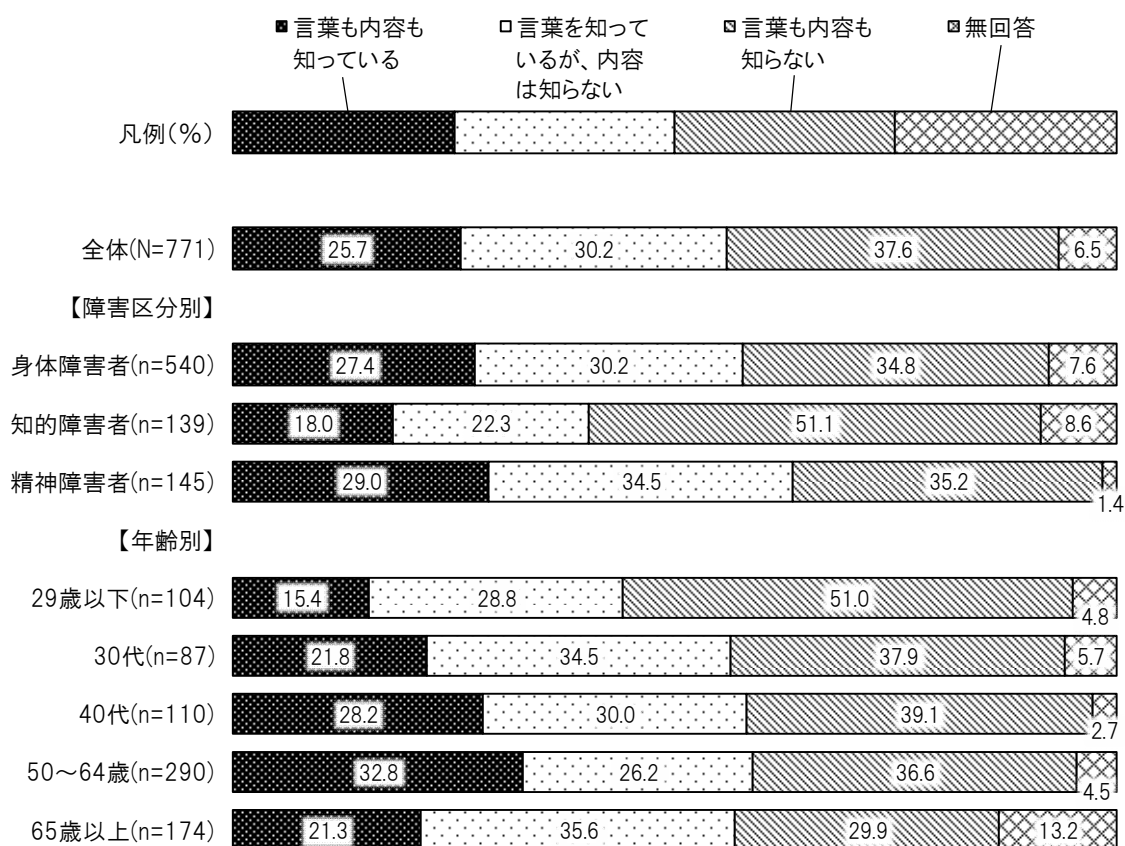
6 成年後見制度の認知

問 32 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。（○は1つ）

成年後見制度については、「言葉も内容も知っている」が 25.7%、「言葉を知っているが、内容は知らない」が 30.2%、合計で 55.9%の認知率となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は 37.6%となっている。

障害区分別では、知的障害者で「言葉も内容も知らない」の割合が他の障害を大きく上回っている。

年齢別では、29 歳以下で「言葉も内容も知らない」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

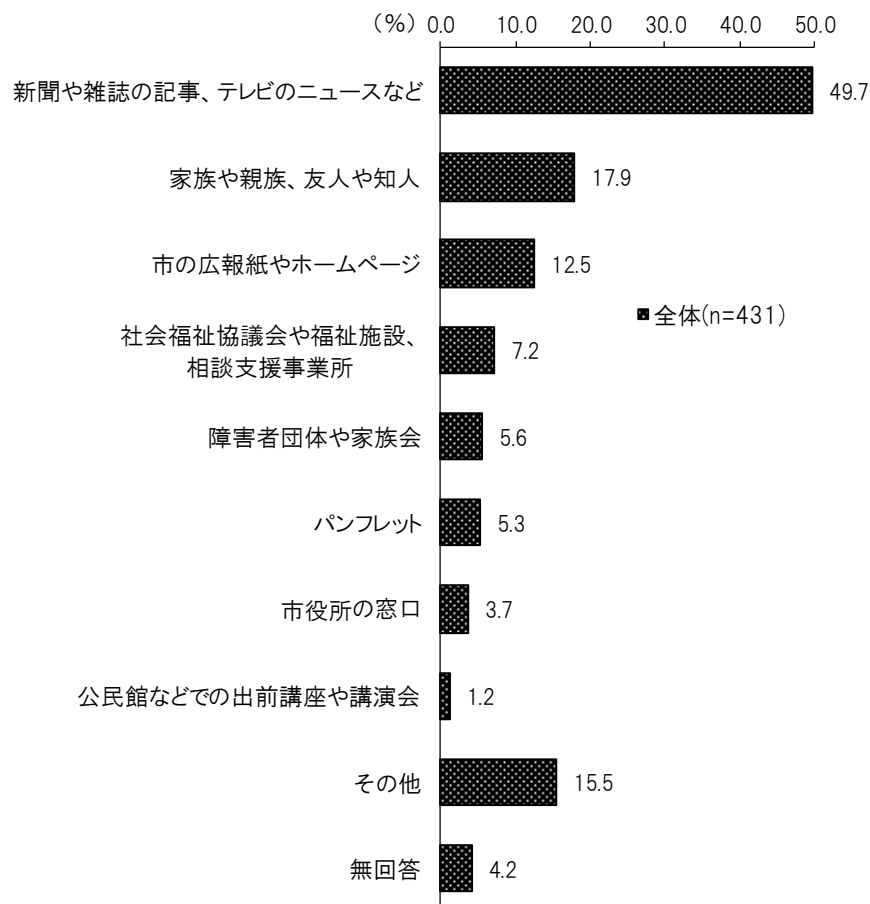


7 成年後見制度の認知経路

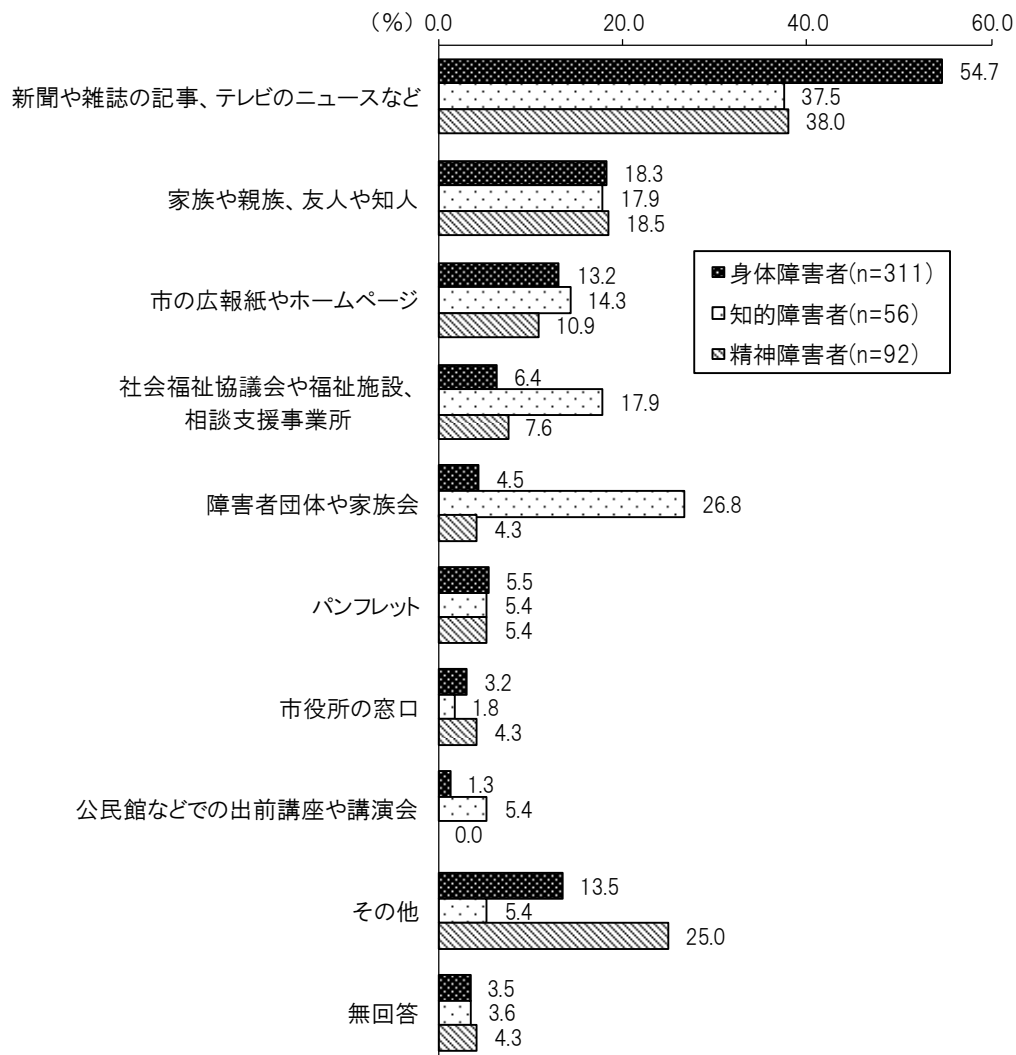
【問 32 で「1～2（知っている）」を選んだ方におたずねします。】

問 33 どこで知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

成年後見制度の認知経路については、「新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど」の割合が 49.7%と最も高く、次いで「家族や親族、友人や知人」（17.9%）、「市の広報紙やホームページ」（12.5%）、「社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所」（7.2%）の順となっている。また「その他」では、「仕事で」「病院」「大学の講義」などの回答がみられた。



障害区分別では、身体障害者で「新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど」、知的障害者で「社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所」「障害者団体や家族会」の割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。



年齢別では、30代以下で「社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所」の割合が高く、年齢が上がるほど「新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど」の割合が高くなっている。

単位 (%)	新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど	家族や親族、友人や知人	市の広報紙やホームページ	社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所	障害者団体や家族会	パンフレット	市役所の窓口	公民館などでの出前講座や講演会	その他
全体(n=431)	49.7	17.9	12.5	7.2	5.6	5.3	3.7	1.2	15.5
【年齢別】									
29歳以下(n=46)	34.8	21.7	15.2	13.0	8.7	8.7	4.3	6.5	17.4
30代(n=49)	42.9	20.4	4.1	14.3	8.2	2.0	6.1	0.0	12.2
40代(n=64)	46.9	15.6	15.6	7.8	10.9	0.0	3.1	0.0	26.6
50～64歳(n=171)	52.0	17.5	10.5	4.1	3.5	7.0	4.7	1.2	15.8
65歳以上(n=99)	56.6	17.2	17.2	6.1	3.0	6.1	1.0	0.0	9.1

8 成年後見制度の利用意向

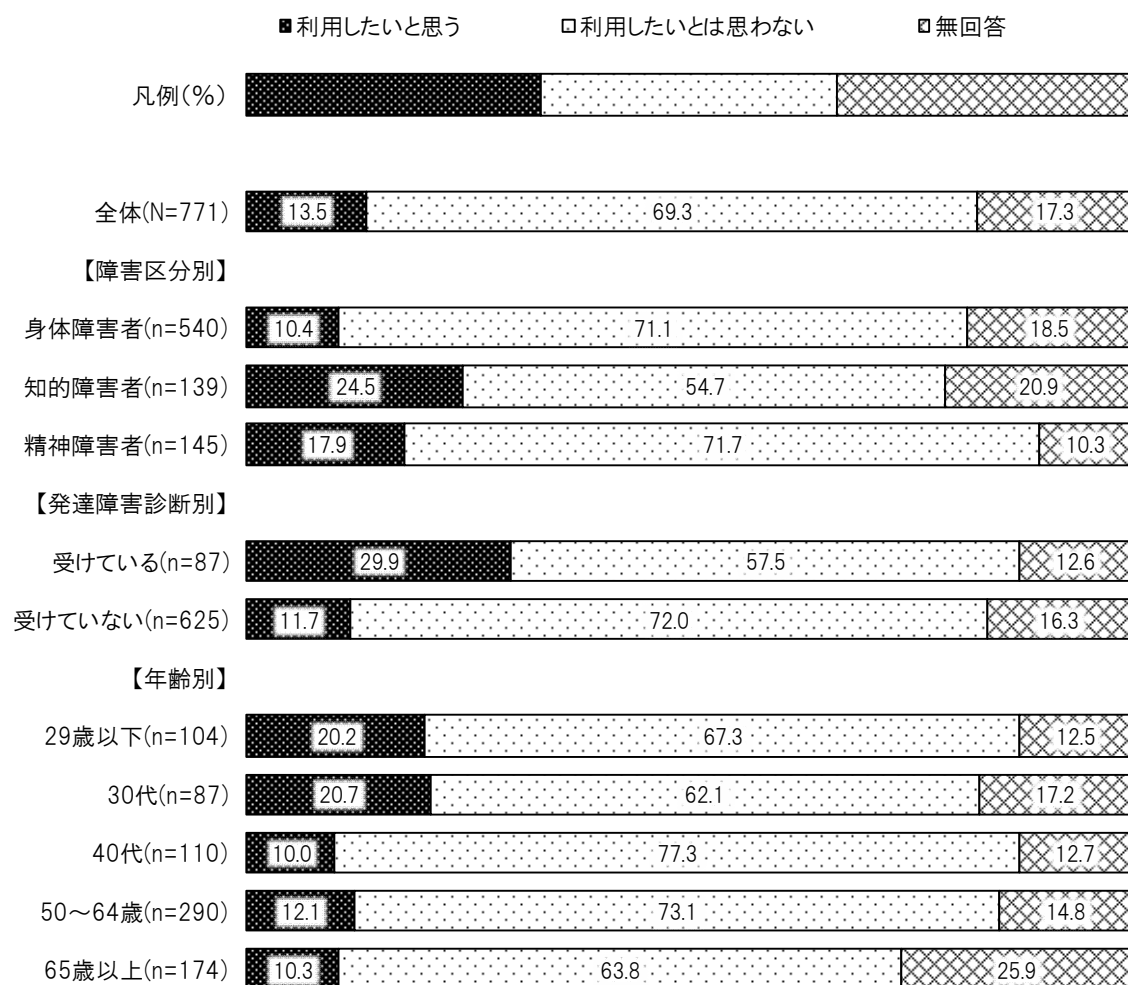
問 34 あなたは「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○は1つ）

成年後見制度については、「利用したいと思う」が 13.5%、「利用したいとは思わない」が 69.3%となっている。

障害区分別では、知的障害者で「利用したいと思う」の割合が他の障害に比べて高くなっている。

発達障害診断別では、受けていると回答した層で「利用したいと思う」の割合が高くなっている。

年齢別では、30 代以下で「利用したいと思う」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

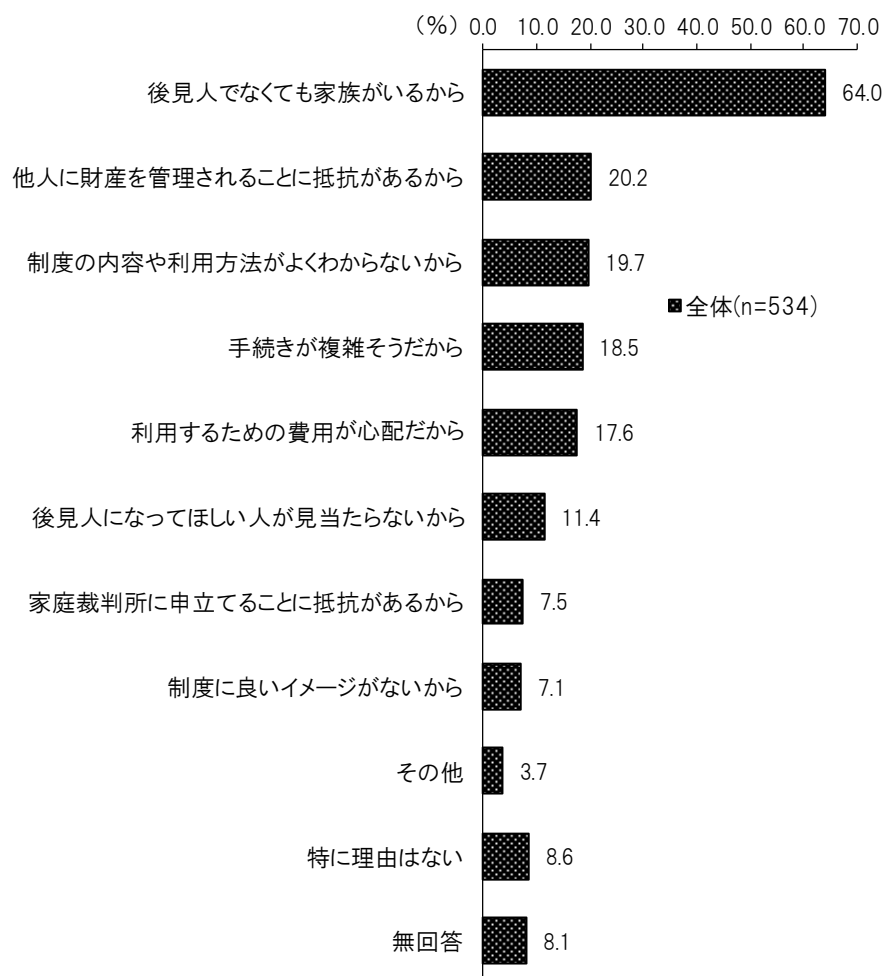


9 成年後見制度を利用したいと思わない理由

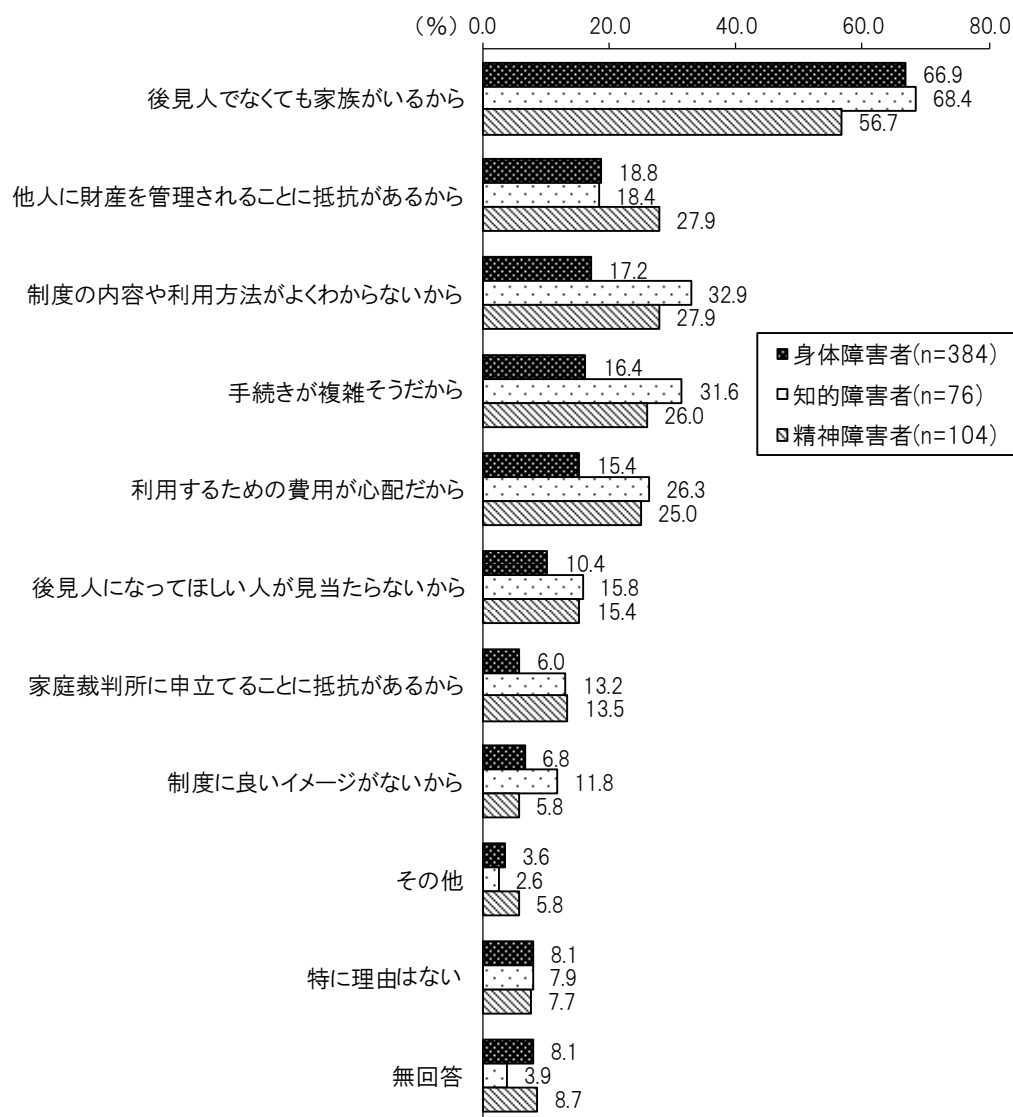
【問 34 で「2（利用したいとは思わない）」を選んだ方におたずねします。】

問 35 利用したいとは思わない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

成年後見制度を利用したいと思わない理由については、「後見人でなくても家族がいるから」の割合が 64.0%と最も高く、次いで「他人に財産を管理されることに抵抗があるから」（20.2%）、「制度の内容や利用方法がよくわからないから」（19.7%）、「手続きが複雑そうだから」（18.5%）、「利用するための費用が心配だから」（17.6%）の順となっている。



障害区分別では、精神障害者で「他人に財産を管理されることに抵抗があるから」の割合が他の障害に比べて高くなっている。



年齢別では、30代以下で「制度の内容や利用方法がよくわからないから」「手続きが複雑そうだから」「利用するための費用が心配だから」、30代で「他人に財産を管理されることに抵抗があるから」、50代以上で「後見人でなくても家族がいるから」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	後見人でなくても家族がいるから	他人に財産を管理されることに抵抗があるから	制度の内容や利用方法がよくわからないから	手続きが複雑そうだから	利用するための費用が心配だから	後見人になってほしい人が見当たらないから	家庭裁判所に申立てることに抵抗があるから	制度に良いイメージがないから	その他	特に理由はない
全体(n=534)	64.0	20.2	19.7	18.5	17.6	11.4	7.5	7.1	3.7	8.6
【年齢別】										
29歳以下(n=70)	51.4	24.3	31.4	30.0	22.9	17.1	17.1	11.4	2.9	12.9
30代(n=54)	59.3	31.5	35.2	25.9	25.9	14.8	3.7	7.4	3.7	13.0
40代(n=85)	62.4	16.5	12.9	16.5	15.3	4.7	9.4	4.7	8.2	7.1
50～64歳(n=212)	68.4	19.8	18.4	16.5	16.0	13.7	5.7	6.1	2.8	6.1
65歳以上(n=111)	67.6	16.2	12.6	13.5	15.3	7.2	5.4	8.1	2.7	9.0

【6】就労や日中の活動について

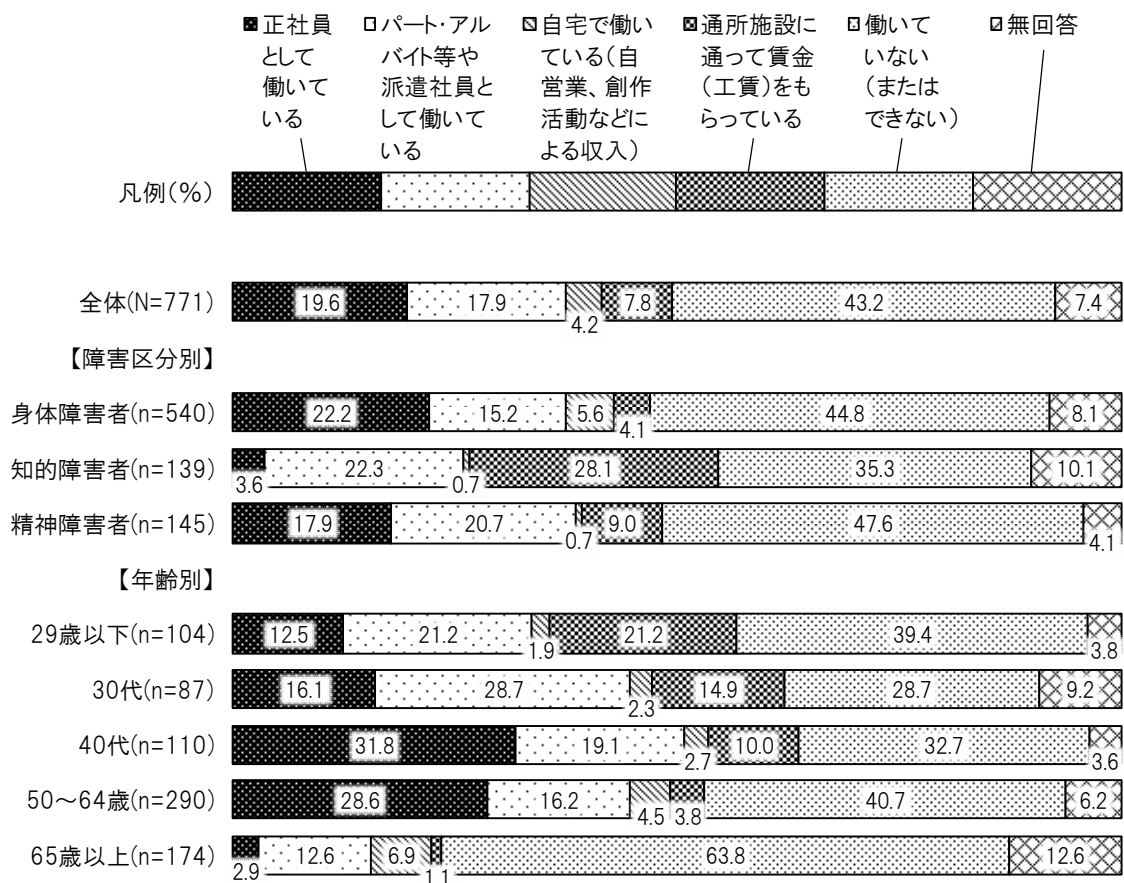
1 就労状況

問 36 あなたは、現在、働いて収入を得ていますか。（○は1つ）

就労状況については、「正社員として働いている」の割合が19.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等や派遣社員として働いている」（17.9%）、「通所施設に通って賃金（工賃）をもらっている」（7.8%）となっており、「働いていない（またはできない）」は43.2%となっている。

障害区分別では、知的障害者で「通所施設に通って賃金（工賃）をもらっている」の割合が他の障害を大きく上回っている。

年齢別では、29歳以下で「通所施設に通って賃金（工賃）をもらっている」、30代で「パート・アルバイト等や派遣社員として働いている」、40～64歳で「正社員として働いている」、65歳以上で「働いていない（またはできない）」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



2 一般就労への希望

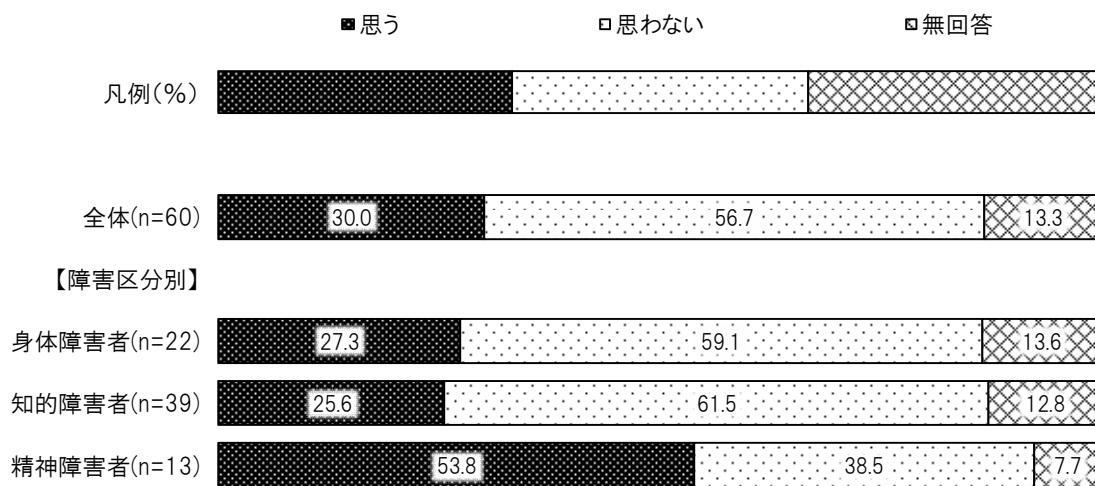
【問 36 で「4（通所施設に通っている）」を選んだ方におたずねします。】

問 37 あなたは今後、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか。

（○は1つ）

一般就労への希望については、したいと「思う」が 30.0%、「思わない」が 56.7%となっている。

障害区分別では、精神障害者で「思う」の割合が他の障害を大きく上回っている。



3 就労継続意向

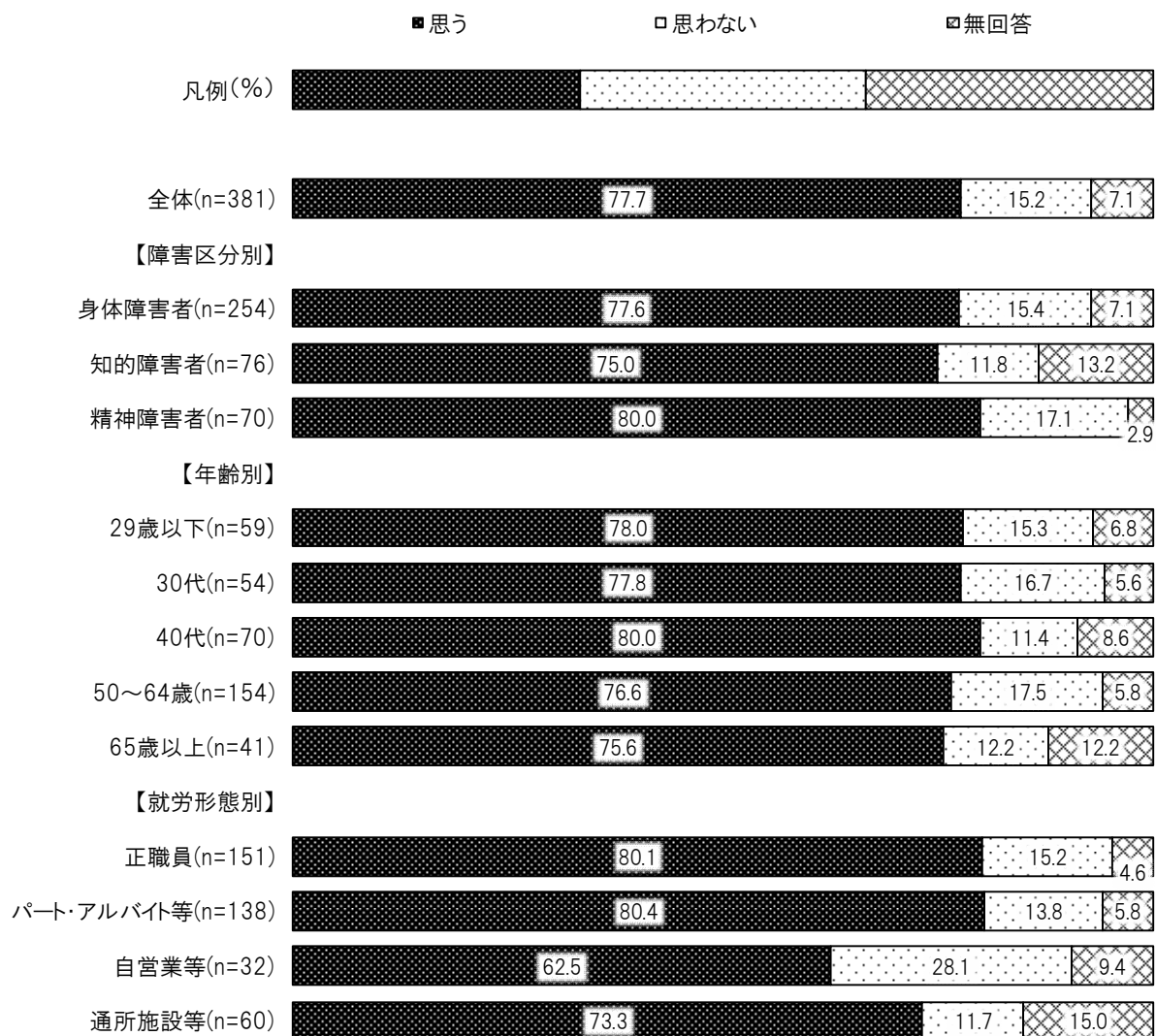
【問 36 で「1～4（働いている）」を選んだ方におたずねします。】

問 38 あなたは、今後も現在の仕事を続けたいと思いますか。（○は1つ）

就労継続意向については、現在の仕事を続けたいと「思う」が 77.7%、「思わない」が 15.2%となっている。

障害区分別や年齢別では、大きな差はみられない。

就労形態別（問 36）では、自営業等で「思わない」の割合が他の就労形態を大きく上回っている。



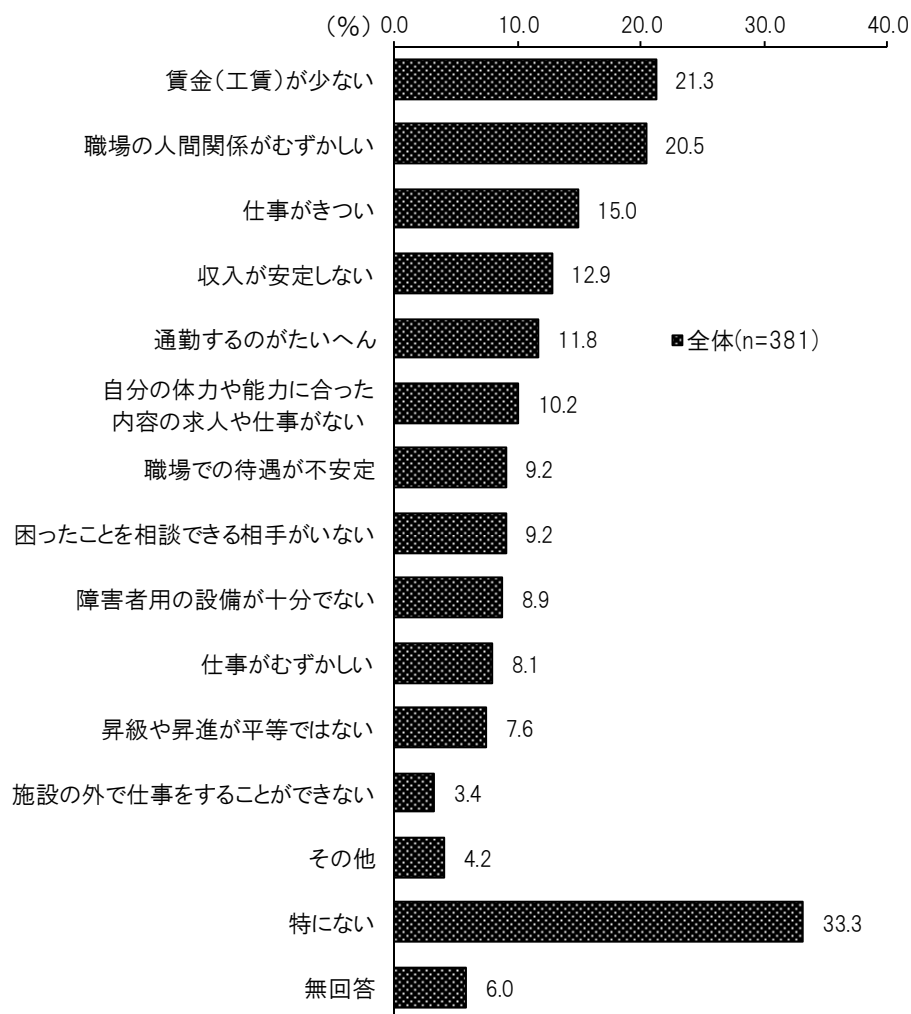
4 仕事をするうえでの不安や不満

【問 36 で「1～4（働いている）」を選んだ方におたずねします。】

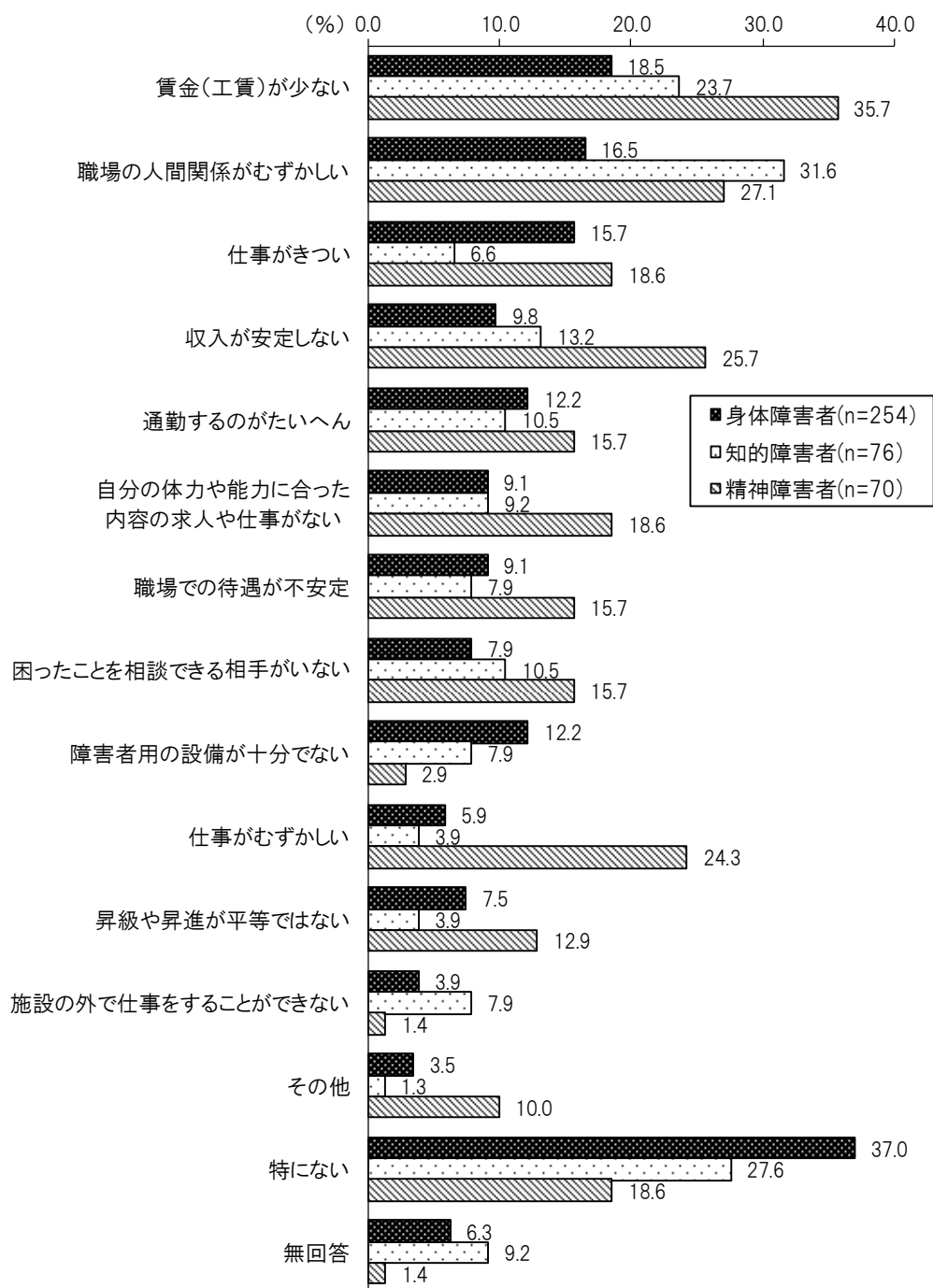
問 39 あなたが仕事をするうえで、不安や不満を感じることがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

仕事をするうえでの不安や不満については、「賃金（工賃）が少ない」の割合が 21.3%と最も高く、ほぼ並んで「職場の人間関係がむずかしい」（20.5%）が続き、以下「仕事がきつい」（15.0%）、「収入が安定しない」（12.9%）、「通勤するのがたいへん」（11.8%）の順となっている。一方、「特にない」は 33.3%となっている。



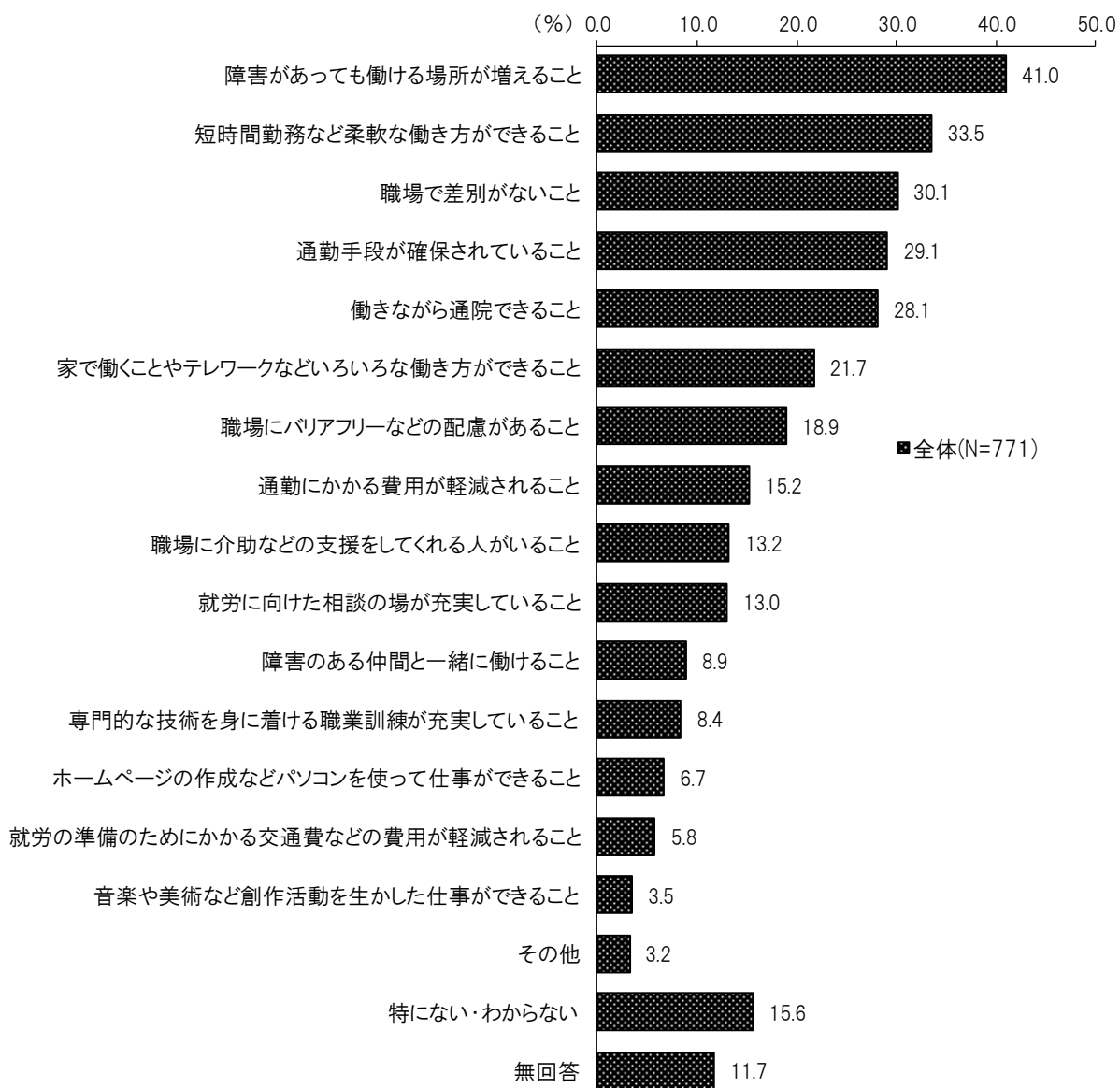
障害区分別では、身体障害者で「特にない」、精神障害者で「賃金（工賃）が少ない」「収入が安定しない」「自分の体力や能力に合った内容の求人や仕事がない」「仕事がむずかしい」などの割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。



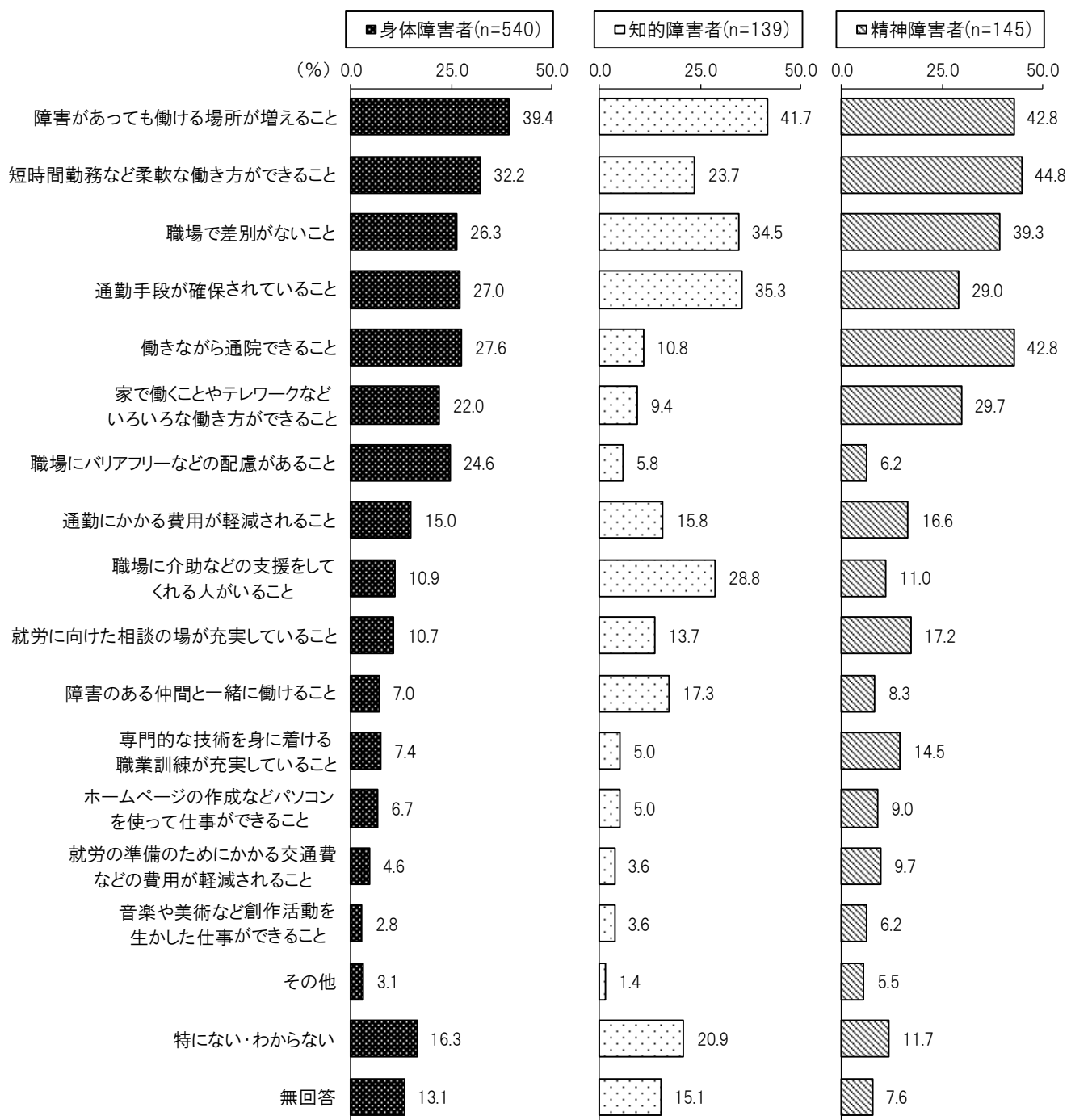
5 働きやすくなるために必要なこと

問 40 障害があっても働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(主なもの5つまでに○)

働きやすくなるために必要なことについては、「障害があっても働ける場所が増えること」の割合が 41.0%と最も高く、次いで「短時間勤務など柔軟な働き方ができること」(33.5%)、「職場で差別がないこと」(30.1%)、「通勤手段が確保されていること」(29.1%)、「働きながら通院できること」(28.1%)の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「職場にバリアフリーなどの配慮があること」、知的障害者で「職場に介助などの支援をしてくれる人がいること」「障害のある仲間と一緒に働けること」、精神障害者で「短時間勤務など柔軟な働き方ができること」「働きながら通院できること」「家で働くことやテレワークなどいろいろな働き方ができること」の割合がそれぞれ他の障害を大きく上回っている。



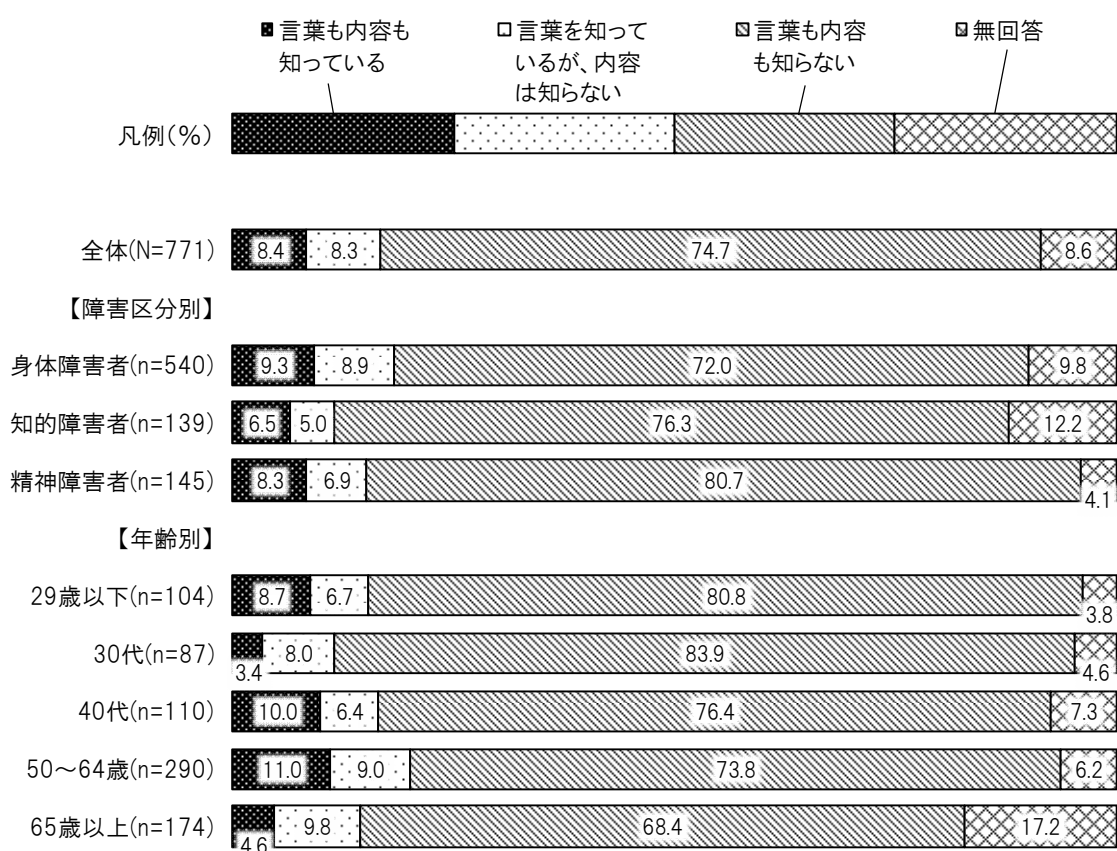
6 農福連携の認知

問 41 あなたは「農福連携」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

農福連携については、「言葉も内容も知っている」が 8.4%、「言葉を知っているが、内容は知らない」が 8.3%、合計で 16.7%の認知率となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は 74.7%となっている。

障害区分別では、精神障害者で「言葉も内容も知らない」の割合が他の障害に比べてやや高くなっている。

年齢別では、30 代以下で「言葉も内容も知らない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



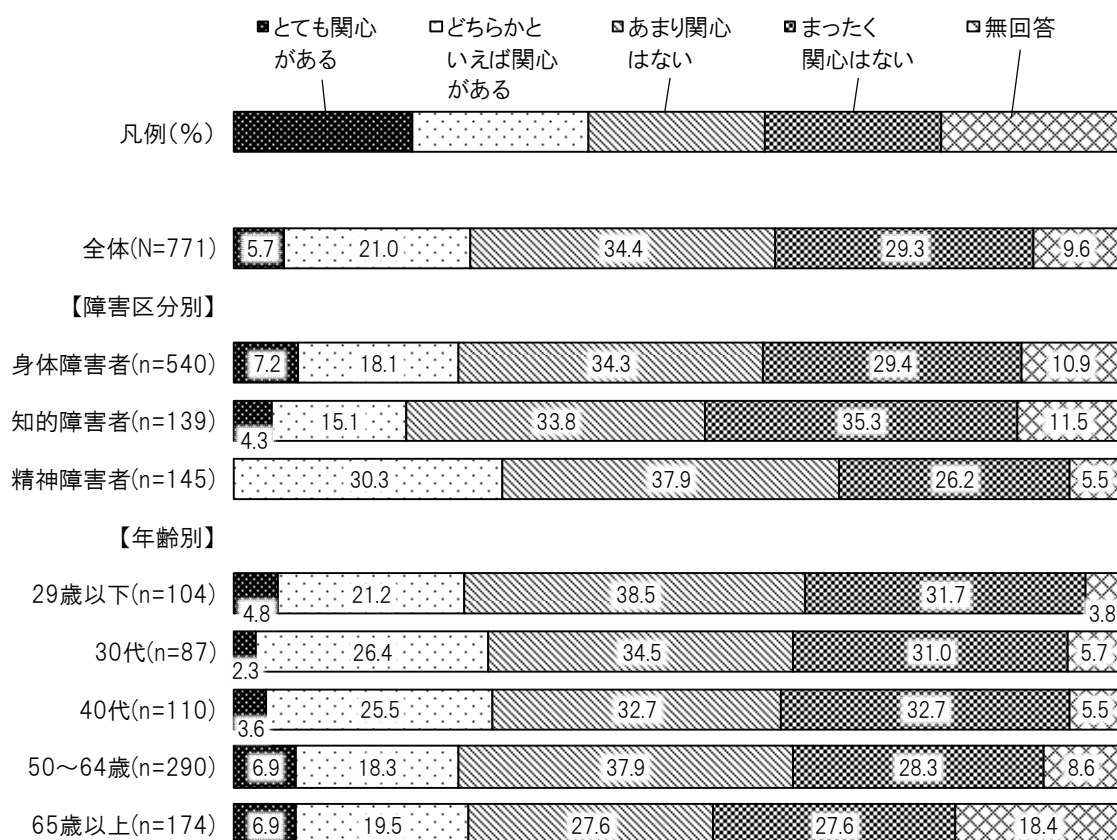
7 農業への関心度

問 42 あなたは、農業に従事することに、どの程度関心がありますか。（○は1つ）

農業への関心度については、「とても関心がある」が 5.7%、「どちらかといえば関心がある」が 21.0%、合計で 26.7%が『関心がある』と回答している。一方、「あまり関心はない」（34.4%）、「まったく関心はない」（29.3%）の合計は 63.7%となっている。

障害区分別では、精神障害者で「どちらかといえば関心がある」の割合が他の障害に比べて高くなっている。

年齢別では、大きな差はみられない。

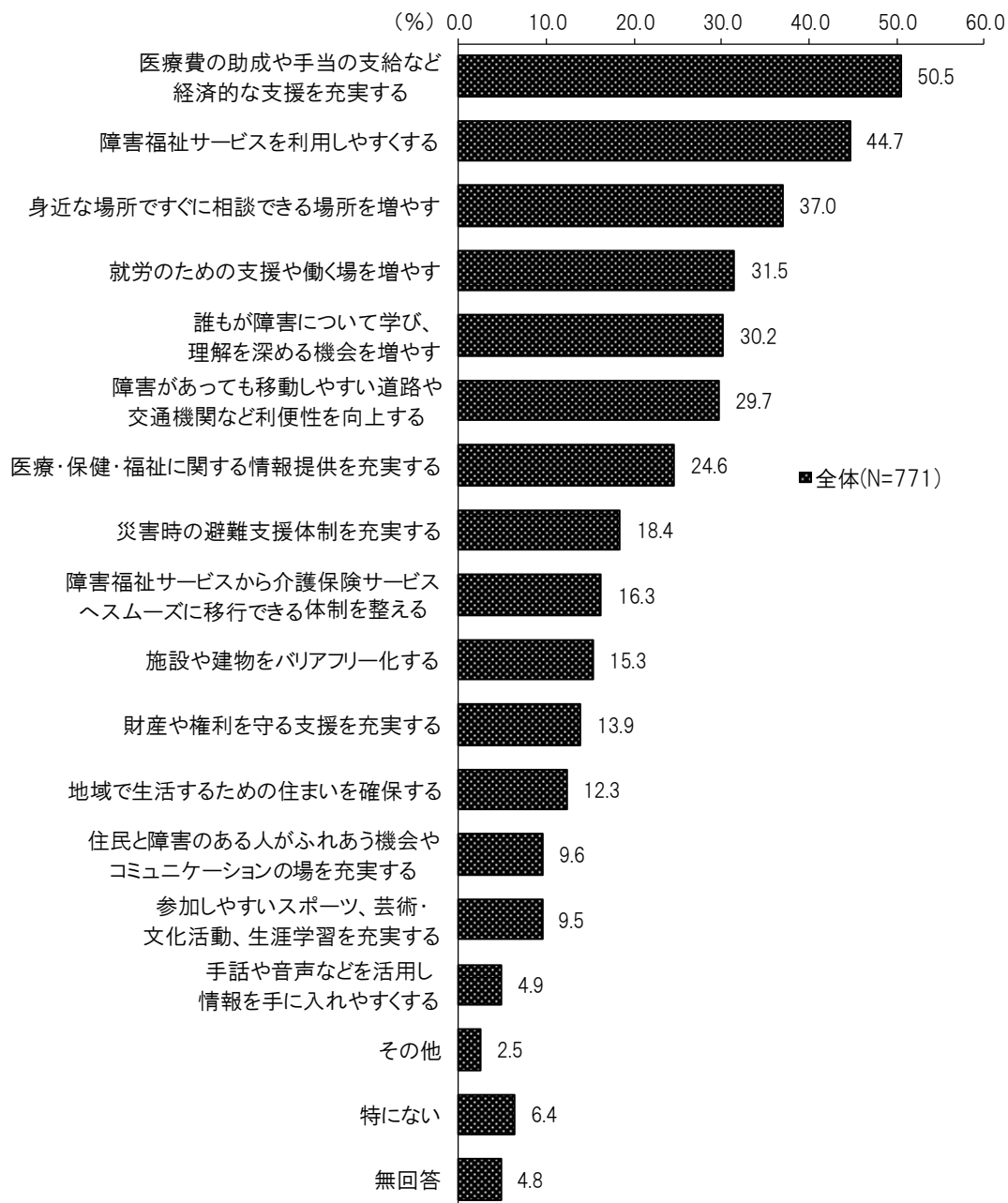


【7】東広島市の福祉施策について

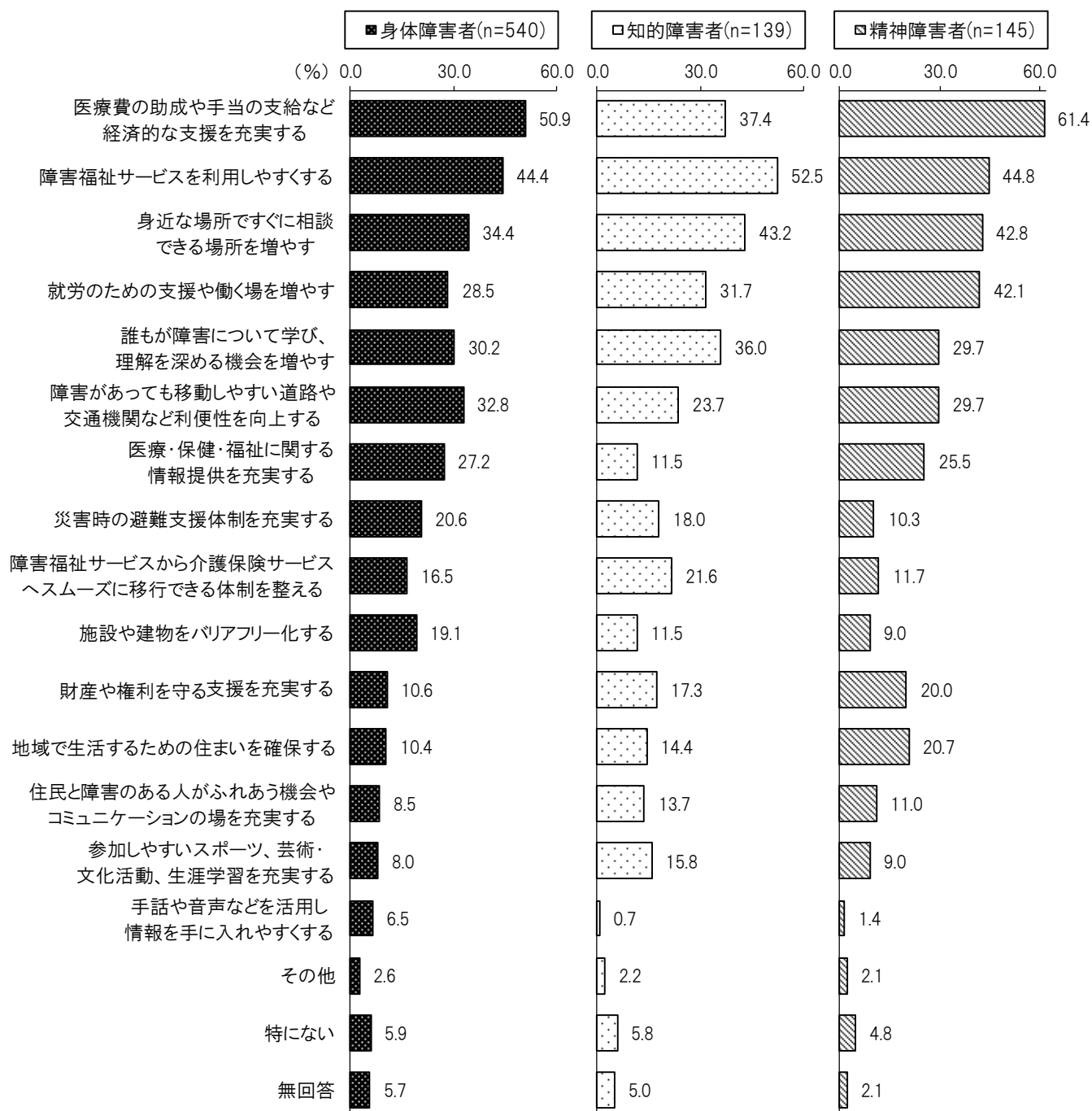
1 市が力を入れるべき取組

問 43 あなたは、障害のある人にとって暮らしやすいまちをつくるためには、東広島市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。あなたが最も力を入れるべきだと思う項目を、上位5つまで選んでください。（○は5つまで）

市が力を入れるべき取組については、「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「障害福祉サービスを利用しやすくする」（44.7%）、「身近な場所ですぐに相談できる場所を増やす」（37.0%）、「就労のための支援や働く場を増やす」（31.5%）の順となっている。



障害区分別では、身体障害者で「施設や建物をバリアフリー化する」、知的障害者で「障害福祉サービスを利用しやすくする」、精神障害者で「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」「就労のための支援や働く場を増やす」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。



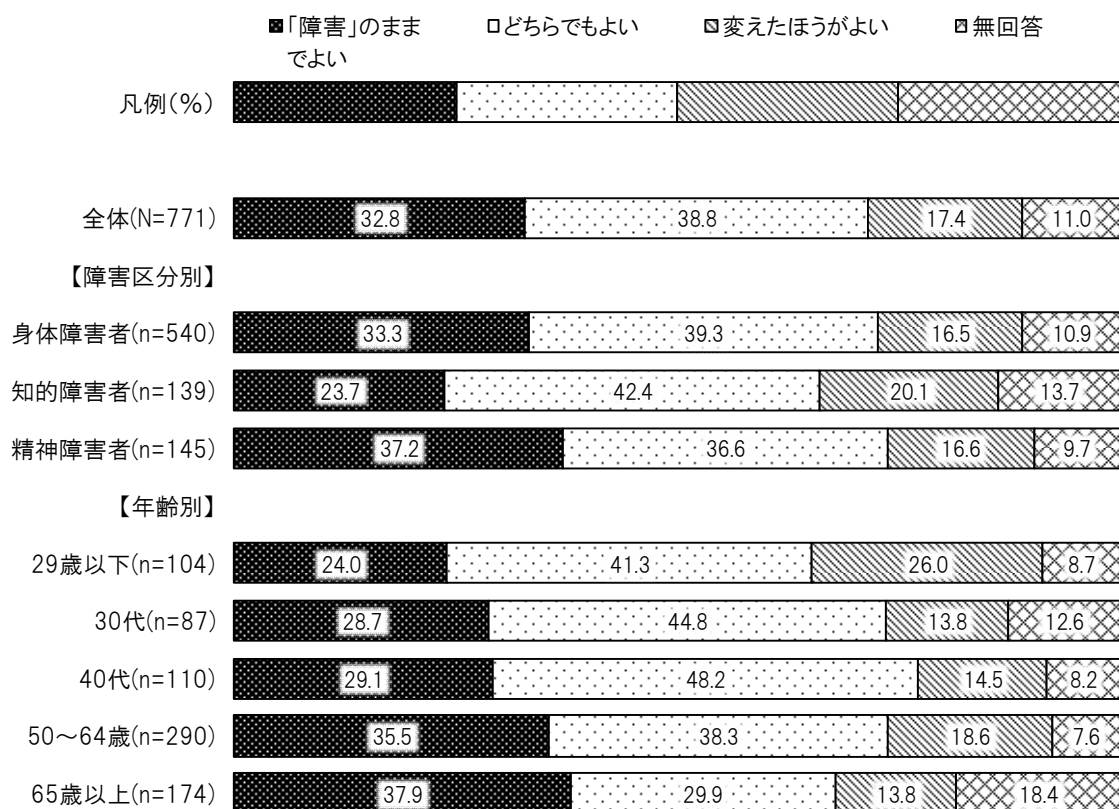
2 障害の表記について

問 44 「しょうがい」という言葉について、東広島市では、今後、どのような表現にすべきか検討を進めており、多くの人からご意見をうかがっているところです。現在、東広島市では漢字で「障害」を使っていますが、その他にさまざまな表現があります。あなたは、どのように思いますか。（〇は1つ）

障害の表記については、「障害のままでよい」が32.8%、「どちらでもよい」が38.8%、「変えたほうがよい」が17.4%となっている。

障害区分別では、知的障害者で「障害のままでよい」の割合が他の障害に比べて低くなっている。

年齢別では、29歳以下で「変えたほうがよい」の割合が高く、年齢が上がるほど「障害のままでよい」の割合が高くなっている。



3 ふさわしいと思う障害の表記

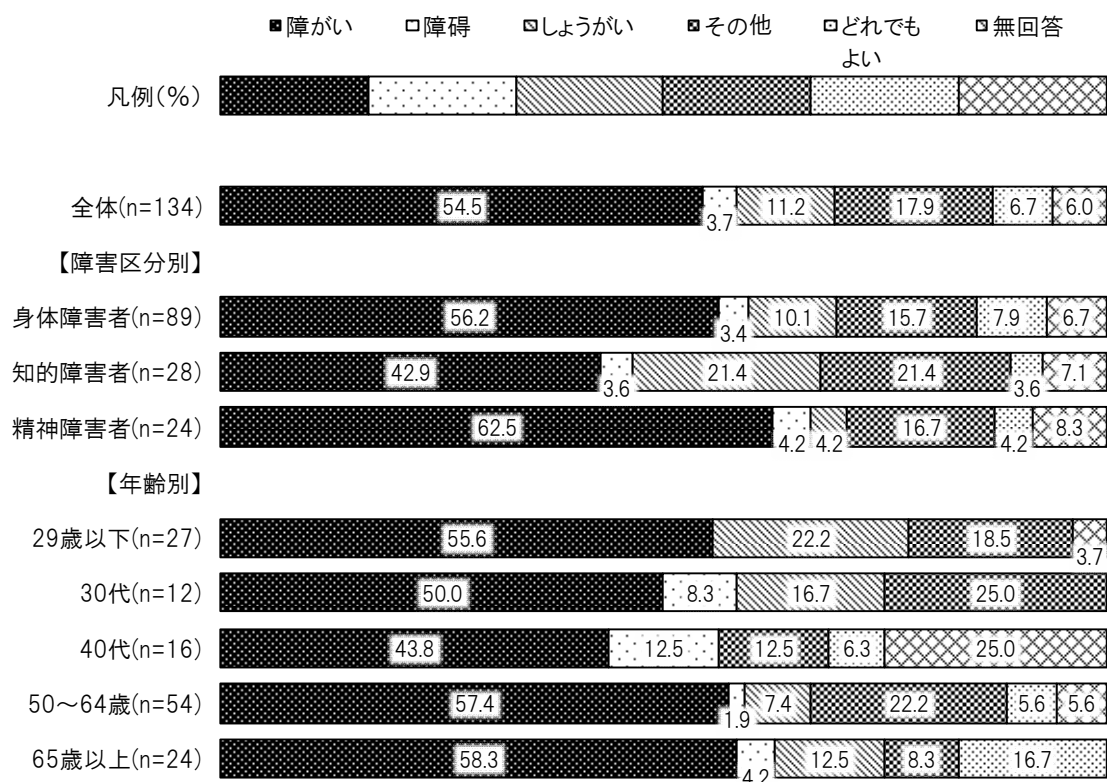
【問 44 で「3（変えたほうがよい）」を選んだ方におたずねします。】

問 45 あなたは、どの書き方がふさわしいと思いますか。（○は1つ）

ふさわしいと思う障害の表記については、「障がい」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「しょうがい」（11.2%）、「どれでもよい」（6.7%）、「障害」（3.7%）の順となっている。また「その他」では、「ハンディキャップ」「要介助等」「身障者」などの回答がみられた。

障害区分別では、知的障害者で「しょうがい」、精神障害者で「障がい」の割合がそれぞれ他の障害に比べて高くなっている。

年齢別では、29 歳以下で「しょうがい」、65 歳以上で「どれでもよい」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



ひがしひろしま し ふくし かん ちようさ
東 広島市 福祉に関するアンケート調査

【ご協 力^{きようりよく}のお願い^{ねが}い】

しみん みなさま ひごろ しせい りかい きようりよく あつ おんれいもう あ
市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協 力をいただき厚く御礼申し上げます。

ひがしひろしま し しやうがいふくし しさく いっそうじゅうじつ ひがしひろしま し しやうがい
東 広島市では、障 害福祉施策をより一層充 実させていくために「東 広島市障 害
者計画」等の策定に取り組んでいます。

このアンケートは、けいかく さくてい にあたって、しな い す しやうがい かた ふくし
サービスを利用されている方を対 象に、にちじようせいかつ ようす ふくし たい
るご意見をお 伺いし、けいかく き そしりよう
計画の基礎資料とするものです。

アンケートは、なまえ か かいとう
アンケートは、名前を書かずにご回答いただきますので、回答された方が特定され
たり個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。また、アンケートは
ひがしひろしま し こじんじようほう ほ ごじようれい てきせつ かんり
東 広島市個人情報保護条 例にしたがい、適切な管理をいたします。

たよう まこと てすう しゆし りかい
ご多用のところ 誠 にお手数をおかけしますが、アンケートの趣旨をご理解いた
だき、かいとう きようりよく ねが もう あ
き、回答にご協 力くださいますようお願い申し上げます。

れいわ ねん がつ
令和5年2月

ひがしひろしましちよう たかがき ひろのり
東 広島市長 高垣 廣徳

【アンケートに関する問^{かん}い合^とわせ先^{あ さき}】

ひがしひろしま し けんこうふくし ぶ しやうがいふくし か
東 広島市 健康福祉部 障 害福祉課

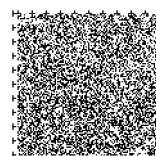
でん わ
電 話 (082) 420-0180

FAX (082) 420-0181

メール hgh200180@city.higashihiroshima.lg.jp

このアンケートは、**2月20日(月曜日)**までに、**同封の返信用封筒**に入れて、
なまえ か へんそう きって ふよう
名前を書かずに返送してください(切手は不要です)。

この冊子には、め ふじゆう かた じようほうていきよう もくてき おんせい
この冊子には、目の不自由な方への情 報 提 供を目的に音声コードを
貼付しています。専用の読み上げ装置やスマートフォンアプリ等
よ と きろく じようほう おんせい き
読み取ると、記録されている情 報 を音声で聞くことができます。



きにゆう ねが ご記入にあたってのお願い

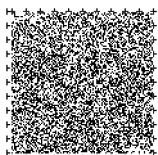
- 1 このアンケートに直接お書きください。
- 2 ご本人が直接お答えいただくことが難しい場合は、ご家族や介助者などが、ご本人のお考えをお聞きのうえ、または、ご意向を尊重してお答えください。
- 3 答えにくいことや答えたくないことなどは、無理に回答しなくても結構です。
- 4 質問への回答方法は、それぞれ質問文に書いていますので、質問文をよく読んでお答えください。

※このアンケートでは、ゆうそう あてな かた
郵送された宛名の方を「あなた」と書いていますので、あなたの
じょうきょう いけん こと
状況やご意見をお答えください。

はじめに、書かれる方についておたずねします

とい 問1 このアンケートにお答えいただくのは、誰ですか。（○は1つ）

- 1 あてな ほんにん（このアンケートがゆうそう あてな かた
宛名のご本人（このアンケートが郵送された宛名の方）
- 2 あてな ほんにん かぞく
宛名のご本人の家族
- 3 かぞく いがい かいじょしゃ
家族以外の介助者



あなた（あてな 宛名 ほんにん のご本人）のについておたずねします

問2 あなたの年齢をお答えください。（令和5年1月1日現在）（○は1つ）

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| 5 50～59歳 | 6 60～64歳 | 7 65～69歳 | 8 70歳以上 |

問3 あなたがお住まいの地域はどこですか。（○は1つ）

- | | | | | |
|------|-------|------|-------|-----------|
| 1 西条 | 2 八本松 | 3 志和 | 4 高屋 | 5 黒瀬 |
| 6 福富 | 7 豊栄 | 8 河内 | 9 安芸津 | 10 その他（ ） |

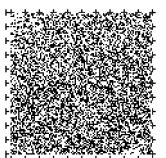
問4 あなたは①次の手帳をお持ちですか。②身体障害者手帳をお持ちの場合は、手帳に書かれている障害名もお答えください。（あてはまるものすべてに○）

① お持ちの手帳の種類

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 身体障害者手帳1級 | 7 療育手帳(A) |
| 2 身体障害者手帳2級 | 8 療育手帳A |
| 3 身体障害者手帳3級 | 9 療育手帳(B) |
| 4 身体障害者手帳4級 | 10 療育手帳B |
| 5 身体障害者手帳5級 | 11 精神障害者保健福祉手帳1級 |
| 6 身体障害者手帳6級 | 12 精神障害者保健福祉手帳2級 |
| | 13 精神障害者保健福祉手帳3級 |
| | 14 手帳は持っていない |

②（身体障害者手帳をお持ちの場合のみ）手帳に書かれている障害名をお答えください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 視覚障害 | 4 肢体不自由（上肢・下肢） |
| 2 聴覚障害・平衡機能障害 | 5 肢体不自由（体幹） |
| 3 音声・言語・そしゃく機能障害 | 6 その他の内部障害 |



問5 あなたは、次^{つぎ}にあげる項目^{こうもく}について、医師^{い し}からの診断^{しんだん}や認定^{にんてい}などを受けていますか。
(あてはまるものすべてに○)

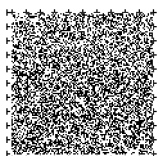
- | | |
|---|---|
| 1 難病 ^{なんびょう} ※1 ^{しんだん} の診断 | 4 介護保険制度 ^{かいごほけんせいど} の要支援・要介護認定 ^{ようしえん ようかいごにんてい} |
| 2 発達障害 ^{はったつしょうがい} ※2 ^{しんだん} の診断 | 5 医療的ケア ^{いりようてき} ※4 |
| 3 高次脳機能障害 ^{こうじのうきのうしょうがい} ※3 ^{しんだん} の診断 | 6 あてはまるものはない |

※1 難病^{なんびょう}（特定疾患^{とくていしつかん}）とは、パーキンソン病^{びょう}や筋ジストロフィー^{きん}などの治療法^{ちりょうほう}が確立^{かくりつ}していない疾病^{しつぺい}その他の特殊な疾病^{た とくしゅ しつぺい}をいいます。

※2 発達障害^{はったつしょうがい}とは、自閉スペクトラム症^{じへい}、注意欠如・多動症^{しやう}（ADHD）^{ちゆういけつじょ たどうしやう}、学習症^{がくしゅうしやう}（学習障害^{がくしゅうしょうがい}）、トゥレット症候群^{しやうこうぐん}、吃音^{きつおん}などをいいます。

※3 高次脳機能障害^{こうじのうきのうしょうがい}とは、一般^{いっぱん}に、外傷性脳損傷^{がいしやうせいのおうそんしやう}、脳血管障害^{のうけつかんしやうがいどう}等により脳^{のう}に損傷^{そんしやう}を受け、その後遺症^{こういしやうとう}等として生じた記憶障害^{きおくしやうがい}、注意障害^{ちゆういしやうがい}、社会的行動障害^{しゃかいてきこうどうしやうがい}などの認知障害^{にんちしやうがいどう}等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない^{あ とろ}」等の症状^{しやうじやう}があります。

※4 医療的ケア^{いりようてき}とは、人工呼吸器^{じんこうこきゅうき}の使用、たんの吸引^{きゅういん}や経管栄養^{けいかんえいよう}などを行う^{おこな}ことをいいます。



障害福祉サービスの利用についておたずねします

問6 あなたが、現在支給決定を受けて利用している障害福祉サービスについておたずねします。

① 現在、支給決定を受けて利用しているサービスをすべてお答えください。

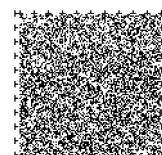
※受給者証の交付を受けている方は、それに書いてある内容を参考にしてください。

② あなたが支給決定を受けていないサービスのうち、今後新たに利用したいサービスはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

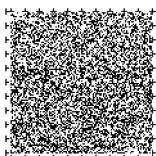
(あてはまるものすべてに○)		問6①	問6②
		現在、支給決定を受けて利用しているサービスの番号に○印↓	今後、新たに利用したいサービスの番号に○印↓
1 居宅介護 (ホームヘルプ)	ホームヘルパーが自宅を訪問して、入浴や排せつ、食事、洗濯、掃除等の介助を行うサービスです。	1	1
2 重度訪問介護	重度の障害があり、常に介護が必要な人に、自宅で入浴や排せつ、食事などの介助や外出時の移動補助を行うサービスです。	2	2
3 同行援護	視覚障害により移動が著しく困難な人に、外出に必要な情報の提供や移動の援護などを行うサービスです。	3	3
4 行動援護	知的障害や精神障害により行動が困難で常に介護が必要な人に、食事や排せつなどの介助、外出時の移動補助などを行うサービスです。	4	4
5 重度障害者等 包括支援	寝たきりなどで常に介護が必要な人で、介護の必要の程度が著しく高い人に、居宅介護(ホームヘルプ)などのサービスを包括的に提供するサービスです。	5	5



次のページへ続く



(あてはまるものすべてに○)		問6①	問6②
		現在、支給決定を受けて利用しているサービスの番号に○印↓	今後、新たに利用したいサービスの番号に○印↓
6 短期入所 (ショートステイ)	介護する人が病気の時などに、障害のある人が施設に短期間入所し、入浴や排せつ、食事の介護などを行うサービスです。	6	6
7 生活介護	常に介護が必要な人に、施設で入浴や排せつ、食事の介護や創作的活動などの機会を提供するサービスです。	7	7
8 療養介護	医療が必要で常に介護を必要とする人に、主に昼間に病院などで、機能訓練や療養上の管理、看護などを提供するサービスです。	8	8
9 自立訓練（機能訓練、生活訓練、 宿泊型自立訓練）	自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練を行うサービスです。	9	9
10 就労移行支援	一般就労したい人に、一定の期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行うサービスです。	10	10
11 就労継続支援 (A型)	一般就労が困難な人が、働く場として事業所と雇用契約を結び、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	11	11
12 就労継続支援 (B型)	一般就労が困難な人に、事業所と雇用契約を結ばずに、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	12	12

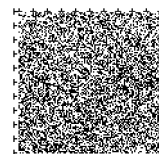


つぎ
次のページへ続く

(あてはまるものすべてに○)		問6①	問6②
		現在、支給決定を受けて利用しているサービスの番号に○印↓	今後、新たに利用したいサービスの番号に○印↓
13 就労定着支援	就労移行支援などを利用して一般就労した人に対して、日常生活や就労で困っていることについて、その問題の解決に必要な指導や助言などを行うサービスです。	13	13
14 自立生活援助	障害者施設などを利用していた人で、一人暮らしを希望する人に、必要な情報の提供や助言、支援を行うサービスです。	14	14
15 共同生活援助 (グループホーム)	夜間や休日に、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助などを行うサービスです。	15	15
16 施設入所支援	主として夜間に、施設に入所する人に対し入浴や排せつ、食事の介護などの支援を行うサービスです。	16	16
17 計画相談支援	障害福祉サービス等を利用するための、計画の作成や利用についての支援を行うサービスです。	17	17
18 地域移行支援	施設や病院から退所、退院後の住まいの確保や地域での生活に移行するための相談や支援を行います。	18	18
19 地域定着支援	施設や病院からの退所、退院や一人暮らしを始める障害のある人に、常に連絡がとれる体制を確保し、緊急のときに必要な支援を行います。	19	19



つぎ
次のページへ続く



(あてはまるものすべてに○)		問6①	問6②
		現在、支給決定を受けて利用しているサービスの番号に○印↓	今後、新たに利用したいサービスの番号に○印↓
20	移動支援 いどうしえん	20	20
21	日中一時支援 にっちゅういちじしえん	21	21
22	支給決定を受けているサービスはない・利用したいサービスはない しきゅうけつてい う	22	22

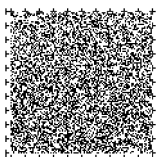


【 問6①で「22」を選んだ方は問8へお進みください。それ以外の方は問7へお進みください。 】

【 問6①で「1～21」を選んだ方におたずねします。 】

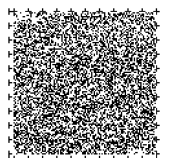
問7 あなたは、利用したことがある障害福祉サービスに対して、不満に思うことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1 利用したいサービスがあるのに条件に合わず利用できない りよう じょうけん あ りよう	6 高齢者が利用できるサービスが少ない こうれいしゃ りよう すく
2 支給決定までに時間がかかりすぎる しきゅうけつてい じかん	7 介護保険サービスにスムーズに移行できない かいごほけん いこう
3 身近な施設や事業所を利用できない みぢか しせつ じぎょうしょ りよう	8 建物や設備が障害に配慮されていない たてもの せつび しょうがい はいりょ
4 利用したい日や時間に利用できない りよう ひ じかん りよう	9 サービス内容についての情報が少ない ないよう じょうほう すく
5 こちらの要望を聞いてくれない ようぼう き	10 その他 () た
	11 特にない・わからない とく



問8 今後、障害福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あなたが最も必要だと思う項目を、上位5つまで選んでください。（○は5つまで）

- 1 どのようなサービスがあるのか、定期的に情報を提供してほしい
- 2 申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい
- 3 申請や手続きを素早くできるようにしてほしい
- 4 障害の特性に応じた方法で情報を提供してほしい
- 5 自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい
- 6 必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい
- 7 身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい
- 8 施設の職員などの人数を増やしてほしい
- 9 サービスの費用負担を軽減してほしい
- 10 高齢になっても使えるサービスや施設がほしい
- 11 介護保険制度にスムーズに移行できるようにしてほしい
- 12 どこに住んでいても同じサービスが受けられるようにしてほしい
- 13 その他（
- 14 特にない・わからない



住まいや暮らしについておたずねします

問9 あなたは現在、どのように暮らしていますか。（〇は1つ）

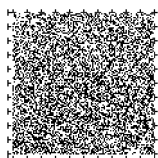
- 1 自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている
- 2 自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしている
- 3 グループホームで暮らしている
- 4 福祉施設に入所している
- 5 病院に入院している
- 6 その他（ ）

問10 あなたは今後、どのように暮らしたいと思いますか。（〇は1つ）

- 1 自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい
- 2 自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 福祉施設に入所したい
- 5 その他（ ）

問11 あなたが外出するときに、困ることや心配は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 公共交通機関が少ない | 7 外出にお金がかかる |
| 2 バスや電車の乗り降りが困難 | 8 周囲の目が気になる |
| 3 道路や歩道に階段や段差が多い | 9 発作など突然の身体変化が心配 |
| 4 切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい | 10 困ったときにどうすればいいのか心配 |
| 5 外出先の通路やトイレ、エレベーターなどの設備が不便 | 11 タクシー乗車助成券が使いにくい |
| 6 介助者が確保できない | 12 その他（ ） |
| | 13 特にない・外出しない |



問12 あなたを介助してくれる人は、主に誰ですか。（○は1つ）

- 1 父または母
- 2 配偶者（夫または妻）
- 3 子ども
- 4 きょうだい
- 5 親せき
- 6 友人・知人

- 7 福祉施設の職員・ホームヘルパー
- 8 その他（ ）
- 9 介助は必要ない（介助者はいない）

【次は問14へ】

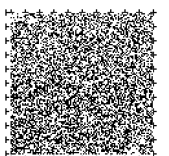
【問12で「1～6」を選んだ方におたずねします。】

問13 介助してくれる人の年齢、健康状態についてお答えください。（○は1つずつ）

① 介助者の年齢	1 18歳未満	2 18～29歳	3 30～39歳	4 40～49歳
	5 50～59歳	6 60～69歳	7 70～79歳	8 80歳以上
② 介助者の健康状態	1 健康である	2 健康に不安がある		

問14 これから先、あなたを介助してくれる人の高齢化や介助してくれる人がなくなったときのために、どのような支援が必要になってくると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 住まいの確保
- 2 身のまわりの世話をしてくれる人の確保
- 3 一人暮らしや共同生活に慣れるための支援
- 4 緊急時の居場所の確保
- 5 災害時の避難支援
- 6 経済的な支援の充実
- 7 相談支援の充実
- 8 まわりの人とのコミュニケーションの支援
- 9 日中過ごせる場所・仲間や友達と出会える場所の充実
- 10 進学や就職に向けた支援
- 11 その他（ ）
- 12 特にない



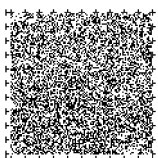
問15 あなたが今後、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、どのような支援が必要ですか。あなたが最も必要だと思う項目を、上位5つまで選んでください。（○は5つまで）

- 1 障害のある人にとって暮らしやすい住まいが確保できること
- 2 食事や入浴、移動など日常生活に必要なサービスや訓練が適切に利用できること
- 3 医療や生活にかかる費用の負担が軽減されること
- 4 相談したいときに、身近な場所ですぐに対応してもらえること
- 5 地域の人々が障害について十分に理解してくれること
- 6 自分の意思を正しく伝え、理解してもらえるようになること
- 7 災害など緊急のときに、一時的に過ごせる場所があること
- 8 自宅で医療ケアを受けられること
- 9 病院や施設、市などが連携して、障害のある人が地域で安心して暮らせるようにすること
- 10 どこに住んでいても、スムーズに移動ができること
- 11 仲間と気軽に集まって過ごせる憩いの場があること
- 12 その他（ ）
- 13 特になし

相談についておたずねします

問16 あなたが不安に思うことや悩みは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 自分の体調のこと | 11 住まいのこと |
| 2 家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと | 12 外出・移動のこと |
| 3 介助してくれる人の健康や体力のこと | 13 就学・進学・教育のこと |
| 4 支援してくれる人のこと | 14 仕事・就職のこと |
| 5 利用できる福祉制度のこと | 15 差別・偏見に関すること |
| 6 生活費や収入のこと | 16 余暇・スポーツ活動のこと |
| 7 介助・介護のこと | 17 緊急時・災害時のこと |
| 8 老後のこと | 18 話し相手のこと |
| 9 家事（炊事・掃除・洗濯）のこと | 19 結婚のこと |
| 10 育児のこと | 20 情報収集のこと |
| | 21 その他（ ） |



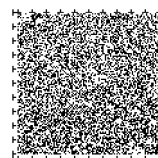
問17 あなたは、ふだん、悩みや困ったことがあるとき、どこに（誰に）相談していますか。
（あてはまるものすべてに○）

1 家族・親族	10 ホームヘルパー等や通所先の事業所の職員
2 友人・知人	11 入所している福祉施設の職員
3 職場の上司や同僚	12 障害者団体や家族会
4 近所の人	13 かかりつけの医師や看護師
5 市役所の窓口	14 病院のケースワーカーや介護保険の ケアマネジャー
6 民生委員・児童委員	15 相談支援事業所・相談支援専門員
7 子育て・障害者総合支援センター （はあとふる）	16 その他（ ）
8 HOT（ほっと）けんステーション※	17 どこにも（誰にも）相談していない
9 社会福祉協議会	

※「ひがしひろしまHOT（ほっと）けんステーション」とは、すべての市民の方を対象に「どこに相談したらよいかわからない人」や「誰にも相談できず悩んでいる人」「困りごとが多くて、どこから手を付けたらいいかわからない」など、あらゆる問題に対応するため、市民の皆さんが安心して暮らすことができる地域共生社会を目指して設置された相談窓口です。場所：東広島市役所2階の地域共生推進課内 TEL（082）420-0932

問18 あなたが相談先に望むことは何ですか。あなたが最も望むことを、上位3つまで選んでください。
（○は3つまで）

1 1か所でどんな相談にも対応できること	
2 身近な地域で気軽に相談できる場所が増えること	
3 障害の特性に応じて専門の相談ができること	
4 障害のある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること	
5 休日や夜間、緊急時でも相談できること	
6 電話・FAX・電子メールでの相談ができること	
7 スマホやパソコンなどで相手の顔を見ながら遠隔で相談できること	
8 自宅や病院、施設を訪問してくれること	
9 年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること	
10 相談員の質を向上させること	
11 その他（ ）	
12 特にない	



問19 あなたは、相談支援専門員がいることを知っていますか。（○は1つ）

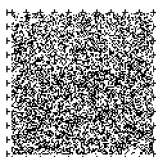
- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 担当の人の名前や顔を知っている | 2 いることは知っているが相談したことはない |
| 3 知らない | |

問20 障害のある人や障害のある子どもを育てた親が、自らの体験に基づいて、同じ仲間である他の障害のある人や親の悩みなどを聞くという取組を「ピアサポート活動」といいます。あなたは、この活動に参加してみたいと思いますか。（○は1つ）

- | |
|---------------------------|
| 1 悩みなどを聞く立場で参加してみたい |
| 2 悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい |
| 3 具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい |
| 4 参加してみたいと思わない |

問21 障害のある人のために、あなたが手助けできそうな活動や協力できそうな活動はありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 悩みを聞くことや相談相手になること | 7 地域の子どもの交流行事の手伝い |
| 2 災害時における避難の手助け | 8 通学時の子どもの見守り活動 |
| 3 通院や買物など外出の手伝い | 9 防犯パトロールなど地域の防犯活動 |
| 4 ごみ出しや掃除の手伝い | 10 その他（ ） |
| 5 電球の取替えなど軽度な手伝い | 11 特にない |
| 6 食事の準備や後片づけ | |



ちいき く
地域での暮らしについておたずねします

問22 あなたは、現在、地域の行事や活動などに参加していますか。コロナ禍以前の活動も含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 自治会の活動 | 8 文化・芸術活動 |
| 2 趣味やサークルの活動 | 9 防災活動や消防団活動 |
| 3 セミナーや講演会などの学習活動 | 10 防犯活動や交通安全活動 |
| 4 障害者団体の集会や活動 | 11 老人クラブ活動や高齢者同士の交流活動 |
| 5 福祉・ボランティア活動 | 12 PTA活動や学校行事の手伝い |
| 6 スポーツ活動 | 13 その他（ ） |
| 7 お祭り・盆踊りなど | 14 参加していない |

問23 あなたとご近所の人との関係は、次のどれに最も近いですか。（○は1つ）

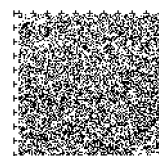
- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 困ったときに助け合う親しい人がいる | 2 お互いに訪問し合う人がいる |
| 3 あいさつや立ち話を程度の人がある | 4 ほとんど近所付き合いはない |

問24 災害時、家族が不在の場合など、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。（○は1つ）

- | | | |
|------|-------|---------|
| 1 いる | 2 いない | 3 わからない |
|------|-------|---------|

問25 東広島市には、避難所が各所に配置されています。あなたは避難所がある場所を知っていますか。（○は1つ）

- | | |
|------------|----------------------|
| 1 場所を知っている | 2 あることは知っているが場所は知らない |
| 3 知らない | |



問26 地震や大雨、台風などの災害時に備えて、あなたは、どのような対策が必要だと思いますか。
(主なもの3つまでに○)

- 1 障害の特性に応じて、避難場所や被害状況の情報が手に入る
- 2 安全な場所まで、すぐに避難できる対策ができている
- 3 災害時でも、周囲の人とコミュニケーションがとれる
- 4 避難するときや避難場所で介助者や支援者が確保できる
- 5 福祉避難所※など障害のある人に配慮した避難場所が確保できる
- 6 障害のある人に配慮したトイレなどの設備が整っている
- 7 避難所生活でプライバシー（間仕切りなど）を守る対策ができている
- 8 避難先でも適切な医療や薬を受け取ることができる
- 9 日頃から防災知識を普及・啓発すること
- 10 日頃から避難訓練を実施すること
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

※ 福祉避難所とは、高齢者や障害のある人、妊産婦、乳幼児など、避難所生活において何らかの特別な配慮が必要な方を対象にした、特別の配慮がなされた避難所のことです。

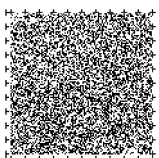
障害のある人への理解についておたずねします

問27 あなたは、障害があることで差別されたことや嫌な思いをする（した）ことがありますか。
(○は1つ)

- | | | |
|------|------|---------|
| 1 ある | 2 ない | 3 わからない |
|------|------|---------|

問28 あなたの周りの人は、あなたの障害のことを理解していると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 十分に理解していると思う | 2 ある程度理解していると思う |
| 3 あまり理解していない | 4 まったく理解していない |



問29 東広島市では、平成31年4月から「障害者の意思疎通手段の確保等に関する条例」（通称：障害者コミュニケーション条例）と「手話言語の認識の普及に関する条例」（通称：手話言語条例）の二つを施行しました。あなたは、このことを知っていますか。

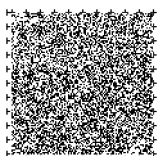
（あてはまるものすべてに○）

- 1 障害者コミュニケーション条例を知っている
- 2 手話言語条例を知っている
- 3 どちらも知らない → 次は問31へ

【 問29で「1～2」を選んだ方におたずねします。 】

問30 どこで知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

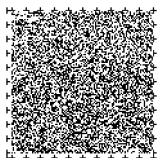
- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 市の広報紙やホームページ | 6 家族や親族、友人や知人 |
| 2 市役所の窓口 | 7 障害者団体や家族会 |
| 3 パンフレット | 8 社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所 |
| 4 新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど | 9 その他（ ） |
| 5 公民館などでの出前講座や講演会 | |



問31 あなたは、人とコミュニケーションをとるときに、どのようなことに困っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 相手が何を話しているのか理解できない
- 2 自分の言いたいことが相手に伝わらない、または間違っ^{まちが}て^{つた}伝わる
- 3 自分の意見を言うタイミングがつかめない
- 4 災害時など緊急の連絡ができない、または連絡を受け取れない
- 5 手話や筆談、点字や音訳などをしてもらう必要がある
- 6 手話通訳や要約筆記をしてくれる人が少ない
- 7 公共の場で放送やアナウンスが聞きとれない
- 8 相手にマスクを外してもらう必要がある
- 9 一度にたくさんのことを言われると混乱してしまう
- 10 意思を伝えるために特殊な機械や装置が必要である
- 11 電話リレーサービス※が周知されていない
- 12 その他 ()
- 13 困っていることはない

※ 電話リレーサービスとは、インターネットにつながるスマホ・タブレット・パソコンを利用して、聞こえない、聞こえにくい人が、手話言語や日本語の文字で話したい内容を送ると、オペレーターが手話言語や日本語の文字を、相手に音声でリアルタイムに伝えてくれるサービス。



問32 あなたは「成年後見制度※」を知っていますか。（○は1つ）

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉を知っているが、内容は知らない
- 3 言葉も内容も知らない → 次は問34へ

※「成年後見制度」とは、認知症、知的障害、精神障害などで判断能力の不十分な方が、自立して生活できるように、援助してくれる人（後見人など）を家庭裁判所に選んでもらう制度です。これにより、自分一人では困難な不動産や預貯金などの財産の管理や各種契約が安全に行えるようになります。

【問32で「1～2」を選んだ方におたずねします。】

問33 どこで知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 市の広報紙やホームページ | 6 家族や親族、友人や知人 |
| 2 市役所の窓口 | 7 障害者団体や家族会 |
| 3 パンフレット | 8 社会福祉協議会や福祉施設、相談支援事業所 |
| 4 新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど | 9 その他（ ） |
| 5 公民館などでの出前講座や講演会 | |

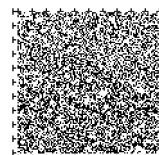
問34 あなたは「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 利用したいと思う → <u>次は問36へ</u> | 2 利用したいとは思わない → <u>次は問35へ</u> |
|----------------------------|-------------------------------|

【問34で「2」を選んだ方におたずねします。】

問35 利用したいとは思わない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 後見人でなくても家族がいるから
- 2 制度の内容や利用方法がよくわからないから
- 3 手続きが複雑そうだから
- 4 利用するための費用が心配だから
- 5 後見人になってほしい人が見当たらないから
- 6 他人に財産を管理されることに抵抗があるから
- 7 家庭裁判所に申立てることに抵抗があるから
- 8 制度に良いイメージがないから
- 9 その他（ ）
- 10 特に理由はない



就労や日中の活動についておたずねします

問36 あなたは、現在、働いて収入を得ていますか。（○は1つ）

- 1 正社員として働いている
- 2 パート・アルバイト等や派遣社員として働いている
- 3 自宅で働いている（自営業、創作活動などによる収入）
- 4 通所施設に通って賃金（工賃）をもらっている → 次は問37～39へ
- 5 働いていない（またはできない） → 次は問40へ

【問36で「4」を選んだ方におたずねします。】

問37 あなたは今後、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか。（○は1つ）

- 1 思う
- 2 思わない

【問36で「1～4」を選んだ方におたずねします。】

問38 あなたは、今後も現在の仕事を続けたいと思いますか。（○は1つ）

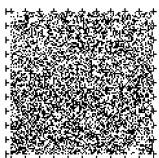
- 1 思う
- 2 思わない

【問36で「1～4」を選んだ方におたずねします。】

問39 あなたが仕事をするうえで、不安や不満を感じることがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 障害者用の設備が十分でない | 8 仕事がむずかしい |
| 2 通勤するのがたいへん | 9 仕事がきつい |
| 3 自分の体力や能力に合った内容の求人や仕事がない | 10 施設の外で仕事をすることができない |
| 4 職場の人間関係がむずかしい | 11 収入が安定しない |
| 5 昇級や昇進が平等ではない | 12 困ったことを相談できる相手がいない |
| 6 賃金（工賃）が少ない | 13 その他（ ） |
| 7 職場での待遇が不安定 | 14 特にない |



問40 障害があっても働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(主なもの5つまでに○)

- 1 通勤手段が確保されていること
- 2 通勤にかかる費用が軽減されること
- 3 職場にバリアフリーなどの配慮があること
- 4 短時間勤務など柔軟な働き方ができること
- 5 働きながら通院できること
- 6 職場で差別がないこと
- 7 障害のある仲間と一緒に働けること
- 8 職場に介助などの支援をしてくれる人がいること
- 9 障害があっても働ける場所が増えること
- 10 就労に向けた相談の場が充実していること
- 11 就労の準備のためにかかる交通費などの費用が軽減されること
- 12 専門的な技術を身に着ける職業訓練が充実していること
- 13 家で働くことやテレワークなどいろいろな働き方ができること
- 14 ホームページの作成などパソコンを使って仕事ができること
- 15 音楽や美術など創作活動を生かした仕事ができること
- 16 その他（ ）
- 17 特にない・わからない

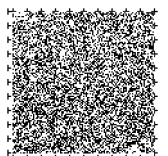
問41 あなたは「農福連携※」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

※「農福連携」とは、障害のある人が農業に従事することによって、農家にとっては貴重な働き手になるとともに、働く場の確保や地域との交流の促進など、生活の質の向上が期待される国が推進する取組です。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 言葉も内容も知っている | 2 言葉を知っているが、内容は知らない |
| 3 言葉も内容も知らない | |

問42 あなたは、農業に従事することに、どの程度関心がありますか。(○は1つ)

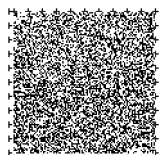
- | | |
|------------|-----------------|
| 1 とても関心がある | 2 どちらかといえば関心がある |
| 3 あまり関心はない | 4 まったく関心はない |



東広島市の福祉施策についておたずねします

問43 あなたは、障害のある人にとって暮らしやすいまちをつくるためには、東広島市はどのような
 取組に力を入れるべきだと思いますか。あなたが最も力を入れるべきだと思う項目を、上位5
 つまで選んでください。（〇は5つまで）

- 1 誰もが障害について学び、理解を深める機会を増やす
- 2 身近な場所ですぐに相談できる場所を増やす
- 3 財産や権利を守る支援を充実する
- 4 障害福祉サービスを利用しやすくする
- 5 医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する
- 6 災害時の避難支援体制を充実する
- 7 地域で生活するための住まいを確保する
- 8 医療・保健・福祉に関する情報提供を充実する
- 9 障害福祉サービスから介護保険サービスへスムーズに移行できる体制を整える
- 10 就労のための支援や働く場を増やす
- 11 参加しやすいスポーツ、芸術・文化活動、生涯学習を充実する
- 12 障害があっても移動しやすい道路や交通機関など利便性を向上する
- 13 施設や建物をバリアフリー化する
- 14 手話や音声などを活用し情報を手に入れやすくする
- 15 住民と障害のある人がふれあう機会やコミュニケーションの場を充実する
- 16 その他（ ）
- 17 特にない



問44 「しょうがい」という言葉について、東広島市では、今後、どのような表現にすべきか検討を進めており、多くの人からご意見をうかがっているところです。現在、東広島市では漢字で「障害」を使っていますが、その他にさまざまな表現があります。あなたは、どのように思いますか。（○は1つ）

- 1 「障害」のままでよい
2 どちらでもよい

→【次は問46へ】

- 3 変えたほうがよい

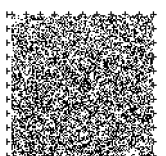
【問44で「3」を選んだ方におたずねします。】

問45 あなたは、どの書き方がふさわしいと思いますか。（○は1つ）

- 1 障がい 2 障碍 3 しょうがい
4 その他（ ） 5 どれでもよい

問46 東広島市の障害福祉の取組について、今後どのようなことを希望しますか。

～ ご協力ありがとうございました ～



東広島市 福祉に関するアンケート調査
報告書（18 歳以上）

発 行 者／令和 5（2023）年 3 月
東広島市 健康福祉部 障害福祉課
〒739-8601 広島県東広島市西条栄町 8 番 29 号
電 話（082）420—0180
FAX（082）420—0181
E-Mail hgh200180@city.higashihiroshima.lg.jp
